

高松市埋蔵文化財調査報告 第68集

都市計画道路福岡三谷線街路事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第二冊

宗高坊城遺跡

2004年3月

高松市教育委員会

例言

1. 本書は、都市計画道路福岡三谷線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第2冊目で、高松市林町に所在する宗高坊城遺跡の調査報告を収録した。
2. 発掘調査及び整理作業については、高松市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の関係機関の助言と協力を得た。記して謝意をしたい。
香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 讃岐文化遺産研究会
4. 宗高坊城遺跡の調査は、平成10・11年度に文化振興課 文化財専門員 山元敏裕、小川賢が行い、整理作業も同2名が行った。
5. 報告書掲載の遺物写真撮影は、杉本和樹氏（西大寺フォト）に委託した。
6. 第4章第2節 宗高坊城遺跡出土土器の胎上分析について白石純氏（岡山理科大学）に委託した。
7. 第4章第1節 高松市宗高坊城遺跡より出土した赤色顔料付着遺物の蛍光X線分析を魚島純一氏（徳島県立博物館）に依頼し、玉稿を頂いた。
8. 本書の第3章第7節・第5章第2節の執筆を山元が、それ以外の執筆は小川が行い、編集は山元・小川が行った。
9. 本文の挿図として、国土地理院発行2万5千分の1地形図「高松南部」及び高松市都市計画図2千五百分の1「林」を一部改変して使用した。
10. 発掘調査で得られたすべての資料は、高松市教育委員会が保管している。
11. 本報告書の高度値は海拔高を表し、方位は座標北を表す。
12. 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SB：掘立柱建物 SK：土坑 SE：井戸 SD：溝 ST：墓 SR：田河遺 SX：不明遺構
13. 土壌及び土器観察の色調表現は、新版 標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修）による。

目次

例言・目次	1
第1章 調査の経緯と経過	
第1節 調査の経緯	2
第2節 調査の経過	2
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	
第1節 調査区の設定と遺構番号	12
第2節 遺跡の概要と基本層序	12
第3節 I・II区	13
第4節 V・VI区	30
第5節 III区	33
第6節 IV区	35
第7節 VII区	37
第4章 自然科学的分析・胎上分析	
第1節 高松市宗高坊城遺跡より出土した赤色顔料付着遺物の蛍光X線分析について	42
第2節 宗高坊城遺跡出土土器の胎上分析について	43
第5章 まとめ	
第1節 遺構の変遷について	51
第2節 出土弥生土器について	51
宗高坊城遺跡出土遺物観察表	52
写真図版	

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

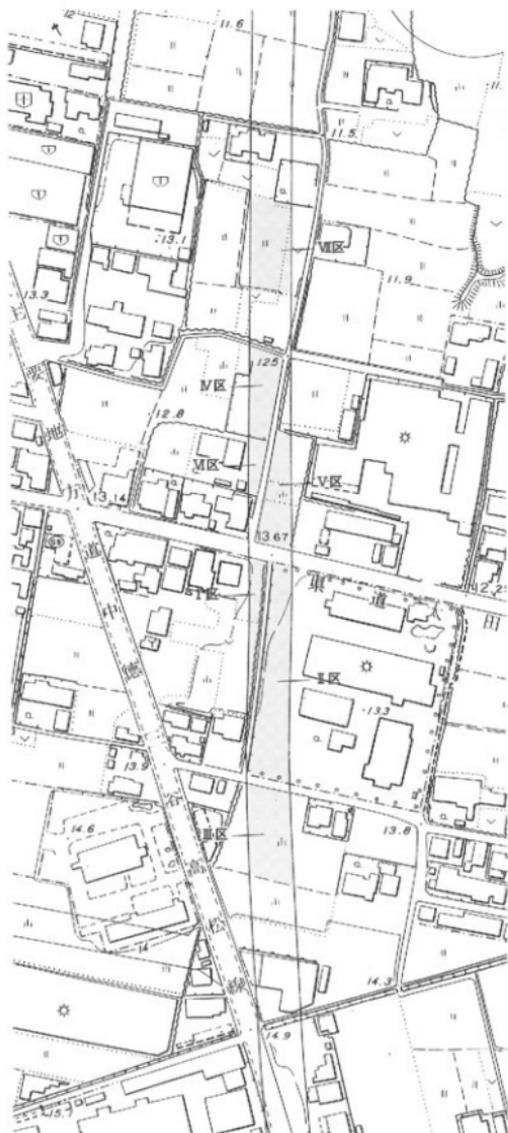
宗高坊城遺跡は、香川インテリジェント・パークから四国横断自動車道高松中央インターチェンジへと続く都市計画道路福岡三谷線南工区予定地内において所在が明らかとなった遺跡である。この高松中央インターチェンジ付近には、縄文時代晩期～弥生時代を中心とする林・坊城遺跡が、香川インテリジェント・パーク付近では、弥生時代～近世に至る複合遺跡である空港跡地遺跡が所在し、これらの中間に位置する本遺跡は、計画当初から遺跡の所在が想定されていた。

平成10年度に新規工事区間について発掘調査を実施した他、拡幅工事区間についても随時、工事立会を行い遺跡の確認調査を行った。その結果、新規工事区間内のうち、埋蔵文化財が確認された延長約350mの区間について、発掘調査を行うことで事業主管課である都市計画課と合意した。

第2節 調査の経過

発掘調査は、上記の区間内のうち、現有道路、用水路、宅地跡を除き、その結果7分割された調査区（計4,058m²）について実施した。調査区の北端となるⅥ区については、高松市教育委員会の直営で平成11年6月10日～8月13日の期間において調査を行った。残るⅠ～Ⅴ区の調査については、(株)大工務店に発掘調査掘削工事を委託し、平成11年3月23日～9月17日の期間で調査を行った。

また遺跡の空中写真撮影・測量図化の作業については、航空測量業務として(株)国際航業に委託し、平成11年6月18日、8月11日、9月8日に行った。



第1図 調査区位置図 (1/2,500)

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のはほぼ中央部に低い山塊に囲まれた高松平野がある。平野は南から五色台へと続く山地を西限とし、立石山山地を東限とし囲まれた東西20 km、南北16 kmの範囲に及んでいる。いずれの山地も花崗岩の上に緻密で侵食の受けにくい安山岩がギャロップと呼ばれる形でかぶさっており、そのため平野周囲の山塊のように侵食解析から取り残された台状の平坦面を有する山地（メサ）、あるいは平野内部に見られる由良山等の孤立丘（ビュート）となっており、高松平野の自然環境を特徴付けている。

高松平野は、完新世に入ってから形成されたもので、讃岐山脈から流下し瀬戸内海へと注ぐ香東川をはじめ、木津川、春日川、新川などによって搬出された堆積物による緩やかな傾斜の扇状地を形成している。

石清尾山山塊の西を直線に北流する香東川は、17世紀に人工的に改変されたもので、それ以前は石清尾山山塊の南側を回り込んで平野中央部を東北方向に流れていた。高松平野には、これ以外にも旧流路は存在し、現在では水田および市街地の地下に埋没してしまっているが、空中写真等から、林町から木太町へかけての分ヶ池、下池、長池、大池、ガラ池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており、発掘調査でもその痕跡が確認されている。今回の調査地である宗高坊城遺跡も旧河道を確認している。



第2図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

高松平野中央部では、大池遺跡で表探された縄文時代草創期の有舌尖頭器が最古の事例として上げられる。長い空白の後、縄文時代晩期に居石遺跡、林・坊城遺跡が旧河道に沿って見られる。土掘り具と考えられる石器や伐採具（居石）、諸手鋸や手鋸（林・坊城）の木製品があり、平野部での開墾・初期農耕の状況がうかがわれる。

続く弥生時代前期には、上西原遺跡で大哇呼並びに小区画水田が検出され、さこ・長池Ⅱ遺跡でも前期末を下限とする小区画水田が広範囲に検出されている。集落では、前期中葉～後半にかけての天満・宮西、波佐遺跡で環濠が確認されている。中期では掘立柱建物、聚穴住居からなる集落が日暮・松林、松林、多肥・松林遺跡に所在し、またこの下流域となるさこ・長池遺跡周辺にも集落が所在している。後期では遺跡数が増加し、主要な集落として上天神遺跡、空港跡地遺跡、天満・宮西遺跡、門原遺跡、日暮・松林遺跡が挙げられる。

古墳時代になると、石清尾山山塊では著名な積石塚古墳が造営され、平野中央部の空港跡地遺跡においては前方後円・前方後方形の周溝墓をはじめ墳墓群が検出されている。一方、居石遺跡では、旧河道に設けられた取水口近くより3面の小形?製鏡が出土し、さらに取水口からのびる溝では木樋が確認されており、水配及び灌漑施設整備の状況が窺える。その後の中期・後期では、大条・上所遺跡、太田下・須川遺跡で集落跡が見られるが、総じて集落数は少ない。

古代の高松平野では、日本最古の荘園絵図とされる「弘福寺領讃岐国山田郡田区」比定地が所在し、また条里遺構に関するものが目立つ。田区北地区比定地より北東に位置する木太本村Ⅱ遺跡では、8世紀代の井戸が確認されている。条里に関連した遺構の検出例は多く、中でも松縄下遺跡の道路状遺構は7世紀後半に位置づけられ、条里施工の初現とされている。また、さこ・長池Ⅱ遺跡では旧香川・山田郡界上に道路状遺構を検出している。

中世では、神内城跡、佐藤城跡（キモンドー遺跡）に関連する堀跡などが検出されている。空港跡地遺跡では区画溝をもつ居館跡等、中世期を通じて遺構・遺物が確認されており、平野部での村落の様相を窺い知ることとなった。

また、空港跡地遺跡周辺では旧軍用飛行場建設によって地割が大きく改変されているが、発掘調査によって検出した条里溝等から近世・近代期の失われた景観の復原が試みられている。



- | | | | | |
|-----------------|------------|-----------------|-------------|------------|
| 1 木太中村遺跡 | 2 白山神社古墳 | 3 木太本村Ⅱ遺跡 | 4 天満・宮西遺跡 | 5 キモンドー遺跡 |
| 6 松崎下所遺跡 | 7 境目・下西原遺跡 | 8 上西原遺跡 | 9 大池遺跡 | |
| 10 弘福寺領田園比定地北地区 | 11 上天神遺跡 | 12 太田下須川遺跡 | 13 蛙設遺跡 | |
| 14 居石遺跡 | 15 井手東Ⅱ遺跡 | 16 井手東Ⅰ遺跡 | 17 さこ・長池Ⅱ遺跡 | 18 さこ・長池遺跡 |
| 19 さこ・松ノ木遺跡 | 20 林・坊城遺跡 | 21 六条・上所遺跡 | 22 宗高坊城遺跡 | 23 浪仏遺跡 |
| 24 多肥庵寺 | 25 凹原遺跡 | 26 日暮・松林遺跡 | 27 多肥松林遺跡 | 28 松林遺跡 |
| 29 多肥松林遺跡 | 30 多肥宮尻遺跡 | 31 弘福寺領田園比定地南地区 | 32 宮西・一角遺跡 | |
| 33 一角遺跡 | 34 空港跡地遺跡 | | | |

第3図 宗高坊城遺跡周辺主要遺跡分布図 (1/25,000)

Y=52.990

X=144.090

Y=53.000

II 区

Y=53.020

X=144.090

I 区

X=144.080

X=144.070

X=144.060

X=144.050

Y=52.990

X=144.040

第21图
西壁土层图

SR01

SR02

SR01

SR02

SR02

第11图
东壁土层图①

X=144.080

X=144.070

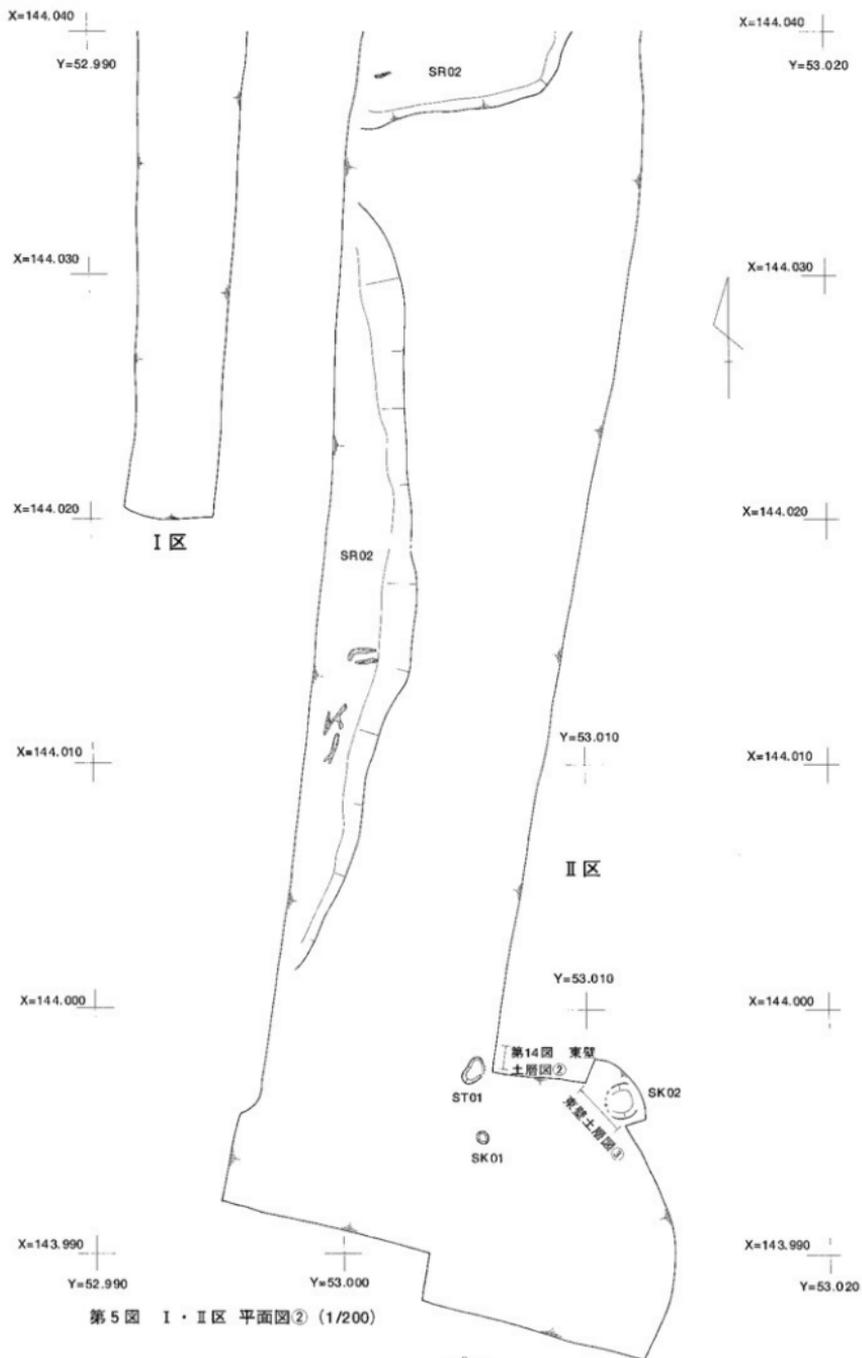
X=144.060

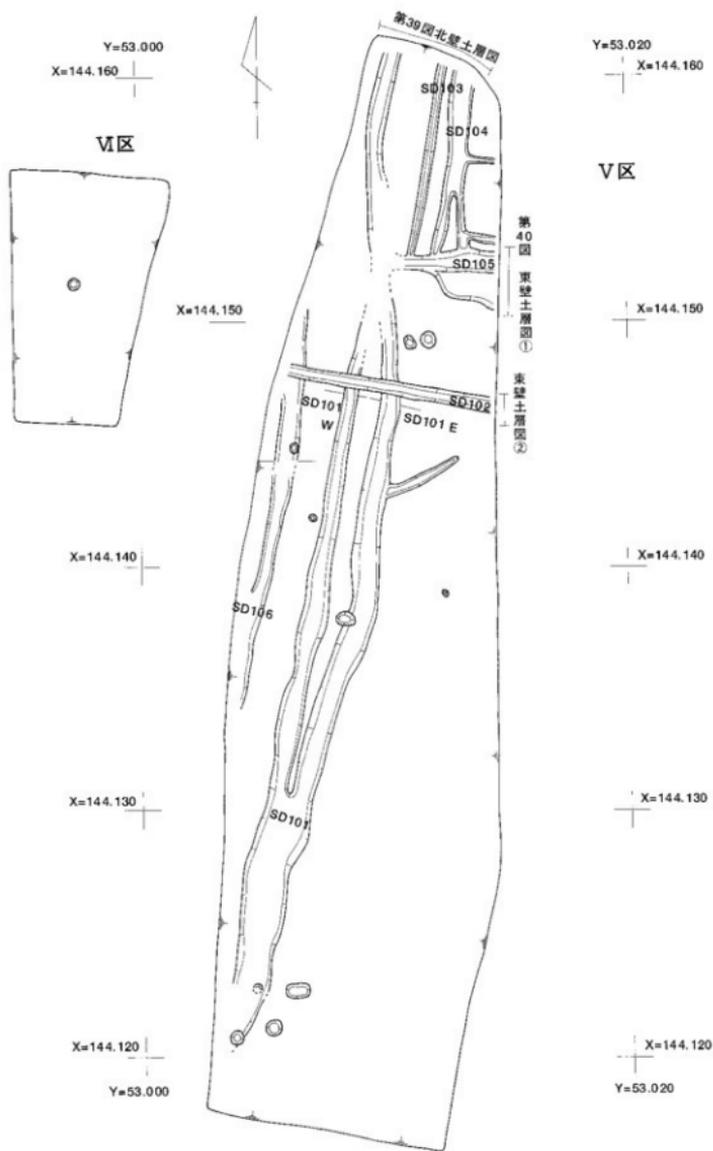
X=144.050

X=144.040

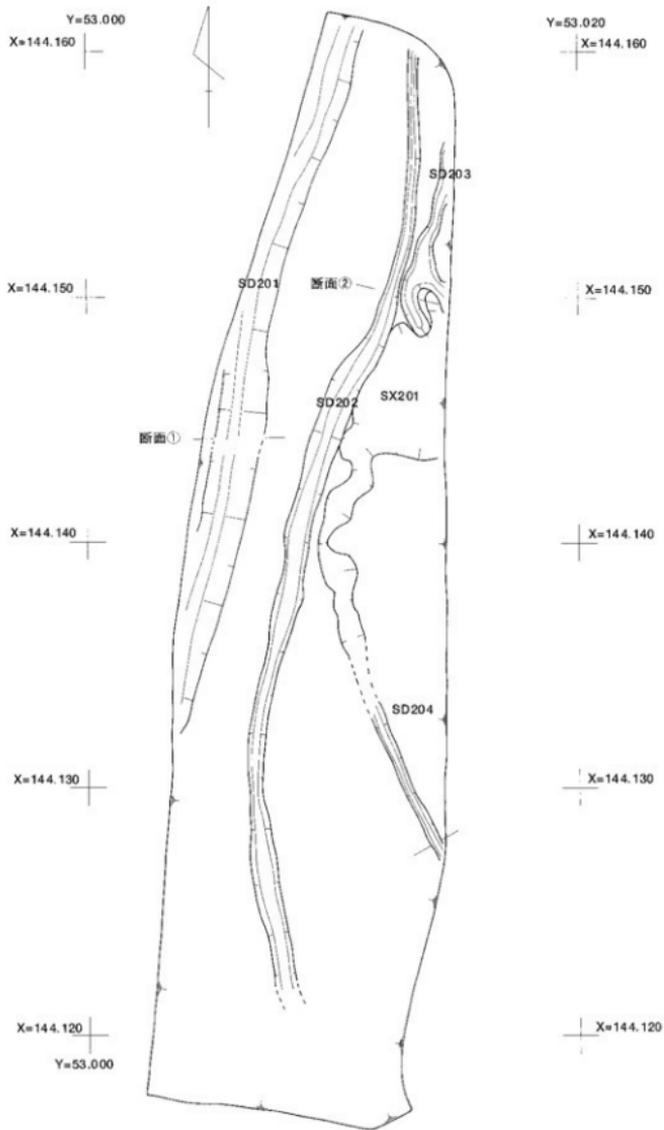
Y=53.020

第4图 I·II区 平面图① (1/200)

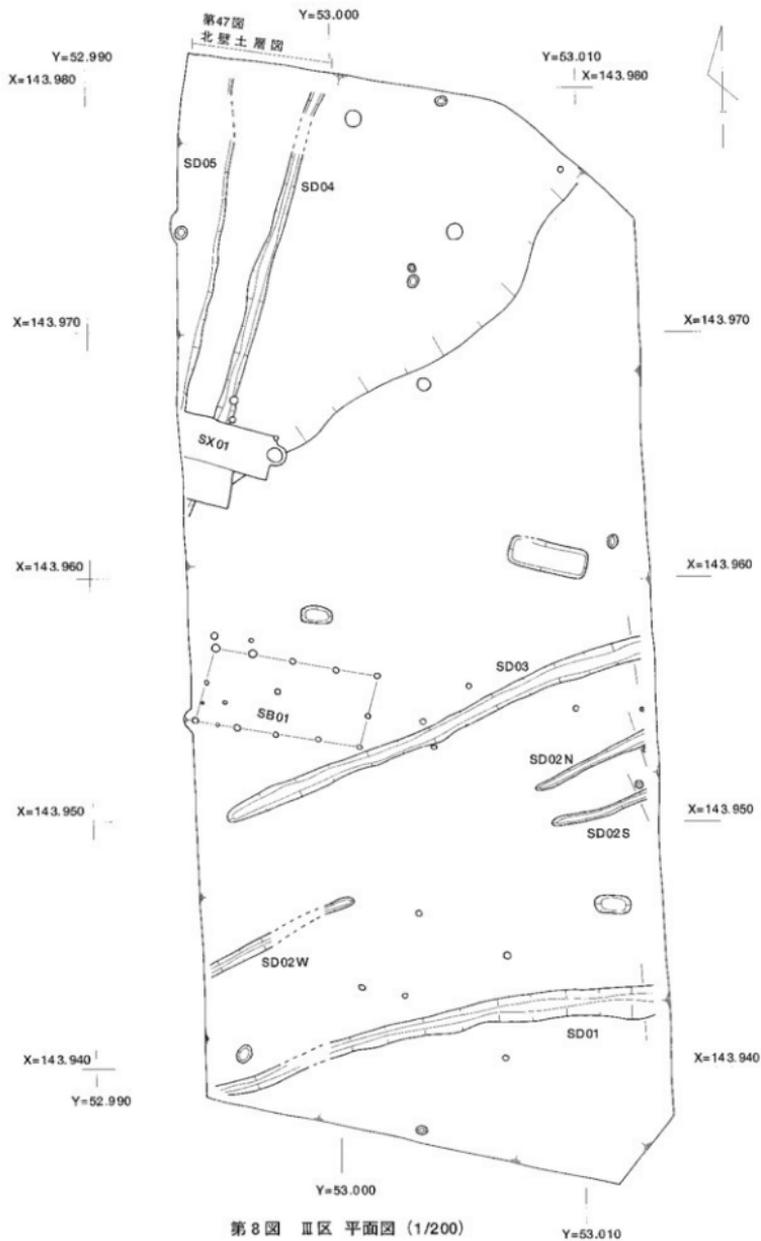


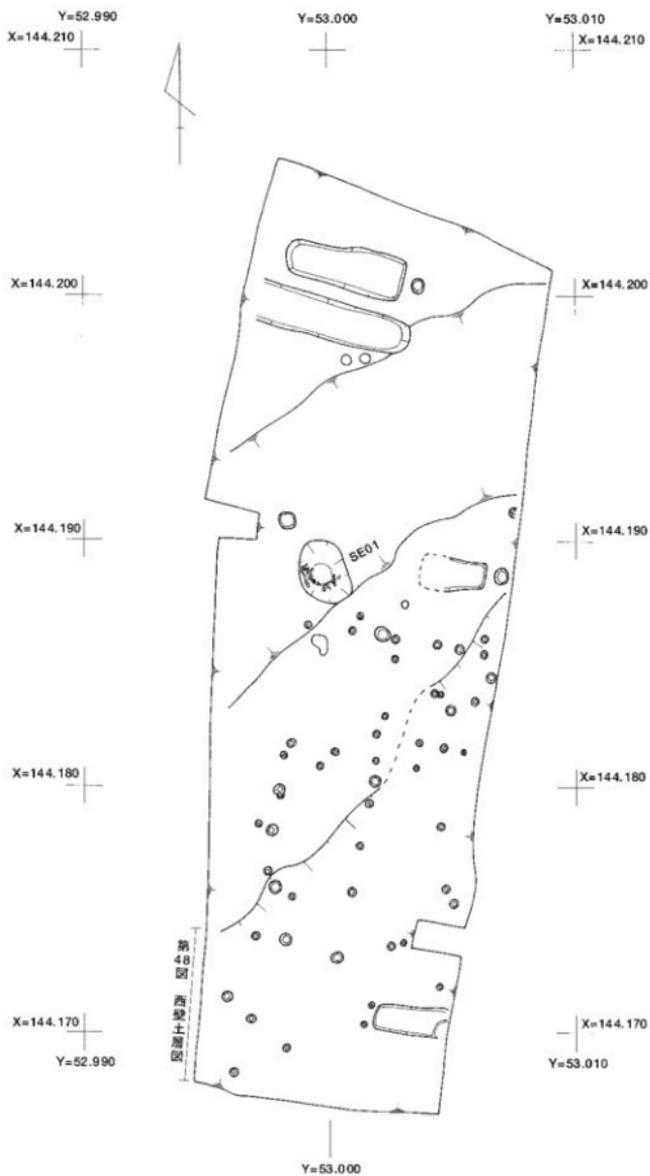


第6図 V・VI区 第1遺構面 平面図 (1/200)



第7图 V区 第2结构面 平面图 (1/200)





第9图 IV区平面图(1/200)

Y=53.010

X=144.280

X=144.260

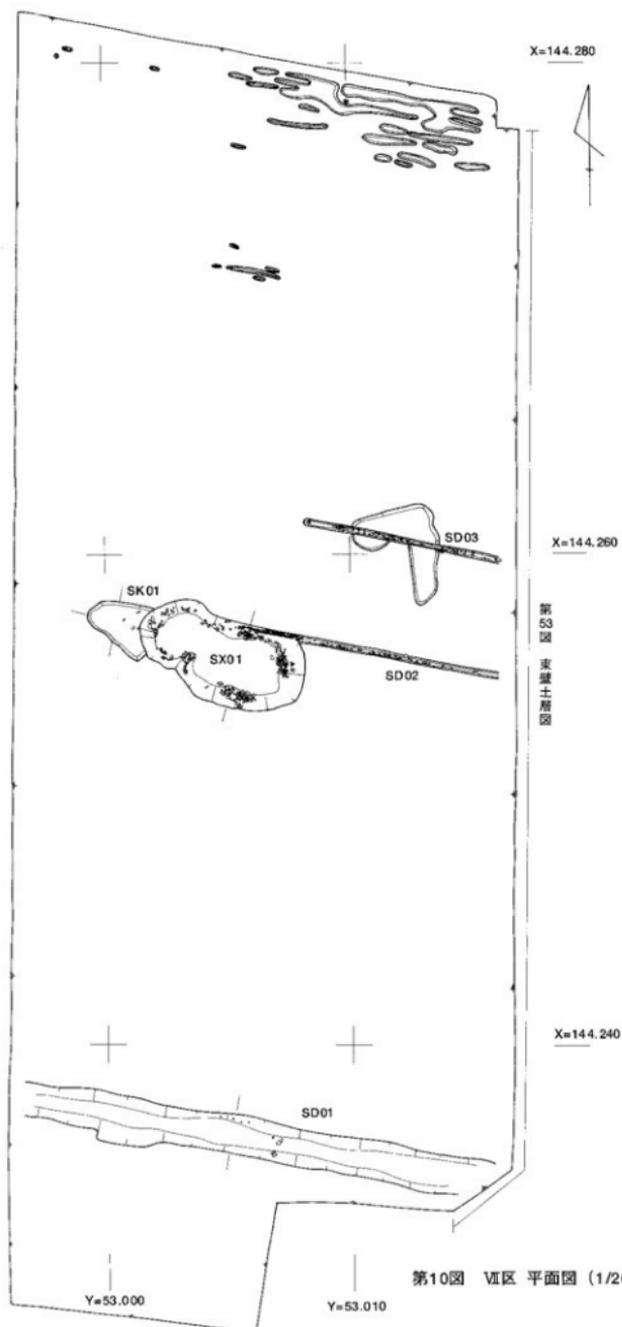
第53号
東壁土層図

X=144.240

Y=53.000

Y=53.010

第10图 VI区 平面图 (1/200)



第3章 調査の成果

第1節 調査区の設定と遺構番号

宗高坊城遺跡の発掘調査は、現有の道路等により7分割される。委託業務で行った調査区は、その調査順序に従いⅠ～Ⅵ区と呼称し、直管で行った調査区については、Ⅶ区と呼称する。

遺構番号については、煩雑なものについては整理作業時に随時変更を行った。なお今回、ピット及び鐘跡等であまりを持たないものについては報告の対象外とした。また近世・近代期の遺構・遺物についても省略し、重要と考えられるものについては概要のみを示している。

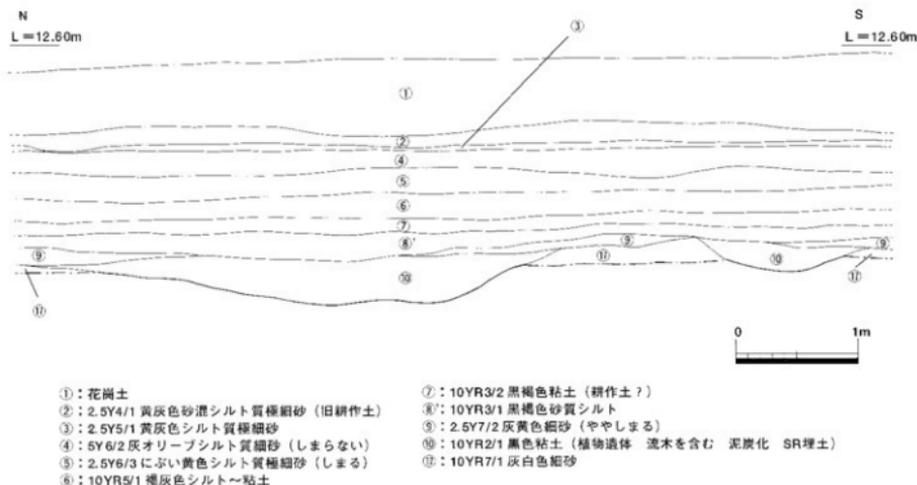
第2節 遺跡の概要と基本層序

1 遺跡の概要

旧河道となるⅠ・Ⅱ区で縄文時代晩期～弥生時代前期の複数の流路を確認した。また、旧河道の兩岸で弥生時代後期～古墳時代の遺構及び遺物包含層を確認した。Ⅴ区では古代の溝、弥生時代後期の溝を2面で検出した。Ⅲ・Ⅳ区は全体的に近代に属するもので占められるが、Ⅲ区で古代の溝、Ⅳ区で弥生時代後期～古代の遺物包含層を確認した。

2 基本層序

本遺跡は、旧地形によりⅠ・Ⅱ区が埋没旧河道、Ⅲ～Ⅵ区が低地～微高地となる。遺跡全体の堆積層を上位から概観すると、中近世以降の耕作土と考えられるシルト質極細砂→古墳時代～古代の所産と考えられる褐灰～灰褐色シルト質粘土・弥生時代後期～古墳時代初頭の所産と考えられる黒褐色砂混じりシルト→安定した砂層→縄文時代晩期～弥生時代前期の泥炭化層→厚く不安定な砂層の順で見られる。Ⅲ・Ⅳ区の微高地上では、ほぼ表土及び旧耕作土直下で、遺構のベース面となる黄色砂及び礫層が認められる。



第11図 Ⅱ区 東壁土層図 (1/40)

第3節 I・II区(第4・5図)

1 旧河道

SR01 : I・II区の北端部を北東へと走る旧河道である。検出レベルは、I区で11.10m前後、II区で11.00m前後である。底面は、I区で10.55m前後、II区で10.25mを測る。埋土は、泥炭化した黒褐色粘土で流木等の植物遺体を含む。出土遺物は第12図2他土器片数点のみである。

SR02 : I区中央部、II区を蛇行する旧河道である。幾つかの支流に分かれ、II区中央部で溜り状となる。検出レベルは、I区で11.00m前後、II区で11.00~11.25m。底面は、10.40m~10.80m前後を測るが、流路の方向が明確なものではない。埋土は、SR01と同様に泥炭化した黒褐色粘土に流木等を含む。所属時期を示す出土遺物は第12図1のみである。



第12図 SR01・02出土遺物(1/4)

SR01・02より下位では、厚い砂の堆積が見られ、より富力の大きな旧河道の存在が窺える。両旧河道とも湿地状の堆積物で充填されており、大きな旧河道の水流が停滞していた時期のものと考えられる。この時期は、出土遺物から縄文時代晩期～弥生時代前期と考えられ、これ以降弥生時代後期までの間では、水流を示す薄い砂層と緩慢な自然堆積と考えられる粘土層が認められる。この緩慢な堆積が見られる間、旧河道付近は比較的安定していたと考えられ、II区南部では遺構が検出されている。以後、明確な砂層の堆積は認められず、常時は低湿地状の環境であったと考えられる。なお、II区南部で溜り状となったSR02の南東側で、蛇行する支流が調査区東端の観察により確認されたが、出土遺物が極めて希薄であったため、掘削を行わなかった。

SR01・02出土遺物(第12図) : 1は、縄文土器深鉢。屈曲型の突帯文土器でI区縁部端部に刻みが施される。2は、弥生土器甕。如意口のI区で胴部に多条沈線文が見られる。1は縄文時代晩期後半、2は弥生時代前期中葉と考えられる。

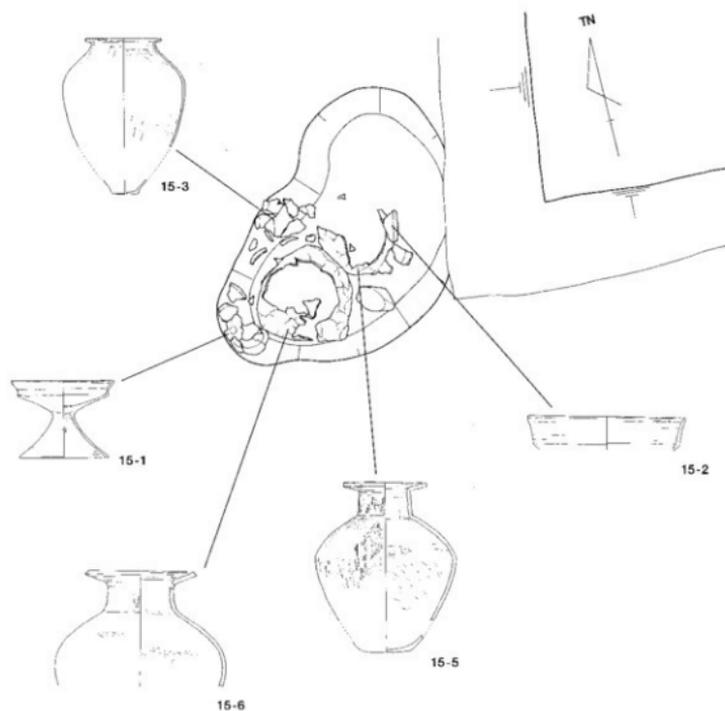
2 II区遺構

ST01(第13~15図) : II区南東部で確認した土器棺蓋である。検出レベルは、11.50m~11.48m、底面は、11.38m前後を測る。検出した掘方の平面形状は、不正な長方形で長軸方向に約1.18m、短軸方向に0.78mを測る。但し、遺構の埋土は⑥層であるが判別がつかずに掘削したため、遺物が露出した状態となる⑨層上面で検出を行っている。遺物は、壺(6)が北西に口を向け、壺(5)は反対方向の南東方向に口を向け横たえられていた。共に、胴部上面が欠損している。蓋と考えられる大形鉢(2)が、壺(5)の胴部に、高杯(1)・甕(3)が壺(6)の両肩に置かれる。また壺(6)の底部と壺(5)の頸部の間に頭大の石が据えられていた。他の4, 7, 8の遺物は、北半の空いたスペースに埋納されていたものと考えられるが断定できない。

ST01出土遺物(第15図) : 1は高杯。2は大型の鉢。3は甕。4は、広口壺I区縁部で、I区縁部端部に屈曲文が施される。5・6は広口壺。7は鉢の底部。8は壺(?)の底部。整理時において、いずれも接合部の状態が悪く、出土時の状態に比べ、接合・復元できる割合が少なかった。1・2・3・5・6の形態から、弥生時代後期後半、大嶋編年(大嶋2001)の様相4に位置づけられる。

SK01(第13・14・16図) : II区南東部で確認した土坑である。検出レベルは、11.61m~11.63m、底面は、11.41m前後を測る。検出した平面形態はほぼ円形で、長軸方向は約0.45m、短軸方向は0.4mを測る。埋土は、黒褐色シルトの単層である。遺物は、甕(1)、小型鉢(2)が出土した。これらの遺物及び確認面から、上記のST01と同じ時期と考えられる。

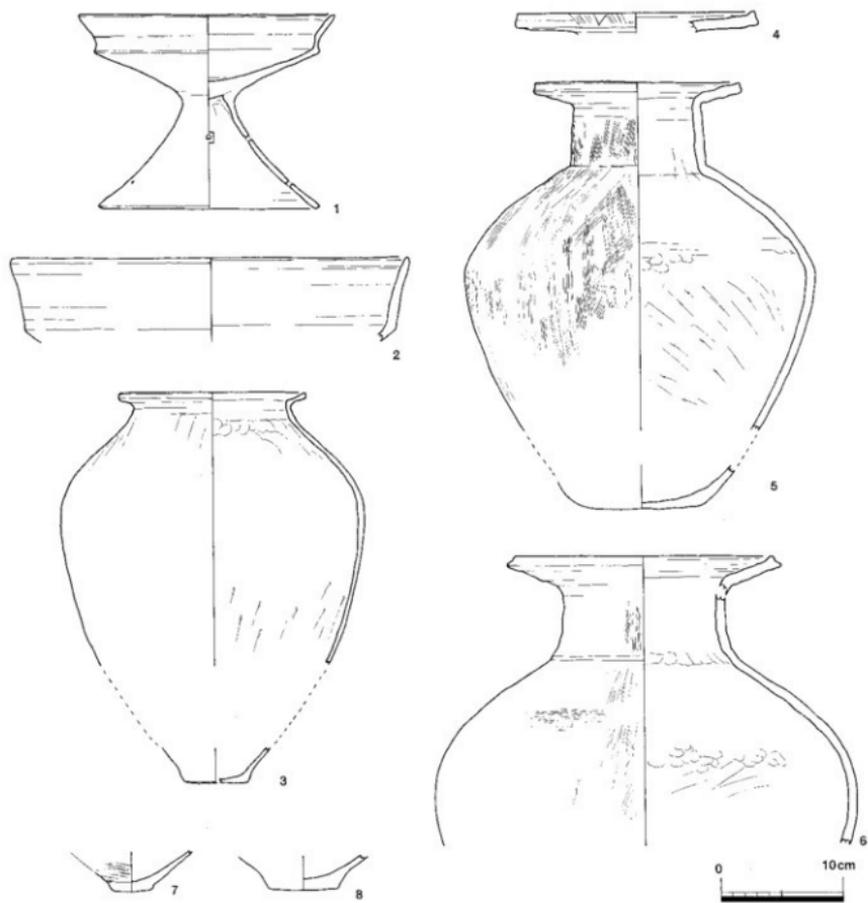
SK02(第17・18図) : II区南東部で確認した土坑である。調査区東端で確認したため、一部は調査区外に広がるため未調査となった。検出レベルは、12.00~11.88m、底面は、11.80m前後を測る。検出した平面形態はほぼ円形と考えられ、長軸は約1.5mを測る。埋土は、黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は、小形の壺(1)が出土している。層序及び出土遺物から、古墳時代前期と考えられる。



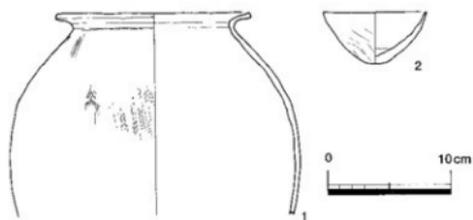
第13図 II区 ST01・SK01遺物出土状況図 (1/20)



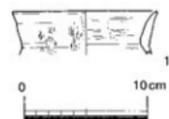
第14図 II区 東壁土層図②・SK01断面図 (1/40)



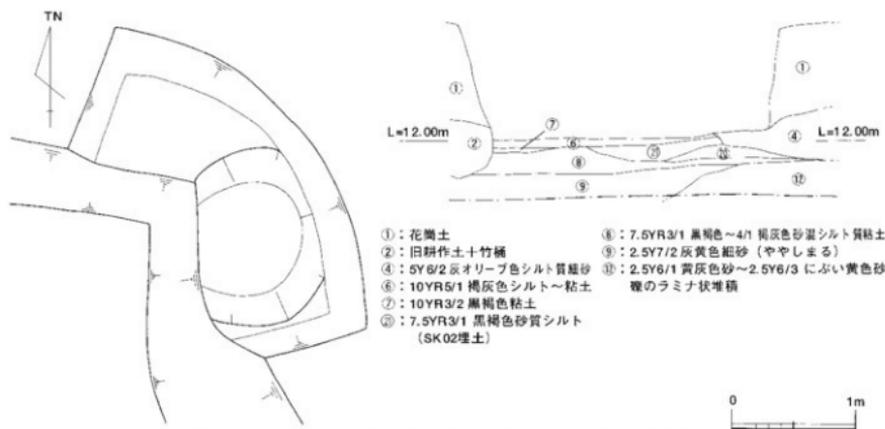
第15图 II区ST01出土遗物 (1/4)



第16图 II区SK01出土遗物 (1/4)



第17图 II区SK02出土遗物 (1/4)



第18図 II区SK02平面図(1/40), II区東壁土層図③(1/40)

3 II区遺物包含層

II区南東部を中心に、遺物を包含した黒褐色～褐灰色土層(⑧層)が認められた。遺物は摩滅・風化が著しいが、30°入コンテナで約2箱分が出土した。

4 II区⑧層出土遺物(第19図)：1～3は高杯。4・5は、頸部が直線的に外傾する細頸壺。6～9は甕。10～14は底部。14は製土器で、胎土に角閃石を多く含む。15～18は広口壺。15～17は下川津B類土器に類するが、やや黄色みを帯び角閃石が少ない。19の頸部と体部境には、刺突文が見られる。20・21は壺の頸部。石器はS1の打製石砲丁のみで、本遺跡全域においても石器類の出土は極めて少ない。以上の出土遺物より、⑧層は弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の堆積物と考えられる。

5 I区遺物包含層

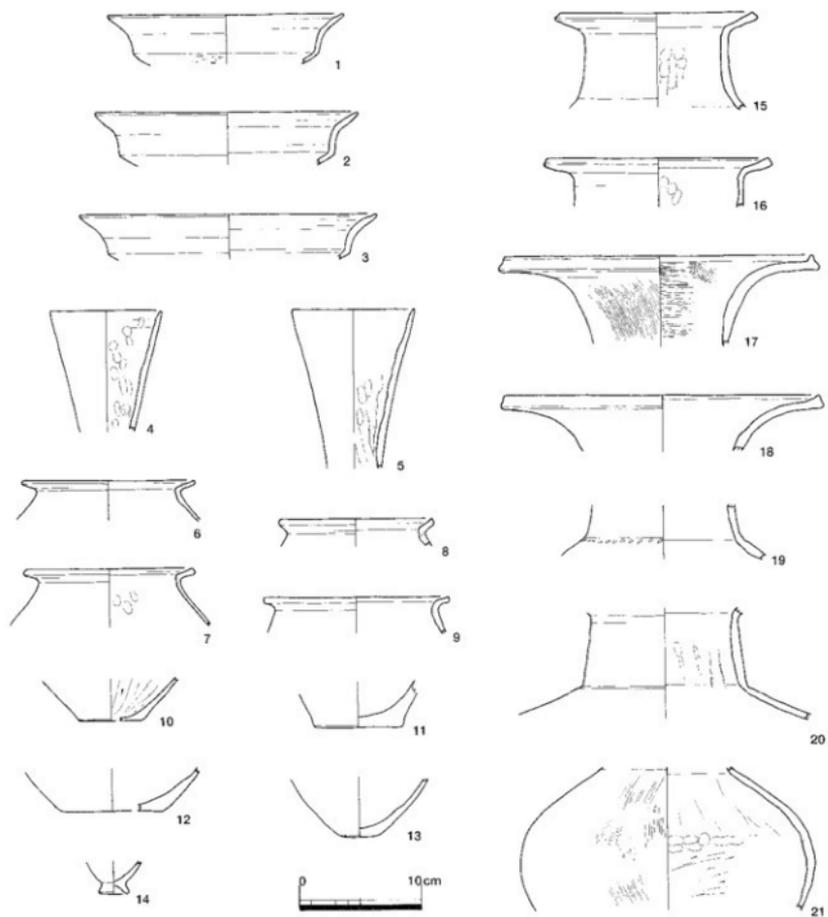
I区⑩層(第20・21図)：I区の北端部、埋没旧河道西岸で確認した多量の遺物を包含する堆積層である。黒褐色の土砂(砂礫混じりシルト)に30°入コンテナで約50～60箱分の土器片・木片を含んでいた。⑩層は、SR01の埋土とした泥炭化層(⑤層)と西端部では安定した砂層の上部に、約30～40cmの厚さで堆積する。堆積状況や微高地上のV区遺構埋土(⑤・⑥層)と類似した堆積物であることから、西側の微高地上から流入した可能性も考えられる。洪水等により流入、もしくは人為的な廃棄によるものと考えられ、調査区の西側に集落が所在した可能性が推定できる。

6 I区⑩層出土遺物(第22～30図)

当遺物包含層の上器片が遺跡全体における出土遺物の約8割以上を占める。概観すると、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の土器群と考えられ、一部に弥生時代後期前半の葬器を有するものも認められる。代表的なものを図化し、可能な限り胎土分析を実施した。

1～10は広口壺で、1～8は下川津B類土器の形態を示すものである。1～4は、短い口縁部がやや斜め上方に伸び、頸部が太いタイプ。4は、肩が張らず丸みを帯び、胎土はやや橙色を呈して角閃石を観察できない。5・7は体部径が小さく長頸のもので、頸部に施す沈線文が施される。8は、器壁の厚い大形のもので、口縁は長く外方に伸び、強い横ナデが施される。6も同形のもので、頸部に縦方向の沈線文が見られる。5・6の体部上半には、刷毛後に斜行するミガキ調整が施される。9・10の胎土は、橙色を早する。9はなで肩の体部が太い頸部付き、緩やかに外反して短い口縁となる。10は、丸みを帯びた体部に太い頸部が付き、中位で屈曲し口縁に至る。11～14は広口壺の口縁部。11は、大きく上下に拡張した口縁端部に鋸歯文を施す。頸部には刷毛調整が見られる。12は下川津B類土器の口縁部。

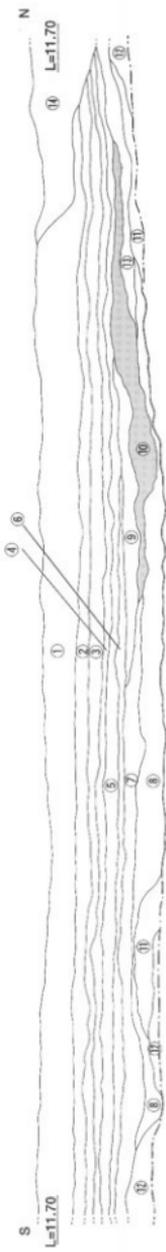
内面に赤色顔料の付着が認められる。13, 14は、口縁端部に凹形の刺突文が施される。14は、やや小形の広口壺で、精緻な胎土に角閃石を多く含む。15は口縁が水平に開く。17・18は甕の頸部で、それぞれ体部



第19图 II区⑧层出土遗物(土器1/4, 石器1/2)

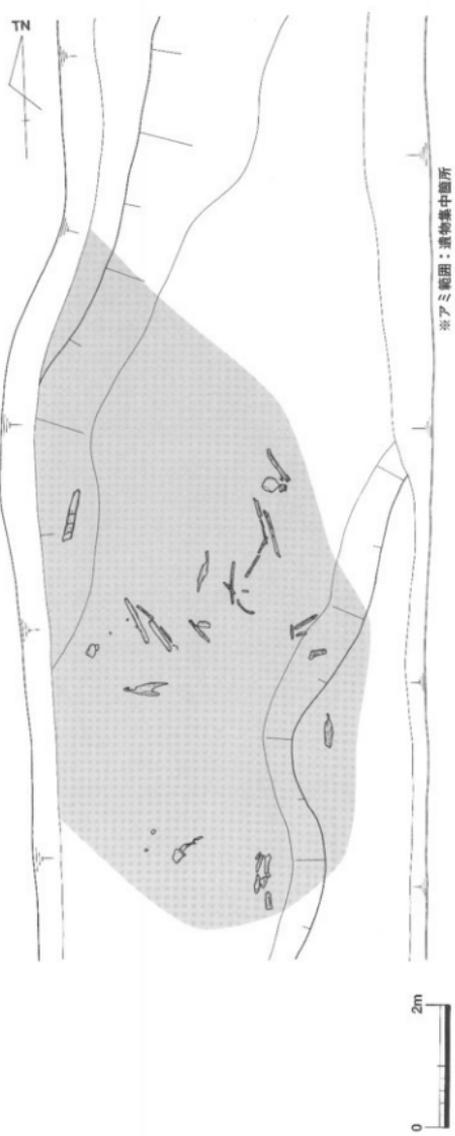


との境に刻目突帯・刺突文が施される。18は磨き調整が施され、やや赤色に発色する箇所がある。19・20は体部で、19は灰白色を呈する胎土で、ほぼ丸底化している。20・21は、下川津B類土器の体～底部。21は肩の張る体部で、底部は丸底に近い。22・23の底面は平面を残す。24～40は広口壺。24・25は灰白色を呈する胎土で、頸部は刷毛調整である。24は水平に開く口縁を、25は口頸部が緩やかに外反し短い口縁をもつ。26は、なで肩の体部に短い頸部、斜め上方に開くやや長めの口縁を有する。体部外面に叩き、頸部内外面に刷毛調整が見られるが、非常に荒く仕上げられている。28・29・31・33・34は、ほぼ同系と考えられるやや精緻な浅黄色の胎土が用いられている。28・29は頸部が長・短であるが、頸部外面にやや裝飾的な刷毛調整が施される。31は、口縁が水平に開き、頸部にはミガキ調整が見られる。33は、刷毛調整で頸部外面に篋描き沈線文が施される。34は、33と同じ長頸だが、頸部が内傾し、口縁部に横ナデを加え、端部を斜め上方に積み上げる。30は、口縁部が水平方向からやや垂下し、端部に面をもつ。32は、口縁が長く斜め上方に伸び、端部を内側に積み上げる。35～37は、頸部がラッパ状に外反し口縁部に至る。36の胎土は下川津B類土器と近似している。38～40は、体部からハの字に広がる口頸部を有する。38の頸部境には、擬口縁状となる接合痕が明瞭に認められる。内面には、焼上の下に接合以前の調整痕を残す。胎土中に金雲母が口立つ。41～46は複合口縁壺。41は、やや長めに内傾する口縁で、胎土は褐色で角閃石を含む。44～46は、口縁部が外反し屈曲箇所小さな突出が見られる。47～50は短頸壺。47は精緻な灰白色の胎土で、口縁端部に面をもつ。48は丸みを帯びた肩で、口縁部内面への肥厚が認められる。49・50は、下川津B類土器と酷似した胎土を有する。49は、肩の張る体部より口頸部が直立する。全体的に精緻なつくりで口頸部に鋭い横ナデ、体部内面には顕著な指押えが見られる。51～56は長頸壺。51は、退化した凹線状の横ナデが施され、後期前葉の形態を呈する。52は、緩やかに口縁部へと外反する。52は下川津B類土器の胎土で、下川津I式以前の形態である。55・56は細頸壺。51・55は口縁部へと直線的に外反し、内面は内彎気味となり下川津B類土器。58・59は、細頸壺の体部。59は玉葱形となり、56と同じ形態の体部と考えられる。57は、やや小形の広口壺で、肩が丸みを帯び、口縁部が水平に開く。口縁端部は拡張された面をもつ。60はやや小形の壺で、下膨れの体部から口頸部がハの字形に広がる。内外面刷毛調整で、体部外面に一部タタキ痕を残す。内面は、体部下半まで削り調整が行われる。61～63は、小形で丸底の鉢または壺。64・65はミニチュア上器。64はやや橙色を呈するが、65は角閃石を多く含む精緻な胎土を有する。66～86は高杯。66は、角閃石を多量に含む胎土で、後期初頭に見られる形態だが、外方向にのみ口縁端部が拡張される。67～72は、杯部が中位で外反するもので、下川津B類土器の高杯もしくは鉢である。口縁部内外面は、工具によると考えられる鋭い横ナデ、杯部外面は荒い磨き調整で削り痕を残す。75～77は、円盤充填法により成形され、杯部内外面に分割磨きが施される。77～81は、裾部が緩やかに外反する高杯胴部で、端部が僅かに肥厚もしくはトドに面をもち、内面に削り痕が認められる。73・74は高杯。73は、灰白色を呈する精緻な胎土を用い、口縁部が長く外反する。74は小振りの杯部で、胎土にはぶい黄色を呈しやや粗い砂礫を含む。82～86は高杯脚部。82は精製で、一部赤色を発する箇所がある。脚部に沈線文を2箇所、中位に1対裾部に2対の穿孔を有する。85・86は低脚のものである。87～94は、下川津B類土器の大形鉢。93は口縁部があまり外反せず、やや内側に突出する端部は凹状となる。他は、小形の高杯とともにほぼ同形態のもので、口縁部には連続する横ナデ、杯部外面にケズリが施される。内面には刷毛、磨きが見られるものもある。95～98は、大形鉢の片口部。口縁端部の形態から、93の片口に98が該当する。99～105は鉢。99は大形のもので、体部から「く」字に屈曲し、口縁部には片口が付く。100も同形で、内面に磨きが認められる。101は碗形に近く、底は丸みを帯びる。外面下半を削り、上半を横ナデ、内面に刷毛調整を施す。102～104は器高が高く、口縁が内彎気味に立ち上がるもの。底部は平底で突出するもの、やや丸みを帯びるものがある。外面は103・105に叩き痕、102に篋痕が認められる。内面は102に分割した刷毛調整が、103は放射状の磨き調整が認められる。いずれも灰白色を呈する精緻な胎土が用いられている。106～110は、尖底部に穿孔された土器で瓶底部と考えられる。111～115は下川津B類土器の壺。116は、頸部が「く」字に屈曲する。叩き痕を残し、内外面に刷毛調整を行う。胎土は、鈍い黄色を呈し砂礫を含む。117は、「く」字に屈曲する頸部から口縁が大きく外反する。118は、広口壺あるいは壺の口縁部で、端部は垂れ下がり面をもつ。119は大形のもので、強く張る肩から頸部で「く」字に屈曲し、口縁に至る。やや内側に突出する端部は凹状をなす。胎土は、褐色を呈し角閃石が含まれる。120は、体部から緩やかに屈曲し、端部を下方に拡張する。精緻な胎土に角閃石を含み、後期前葉に位置づけられる。121は、丸みを帯びた体部から屈曲し、短い口縁部のもの。122は、「く」字に屈曲し口縁部を外方向に積み出す。内面は頸部まで削り痕が認められる。胎土は、精緻で比重が重く、121と同様に角閃石が見られる。123は、頸部で「く」字に屈曲するもので、内外面に刷毛調整が見られる。124は、細身で卵形の体部をもつ。125は、やや丸みを帯びた体部から「く」

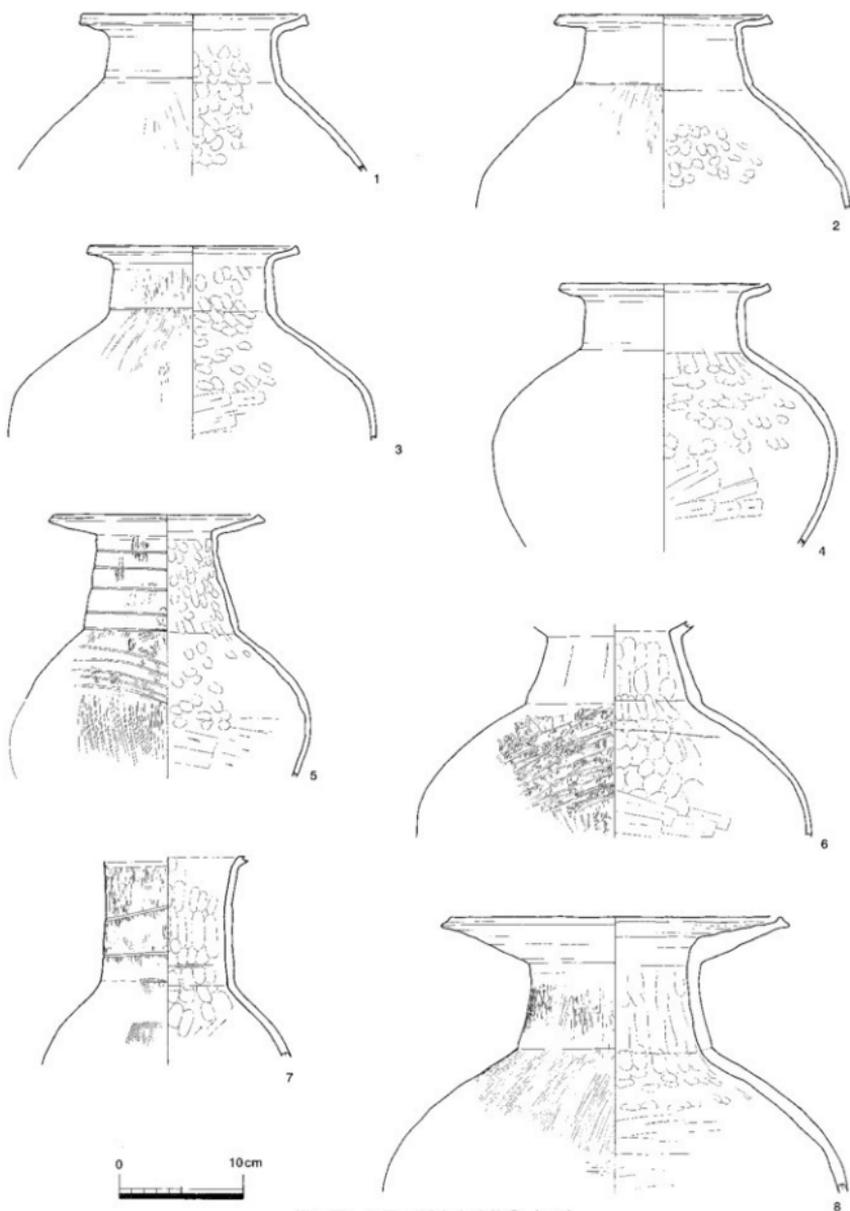


- ①: 5Y5/2 灰オリーブ色シルト質硬凝砂 (遺跡作土)
- ②: 2.5Y6/2 灰褐色シルト質硬凝砂 (しまらない)
- ③: 2.5Y6/4 におい黄色砂質シルト質硬凝砂
- ④: 2.5Y6/4 におい黄色シルト質硬凝砂 (しまる)
- ⑤: 2.5YR5/2 灰褐色シルト質粘土
- ⑥: 7.5YR4/1 褐色シルト質粘土
- ⑦: 10YR3/1 黒褐色粘土
- ⑧: 2.5Y3/2 黒褐色粘土 (植物遺体を含む泥炭化、SR01遺土)
- ⑨: 10YR3/1 黒褐色砂質凝粘土
- ⑩: 10YR3/1 黒褐色砂質凝シルト (土層を多量に含む、下位に木片集中)
- ⑪: 10YR5/1 褐色色細砂
- ⑫: 2.5Y6/3 におい黄色細砂
- ⑬: 2.5Y6/1 真灰色細砂 (塵を含む)
- ⑭: 花崗土+コンクリート産物

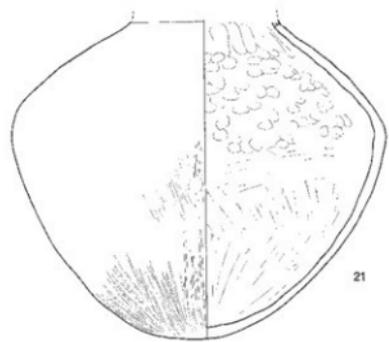
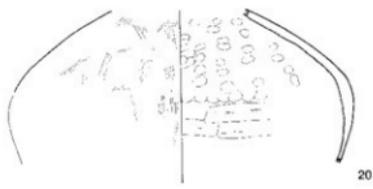
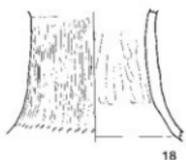
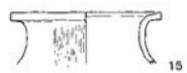
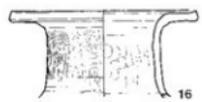
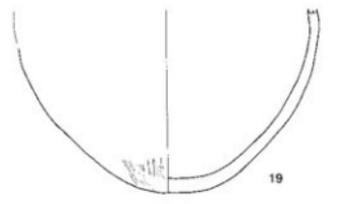
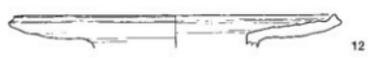
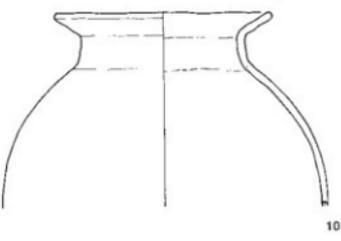
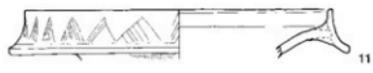
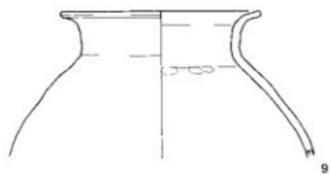
第20図 I区 西壁土層図 (高さ1/80, 長さ1/160)



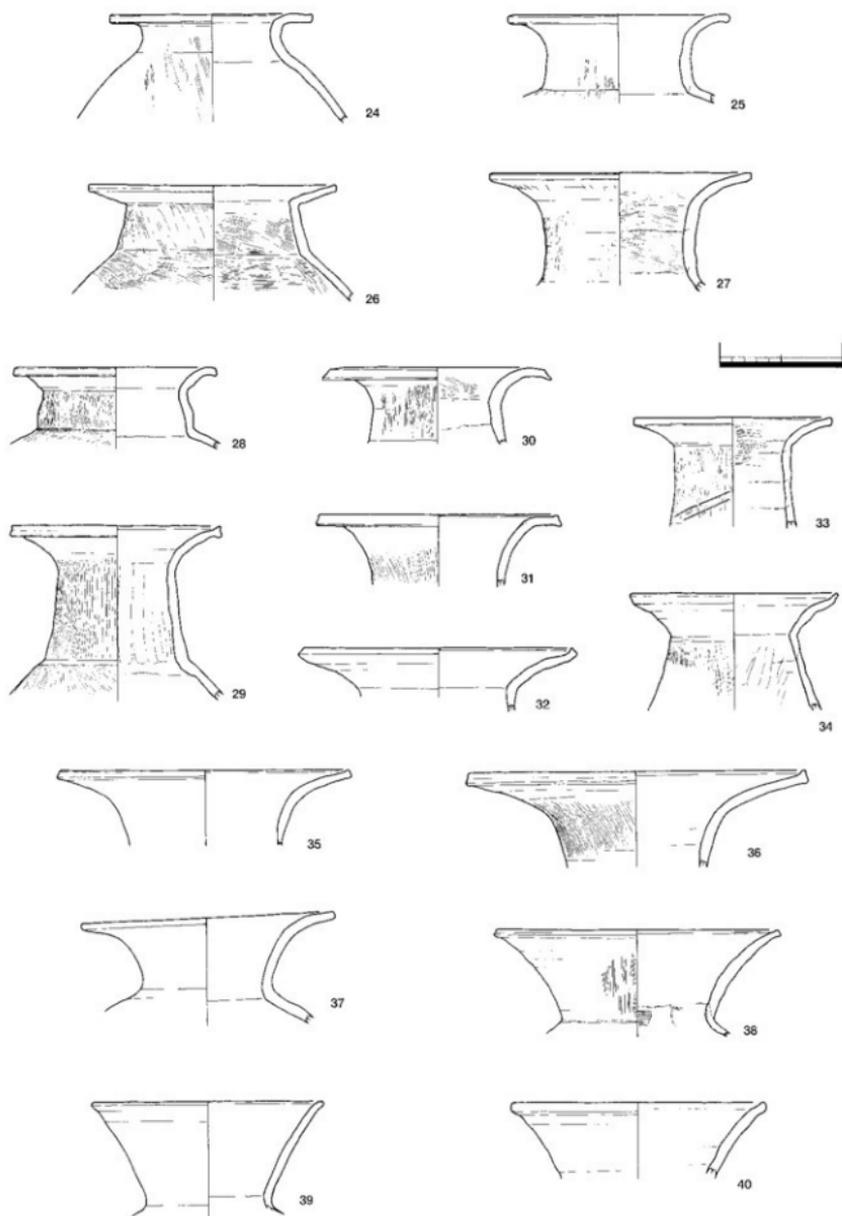
第21図 I区SR01遺物出土状況図 (1/80)



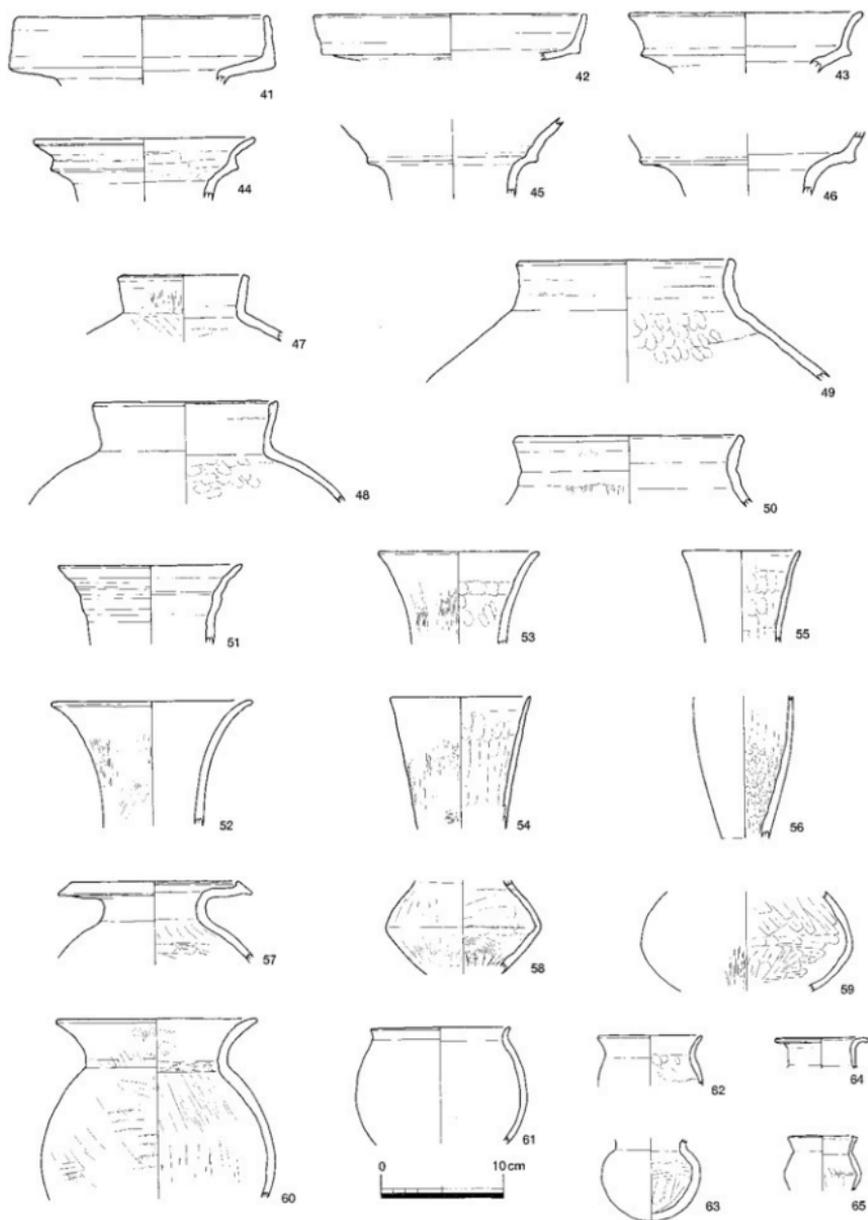
第22图 I区10層出土遺物① (1/4)



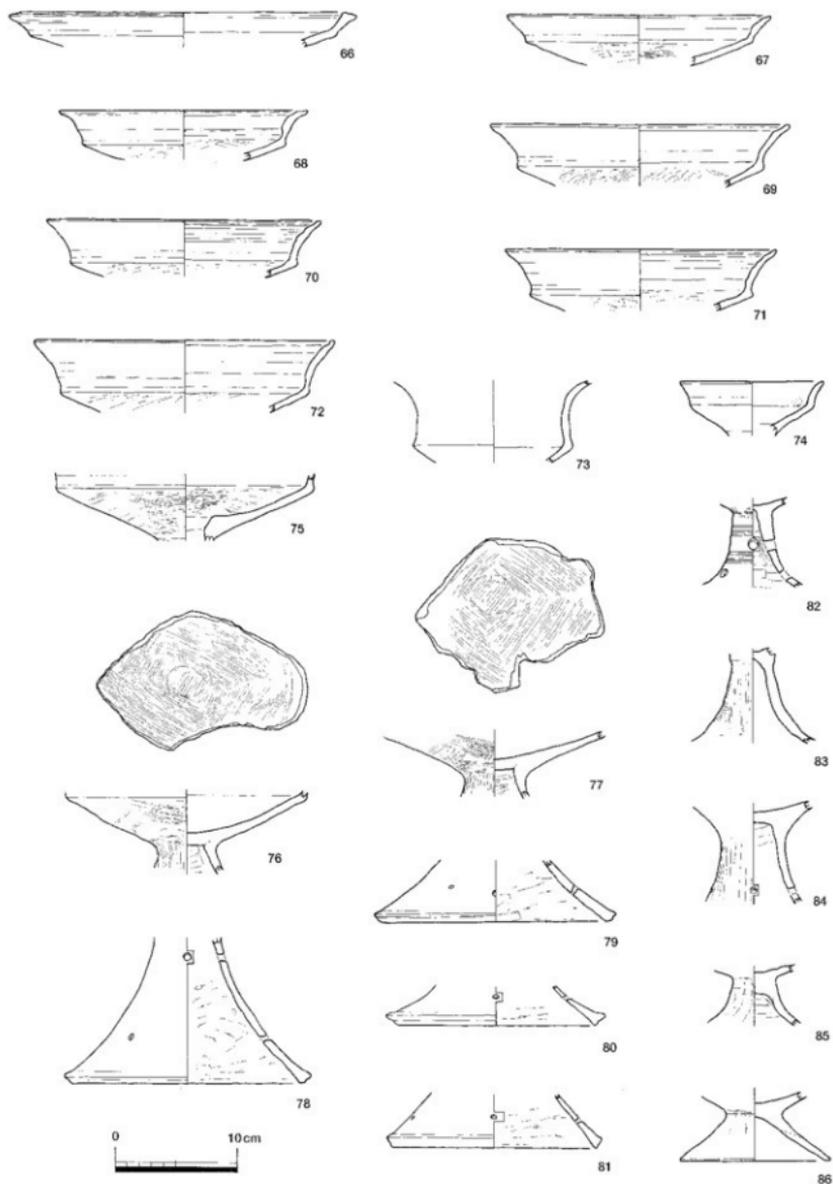
第23图 I区10层出土物② (1/4)



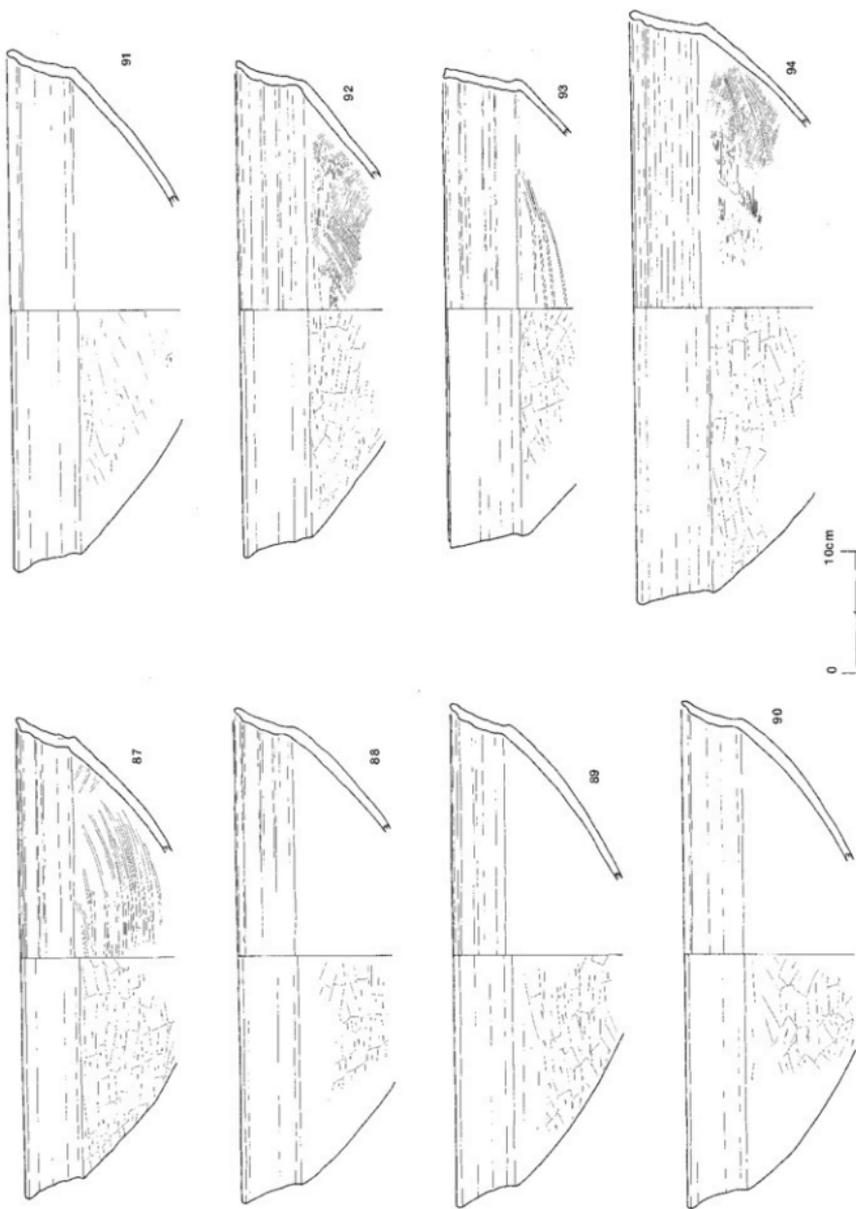
第24图 I区10层出土遗物③(1/4)



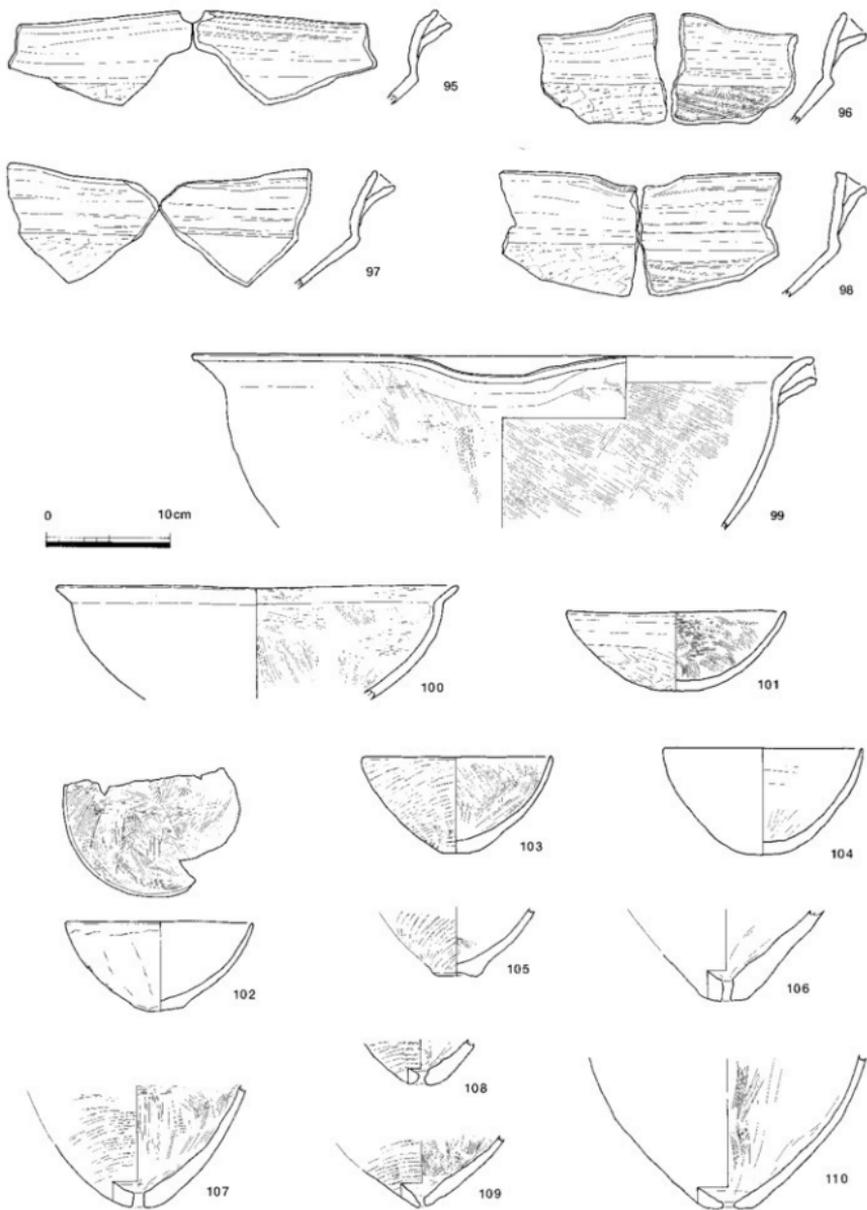
第25图 I区10层出土物④(1/4)



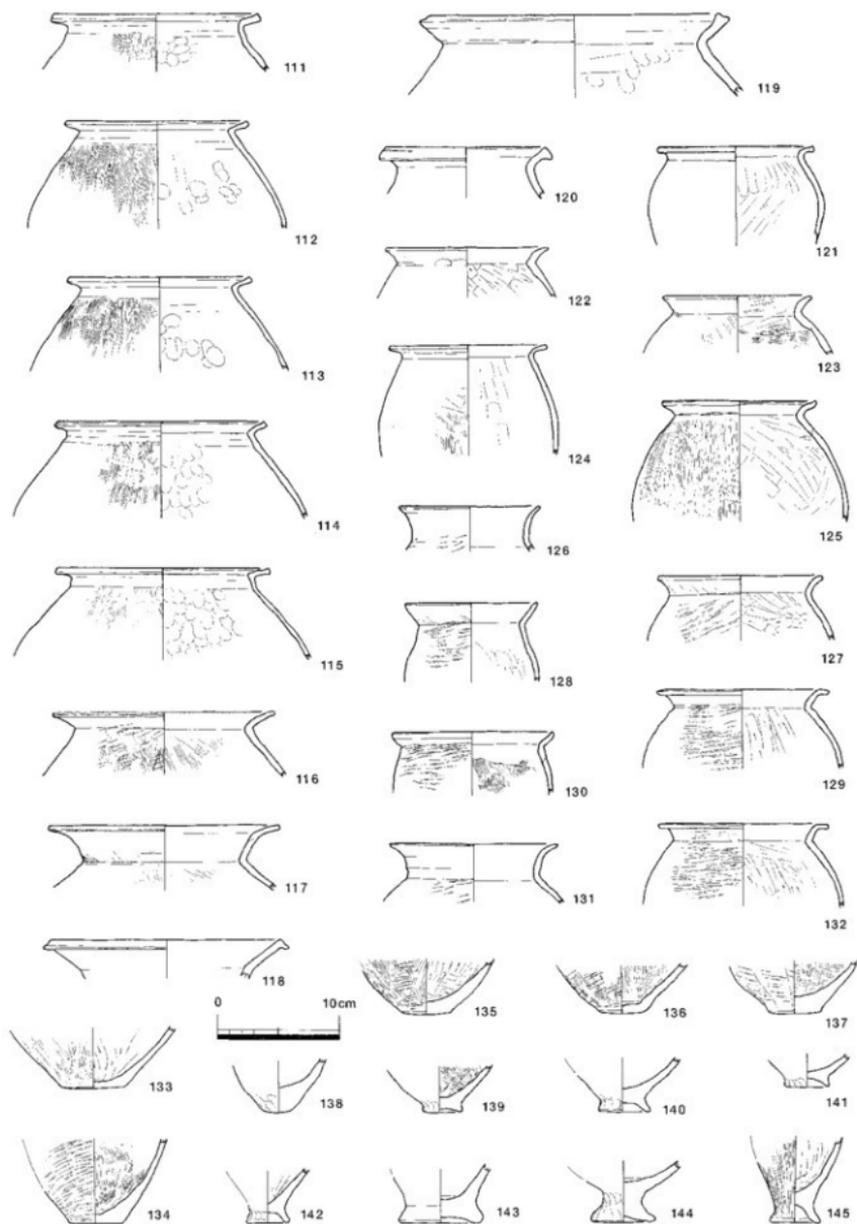
第26图 I区10层出土遗物⑤ (1/4)



第27图 I区10层出土器物⑥ (1/4)



第28图 I区10层出土遗物②(1/4)



第29图 I区10层出土器物⑧(1/4)



第30図 I区10層出土遺物⑨(1/4)

字に屈曲し、口縁部端部を上方に積み上げる。外面には磨きを加えられる。126~132は、叩き甕。129・132は頸部に叩き痕が残るもので、丸みを帯びた体部から長い口頸部となり、頸部・口縁部でそれぞれ屈曲する。127では、口頸部が短く屈曲する。ともに内面には、頸部に至る削り痕が認められる。128・130は小形のもので、頸部が「く」字に屈曲し、やや内彎して立ち上がる。133~146は底部。133は、下川津B類土器の甕底部。134~137は、外面に叩き痕が認められる。底面は、平底を呈すものとやや不明瞭なものがある。138は手捏ねと考えられるが、角閃石を含む精緻な胎土を用いて焼成も良い。139~144は土付鉢の底部と考える。145は138と同じ胎土を用いた製塩土器。内面に赤色顔料の付着が認められ、容器として使用されたと考えられる。146は底部としたが、端部の刻み、内面の粗雑なつくりから支脚等の受け部の可能性も考えられる。147は支脚で、筒形の中空のもの。内面に刷毛調整が、正面側の端部には刻みが認められる。表面側は煤が付着している。148は、手捏ねのミニチュア土器。

出土木製品 (第31・32図)

⑩層上位では形を留めて遺存するものがあまり見られなかったが、下位では製品と考えられるものが散在して出土している。W1は、枝を払って両先端部を尖らしたもので、円形の穿孔部が見られる。W5と共に部材(繊維か?)と考えられる。W2は、曲柄鋤身で左半分が欠損する。右側面には、着柄部と考えられる抉りが見られる。W3は、W2同様の板状のものだが器種は明確ではない。W5は裏面側が欠損しているが棒状のもので、下端部に面取りの加工がなされている。上端部には方形の穿孔がなされており、中位には紐状の斥痕が螺旋状に認められる。W6も加工木で、裏面側の下端部のみが炭化しており転用品と考えられる。断面が三角形となるように木目に沿って正面側に加工がなされる。正面側に方形の3個所の窪みを加工していること、両側面方向から截断しようと思われる加工が見られることから鋤身を連続して作出しようとした



第31図 I区10層木製品出土状況図(1/40)



第32图 I区10层出土遗物⑩ (1/4)

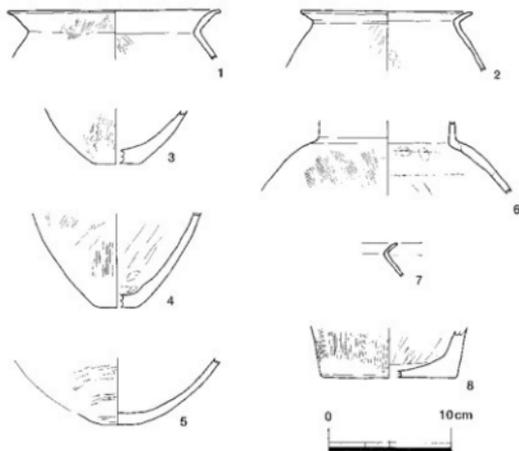
第4節 V・VI区 (第6・7図)

当調査区は埋没旧河道の北に位置する低地である。遺構確認は河調査区ともに、黒褐色土(⑤・⑥層)上面とこれを除去した黄色の地山で行った。VI区は、第1遺構面で時期不明のピットを検出し、須恵器片が出土したのみである。V区の第1遺構面では、南北・東西方向に分岐する水路網(SD101・103~106)とこれより後出する東西方向の溝(SD102)を確認した。第2遺構面では南北方向の水路(SD201~203)と溜り状の遺構(SX201)を確認している。

V区 第2遺構面 (第7図)

SD201 (第33・42図) : V区西部端で検出した南北方向の溝である。検出レベルは11.22~11.50m, 底面は10.93~11.07m。底面のレベルに全体的な傾斜や方向性は認められない。断面は擋鉢状を呈し、埋土は3層に分層できる。最下層には溝が機能していた時のラミナ状の堆積が見られ、溝廃棄後に河岸より砂質土が流入し、その後は緩慢に埋没したと考えられる。遺物は8が最下層より、1~7が上層部より出土している。8は壺底部で、外面にヘラ磨き、内面に削りが認められる。胎上は角閃石を多く含む。弥生時代後期でも前葉頃の所産と考えられる。1・2・7は壺の口縁部。3・4は壺底部。5は壺底部。6は壺の頸体部。溝上層は、壺の形態及び球体化した底部等から弥生時代後期後半~古墳時代前期初頭と考えられる。よってSD201は、弥生時代後期前葉~古墳時代前期初頭の存続時期が考えられる。

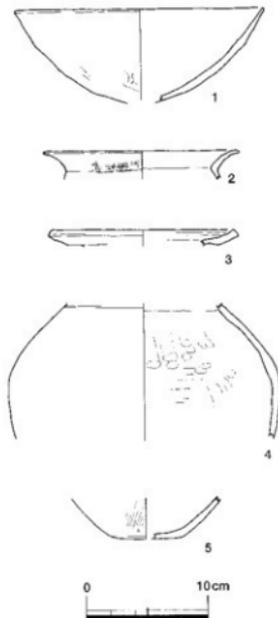
SD202 (第34・42図) : V区中央部で検出した南北方向の溝である。検出レベルは11.34~11.62m, 底面は11.24~11.46m。緩やかに北方へ下る。断面はU字形である。埋土は2層に分層されるが、上位層はSX201と共通している。出土遺物は少量で2点を図化できた。1は壺の口縁部。2は広口壺の口縁部。これらの遺物及びSX201との関連から弥生時代後期後半~古墳時代前期初頭と考えられる。



第33図 V区 SD201 出土遺物 (1/4)



第34図 V区 SD202 出土遺物 (1/4)



第35図 SX201 出土遺物 (1/4)

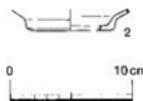
SD203 (第42図) : V区北東隅で検出した南北方向の溝である。検出レベルは11.37~11.47m、底面は11.21~11.27m。南方へと下るものだが、SX201に繋がる箇所で分岐し急激に浅くなる。断面はU字形である。埋土はSD201の上部層とほぼ共通する黒褐色土の単層である。遺物は出土していないが、SX201との関連及び埋土の特色から弥生時代後期後半~古墳時代前期初頭と考えられる。

SX201 (第35図) : V区北東隅で検出した浅い窪み状の遺構である。検出レベルは11.55~11.58m、底面は11.48~11.53m。埋土は灰白色砂の単層である。SD202及びSD203に接する箇所が浅い窪り部となったもので、遺物が一定量出土した。攪乱のため明確ではないが、SD204に繋がるものと考えられる。1は鉢。2は甕口縁部。3は広口壺の口縁部。4は甕の体部。5は底部である。遺物より弥生時代後期後半~古墳時代前期初頭と考えられる。

SD204 (第42図) : V区南東隅で検出した小溝である。検出レベルは11.60~11.61m、底面は11.50~11.52m。断面はU字形で、埋土は黒褐色砂混じりシルトの単層である。遺物は出土していないが、SX201との関連及び埋土の特色から弥生時代後期後半~終末期と考えられる。

V・VI区第1遺構面 (第6図)

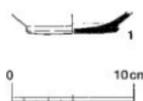
SD101 (第36・41図) : V区中央部を南北に走る溝である。中央部で分岐 (SD101W・SD101E) した箇所がある。検出レベルは11.45~11.70m、底面は11.26~11.58mを測り、緩やかに北方へ下る。埋土は灰褐色シルト~砂混じりシルトの単層である。出土遺物は少量で、黒色土器椀 (1)、土師器杯 (2) から概ね10~12世紀代の所属時期が考えられる。



第36図 V区SD101 出土遺物 (1/4)



SD102 (第38・40図) : V区中央部を東西に横断する溝である。方向は現況の地割にはほぼ一致する。検出レベルは11.57~11.62m、底面は11.50~11.54m、緩やかに東方へ下る。埋土は黄灰色砂混じりシルトの単層。出土遺物は、土師質土器煮沸具の脚部1点のみ。遺物及び埋土の特徴、切り合い関係から中世と考えられる。



第37図 VI区 出土遺物 (1/4) 第38図 V区SD102 出土遺物 (1/4)

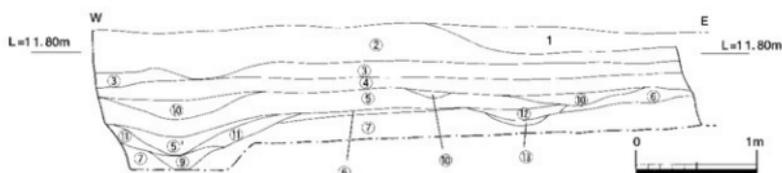
SD103 (第39図) : V区北東部、SD105より発する南北方向の小溝である。方向は現況の地割にはほぼ一致する。検出レベルは11.49~11.52m、底面は11.44~11.47m、緩やかに北方へ下る。埋土は灰褐色シルト。出土遺物はないが、埋土の特徴からSD101と同時期と考えられる。

SD104 (第39図) : V区北東部、SD105より発する南北方向の小溝である。東西方向にも分岐する箇所がある。検出レベルは11.48~11.52m、底面は11.44~11.47m、緩やかに北方へ下る。埋土は灰褐色シルト。出土遺物はないが、埋土の特徴からSD101と同時期と考えられる。

SD105 (第40図) : V区北東部で検出した東西方向の溝である。検出レベルは11.52~11.56m、底面は11.38~11.41m、緩やかに西方へ下る。南側肩部が拡張しており、東において分岐するものと思われる。埋土は灰褐色砂混じりシルト。出土遺物はないが、埋土の特徴からSD101と同時期と考えられる。

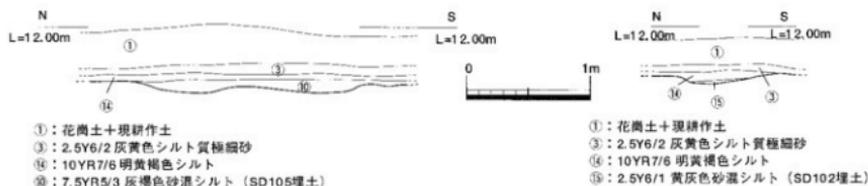
SD106 (第41図) : V区西部端で検出した南北方向の溝である。検出レベルは11.55~11.68m、底面は11.45~11.57m、緩やかに北方へ下る。埋土は灰褐色シルト。出土遺物はないが、埋土の特徴からSD101と同時期と考えられる。

以上、当該期の溝を位置関係・底面高からまとめると、幹線と考えられるSD101が北流し、SD106がこれに並走する。SD105は、SD101から東に配水を行うが、途中で北方向のSD103、104にも配水するものと考えられる。



- ①: 花崗土
 ②: 耕作土
 ③: 2.5Y6/2 灰黄色シルト質極細砂
 ④: 2.5Y6/4 に近い黄色シルト質極細砂
 ⑤: 7.5YR3/1 黒褐色粗砂混シルト (しまる)
 ⑥: 7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト
 ⑦: 2.5Y6/4 に近い黄色細砂～シルト (堆山)
- ⑧: 7.5YR5/2 灰褐色シルト (SD101,103,104埋土)
 ⑨: 10YR3/1 黒褐色シルト (粘質, SD201埋土)
 ⑩: 10YR4/1 褐灰色砂質シルト (SD201埋土)
 ⑪: 7.5YR3/1 黒褐色シルト・10YR6/1 褐灰色の細砂のラミナ状堆積 (SD201埋土)
 ⑫: 10YR3/2 黒褐色シルト (SD202埋土)
 ⑬: 10YR5/12 褐灰色細砂 (SD202埋土)

第39図 V区 北壁土層図 (1/40)

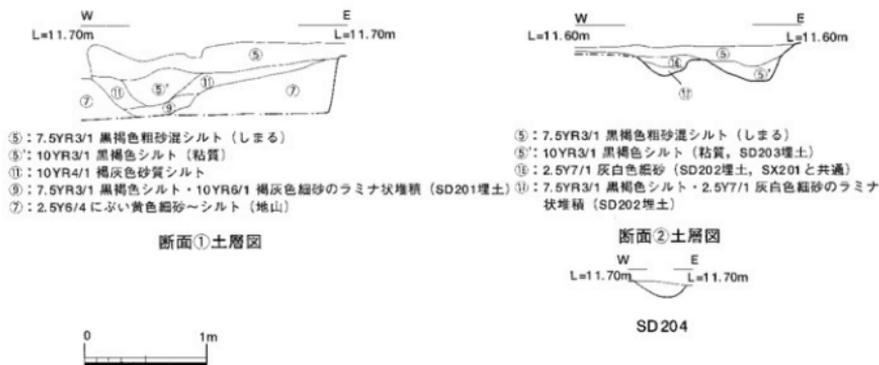


- ①: 花崗土+現耕作土
 ③: 2.5Y6/2 灰黄色シルト質極細砂
 ④: 10YR7/6 明黄褐色シルト
 ⑤: 7.5YR5/3 灰褐色砂混シルト (SD105埋土)
- ①: 花崗土+現耕作土
 ③: 2.5Y6/2 灰黄色シルト質極細砂
 ④: 10YR7/6 明黄褐色シルト
 ⑤: 2.5Y6/1 黄灰色砂混シルト (SD102埋土)

第40図 V区 東壁土層図①② (1/40)



第41図 SD01w, SD01E, SD06 断面図 (1/40)



- ⑤: 7.5YR3/1 黒褐色粗砂混シルト (しまる)
 ⑤': 10YR3/1 黒褐色シルト (粘質)
 ⑩: 10YR4/1 褐灰色砂質シルト
 ⑪: 7.5YR3/1 黒褐色シルト・10YR6/1 褐灰色の細砂のラミナ状堆積 (SD201埋土)
 ⑫: 2.5Y7/1 灰白色細砂 (SD202埋土, SX201と共通)
 ⑦: 2.5Y6/4 に近い黄色細砂～シルト (堆山)
- ⑤: 7.5YR3/1 黒褐色粗砂混シルト (しまる)
 ⑤': 10YR3/1 黒褐色シルト (粘質, SD203埋土)
 ⑩: 2.5Y7/1 灰白色細砂 (SD202埋土, SX201と共通)
 ⑪: 7.5YR3/1 黒褐色シルト・2.5Y7/1 灰白色細砂のラミナ状堆積 (SD202埋土)

断面①土層図

断面②土層図

第42図 断面①, ② SD204 断面図 (1/40)

第5節 Ⅲ区 (第8図)

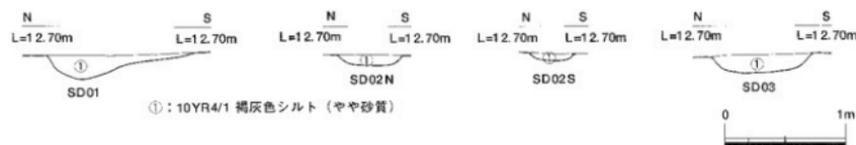
当調査区は、埋没河川南側の微高地に位置する。北西部に低地部分があり、これを境に南側で礫層が認められ、以南は微高地が広がる。表土(花崗土)のはほぼ直下で地山が認められ、遺構検出面とした。下記に報告する以外にも、ピット、長方形の土坑が散在して検出されたが、出土遺物がなく埋土の特色より近世・近代に比定されることから詳細は省略する。

SD01 (第43・44図) : 調査区の南端部で確認した東西方向の溝である。検出レベルは、12.43~12.48m、底面は12.30~12.33m。流路方向は明確でない。埋土は褐色シルトの単層である。出土遺物は少量で、図化できるものは土師器杯底部(10世紀頃)1点のみである。

SD02 (第44図) : 調査区の南端部で確認した東西方向の溝である。花崗土による整地痕が激しく、中央部で明確に検出できなかったため3分割(SD02W・SD02N・SD02S)となったが、本来は同一の溝と考えられる。検出レベルは、12.39~12.49m、底面は12.35~12.43m。流路方向は明確でない。埋土は褐色シルトの単層である。出土物はないが、埋土がSD01及びSD03と同様であるため同時期と考えられる。

SD03 (第43・44図) : 調査区の南端部で確認した東西方向の溝である。検出レベルは、12.28~12.49m、底面は12.28~12.34m。緩やかに西方に下る。埋土は褐色シルトの単層である。出土遺物は少量で、図化できるものは土師器杯底部(10世紀頃)。

SD04 (第47図) : 調査区の北西部で確認した南北方向の溝である。第43図 Ⅲ区SD01、03 出土遺物(1/4)



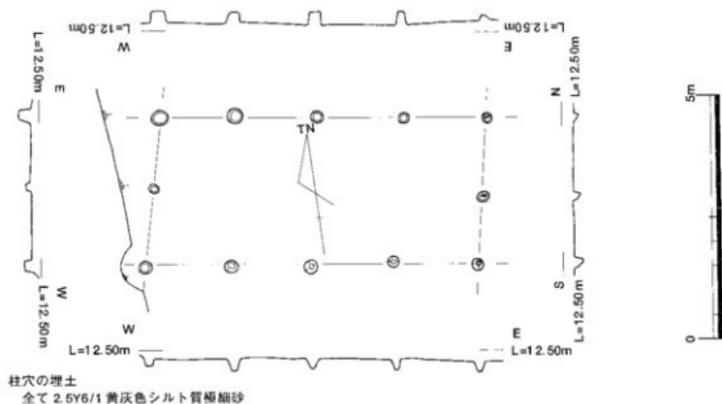
第44図 Ⅲ区SD01~SD03 断面図 (1/40)

現況の地割方向とはほぼ一致し、坪界に相当する調査区の北端部付近で僅かに東に傾く。検出レベルは、12.10~12.25m、底面は12.04~12.15m。緩やかに北方に下る。埋土は、明黄褐色シルト及び最下部の黄灰色シルト質細砂に分割される。出土遺物はない。埋土及び周辺の状況から近世~近代と考えられる。

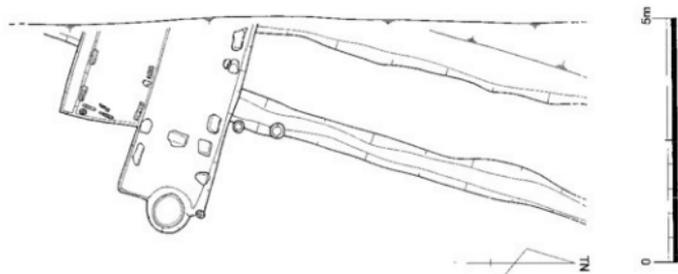
SD05 (第47図) : 調査区の北西部で確認した南北方向の溝である。現況の地割方向とはほぼ一致し、坪界に相当する調査区の北端付近で僅かに西に傾く。検出レベルは、12.03~12.24m、底面は12.04~12.11m。緩やかに北方に下る。埋土は明黄褐色シルトの単層で、出土遺物はない。埋土及び周辺の状況から近世~近代と考えられる。

SD01 (第45図) : 調査区の西部で確認した2×4間の欄柱建物である。梁間6.75m、桁行3.05mの規模をもつが、西側が調査区外のため明確ではない。主軸は現況の地割方向に一致する。柱間の距離は、梁間で約1.7m、桁行で約1.5m。柱穴は、ほぼ円形で底面のレベルもほぼ一定して見られる。埋土は全て黄灰色シルト質極細砂で、遺物の出土はなかった。埋土及び周辺の状況から近世~近代と考えられる。

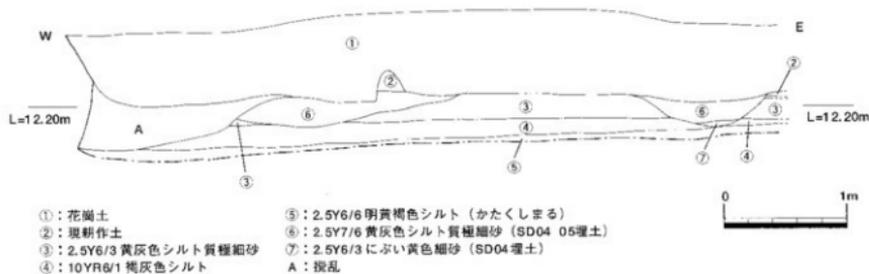
SX01 (第46図) : 調査区の北西部で検出した近代以降の所産である水場遺構である。長方形の掘り込みが段差により2分割し、砂礫層の末端部となる北東隅には井戸(鉄製の井筒)が設置されている。南部のものが一段下がり角材を、北は角礫を敷き、それぞれ上部構造物の土台と考えられる。またSD04・05を切り込んで開削されているが、これより南ではSD04がややずれた位置で検出されており、両溝の分岐点、若しくは西への屈曲点に位置していたと考えられることからSD04・05と関連した施設であると推察できる。地元の話によれば、昭和初期まで氾濫時に使用された灌漑用の水車であるという。



第45図 Ⅲ区SB01平・断面図 (1/100)



第46図 Ⅲ区SX01平面図 (1/100)



第47図 Ⅲ区北壁土層図 (1/40)

第6節 IV区 (第9図)

当調査区の南東部はV・VI区より狭く低地であり、その埋上が弥生時代～古代の遺物包含層(⑤・④層)となっている。以北は微高地となり、埋没旧河道の方向に砂礫層が認められる。この砂礫層は、近現代の擾乱を受けており(上取り?)、この下位で石組みの井戸(SE01)を確認した。この他、旧耕作土直下となる近代の整地層直下で、多数のピット、長方形の土坑、井戸等を上記の遺物包含層上面で、微高地上では地山において検出した。検出時にはSE01と併存するものと想定したが、掘削の結果、出土遺物の大半は近代以降の所産で、また調査区は昭和初期まで宅地であったが、その後耕作地になったという話を地元の人より得た。このことから、SE01を除くIV区の遺構群は近代の旧宅地跡と考えられる。

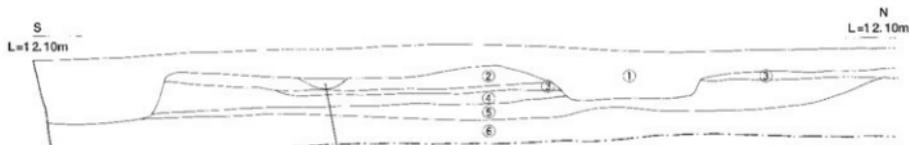
井戸 (第51・52図)

SE01 (第 図) : 調査区中央部で確認した石組み井戸である。北半は大きく削平され、石は抜かれている。このため掘り方の平面形は楕円のように見られるが、本来は径約2mの円形と考えられる。掘り方の断面は逆台形をし、中位より上方にハの字に開くものと考えられる。拳～人頭大の角礫が用いられ、井側が径0.8m程の円もしくは隅丸方形となるように組まれている。検出高の約1mで底面に達し、細砂層から湧水が得られる。遺物が底面付近で1点出土している。1は土師質土器煮沸具の脚部で中世と考えられる。

包含層 (第48図)

⑤層 (第49図) : IV区の南部、地山とした黄色細砂層の上部に堆積する弥生土器片を含む遺物包含層。1は、頸部において「く」字に屈曲する甕で、体部は下膨れとなる。2は甕口縁部で、口縁が矮小化し肩が張る。3は高杯口縁部で、口縁部は長く連続した横ナアが加えられる。4は管状土師である。

④層 (第50図) : IV区の南部、⑤層の上部に堆積する古代の遺物包含層。1は土師器羽釜の口縁部で、端部は内側に折り込まれ、銜端部は上方に伸ばされる。2・3は人形の須恵器片。2は、外面に凹線と波状文が施される。4は須恵器杯底部。5は黒色土器A類碗の底部である。



①: アスファルト+花崗土

②: 旧耕作土

③: 2.5Y6/8 明黄褐色シルト質極細砂

配水管

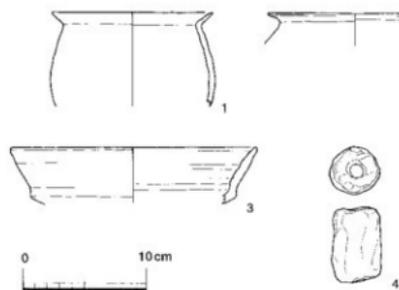
④: 7.5YR4/1 褐灰色砂混シルト

⑤: 7.5YR3/1 黒褐色砂質シルト

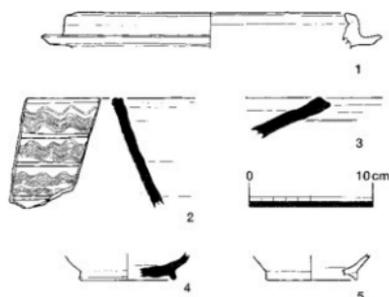
⑥: 5Y6/3 オリーブ黄色細砂 (しまる、地山)



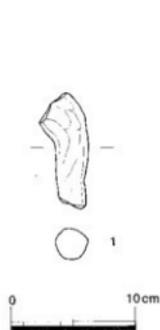
第48図 IV区西壁土層図 (1/40)



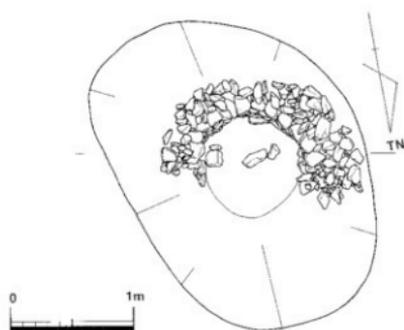
第49図 IV区⑤層出土遺物 (1/4)



第50図 IV区④層出土遺物 (1/4)



第51図 IV区 SE01出土遺物 (1/40)



第52図 IV区 SE01 平・断面図 (1/40)

第7節 VII区

VII区基本層序（第53図）

第3章第2節「遺跡の概要と基本層序」で述べているとおり、VII区は微高地部分にあたる。この為、後世の影響を受けている部分が多く認められ、調査区北半分の耕作土・床土下は中世頃と想定される褐色シルトの土壌層（水田層）が存在するのに対して、南半分の現耕作土・床上下は基盤層である明黄褐色シルトが現れる。基盤層である明黄褐色シルトは南から北に向けて緩やかに下がるが、調査区北端では、耕作による上部土壌層からの攪乱があり、上面は凹凸が激しい。



第53図 VII区東壁土層図抜粋

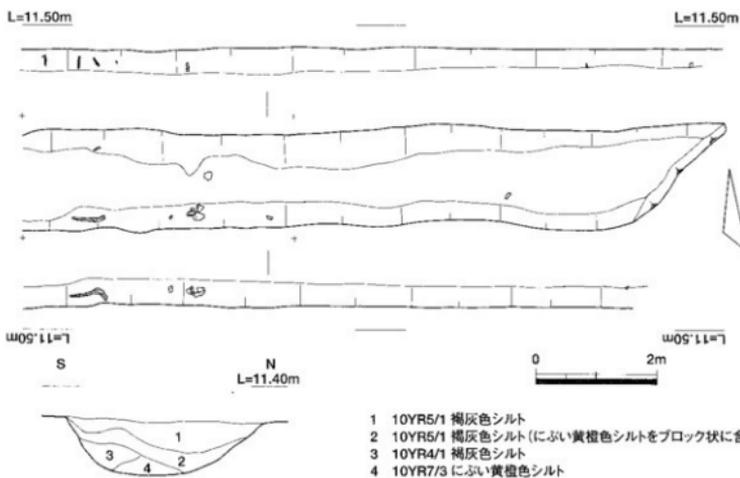
VII区遺構

VII区は、今回実施した宗高坊城遺跡の北端にあたる調査区である。遺構は溝1（SD01）、土坑1（SK01）、出水伏造構1（SX01）、石組み暗渠（SD02・03）、釜溝群等を確認した。

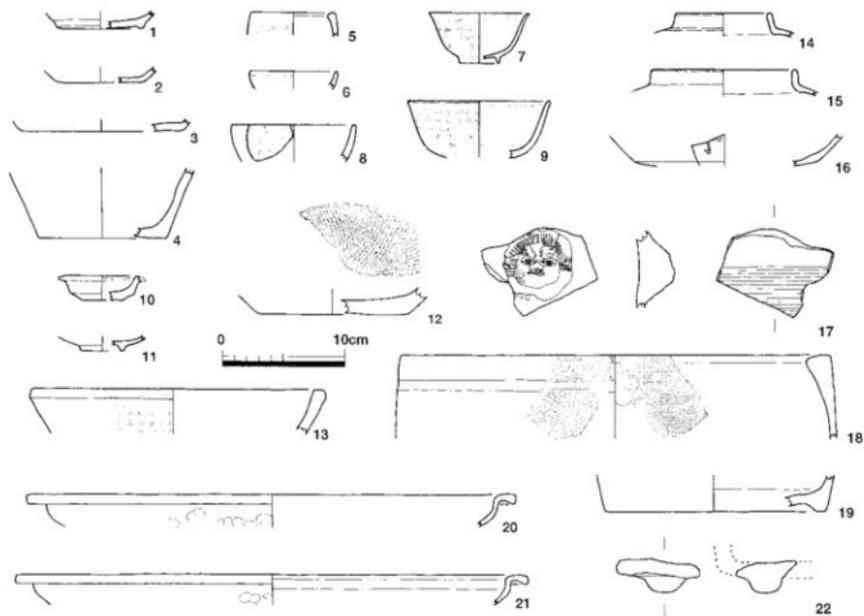
SD01（第54・55図）：調査区の南端で確認した東西溝である。西半部南側では肩が広がる部分がある。溝の規模は幅1.60m、深さ50cmであり、土層は4層に分層できる。地積土のうち、2層にはぶい黄褐色シルトをブロック状に含むことから、ある時期、人為的に溝が埋められた可能性が考えられる。溝の特徴として溝底近くに杭が打たれている状況を確認した。杭は、溝の東半分を中心に確認しているが、検出した杭の配置に計画性は認められない。確認した杭は残存状況が悪く最も残りのよいものでも20cm程度である。溝内では縦杭とは別に横方向に置かれたと想定される木も1点認められるが、これのみであることから、すべての箇所に横木が使用されていたかは不明である。確認した杭が溝内に露出している状況や杭の確認位置が部分的である状況から、護岸用として部分的に打設された杭であると考えられる。

溝の方向から、現在高松平野に残存する条里方向に合致する溝であるが、方1町の土地割りからは27m北にずれている。VII区の南側は調査前には民家が存在していたことを考え合わせると、溝は屋敷の北側を区画する役目と、水田への水懸かりを兼ねた機能であったものと想定される。出土遺物は9～10世紀にかけての遺物も少量見られるが、周辺部からの混じり込みと考えられ、遺物の量から少なくとも江戸時代には閉鎖され機能していた溝が、周辺部の配水方法の変化に伴い18世紀後半以降に廃棄されたものと想定される。

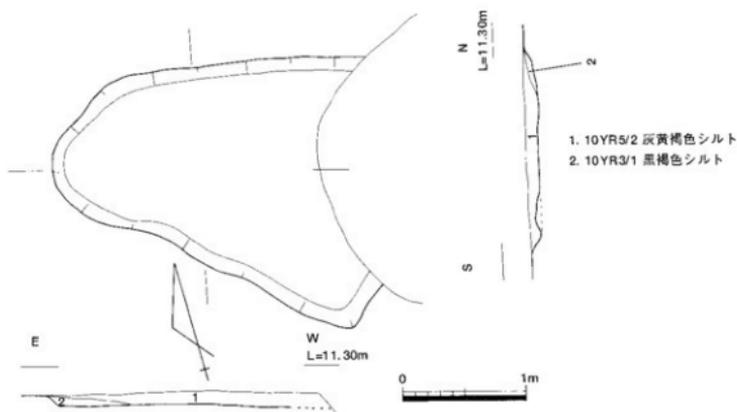
1～22がSD01から出土した遺物である。1～4は須臾器である。1は杯の底部である。華奢な高台がつく。2は平底の杯である。3は底径から皿になるものと考えられる。4は壺の底部である。5～9は薬付である。5は火舎であると考えられ、口縁部外面には四方禪文を描く。6は小皿で外面には赤絵で太陽?を描く。7は小碗で外面は菊に梅の文様を、口縁部内面は四方禪文を描く。8・9は碗である。8は外面には二重網目文を9は外面に圓線と中央部に不明文を描く。10～13は陶器である。10は蓋のみの出土であるが、須須の蓋になるものと想定される。11は碗である。12は明石焼の檜鉢である。体部の条溝が見込みに入らないことから、18世紀後半以降のものであると考えられる。13は肥前刷毛目鉢である。形態等から18世紀中頃から末にかけてのもので想定される。14～21は瓦質土器である。14・15は土釜の口縁部である。16は土釜の体部で、字の判読はできないが、外面には粘土で貼り付けた文字が認められる。17～19は火鉢である。17は体部片であるが外面には獅子の顔に見える突起物を作り付けてある。内面調整のハケメの位置から把手になるものと想定される。直接は接合しないが、内面の調整法等から、17・18は同一個体であると考えられる。18は体部外面に凹線が1条引かれ、その下には草のような模様を描かれている。内面下半はハケメである。19は底部である。20・21は鍋である。形態等から内耳がつくものとして想定されるが、この破片には内耳は認められない。22は破片であるが土師器の火鉢の底部であると想定される。



第54図 SD 0 1 平・断面図



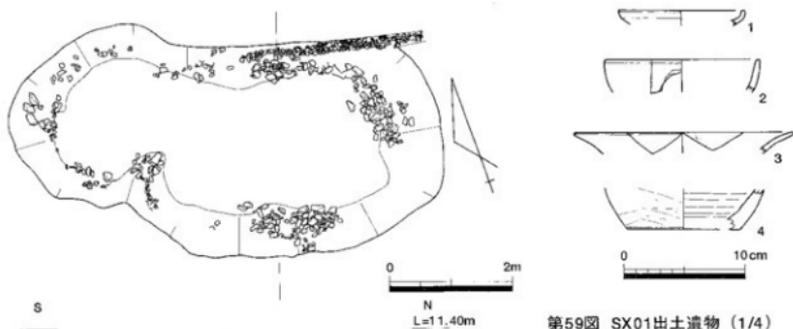
第55図 SD 0 1 出土遺物 (1/4)



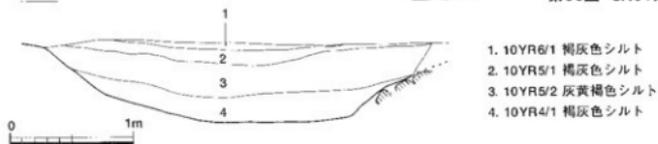
第56図 SK01平・断面図



第57図 SK01出土遺物 (1/4)



第59図 SX01出土遺物 (1/4)



第58図 SX01平・断面図

SD02 (第10図) : 調査区の中央部で確認した東西方向の石組み溝である。暗渠2と約5mの距離をおき平行している。幅28cm、深さ20cmの規模をもち、検出長は11.6mである。遺構はSX01と重なり、西側の延長は不明である。溝内部は一辺が5cm前後の小礫で充填されている。小礫の上部は床土であるにぶい黄褐色シルト質極細砂と2層である褐色シルトが混在した上で充填されている。遺物の出土はない。

SD03 (第10図) : SD02と同様に調査区の中央部で確認した東西方向の石組み溝である。幅22cm、深さ22cmの規模をもち、検出長8.0mである。暗渠1と同様に溝内部は一辺が5cm前後の小礫で充填されている。遺物の出土はない。

SK01 (第56・57図) : 平面形が逆三角形形状を呈する土坑である。東側を出水状遺構に切られているため、正確な規模は不明であるが、現存の規模は東西2.20m、南北1.70m、深さ10cmである。土坑の底は平坦である。土坑の埋土は2層存在し、土坑北側から西側にかけての斜面部に堆積する黒褐色シルトとそれ以外の部分に堆積する灰黄褐色シルトがある。遺物は土師器鍋口縁部片、須恵器杯身片等が出土している。1は土師器の鍋である。口縁部は若干つまみあげの形態を呈する。2は破片が小さなことから不確定要素があるが、口縁部が外反することから須恵器杯身であると考えられる。1・2ともに破片であることから細かな時期を決めることはできないが、1は中世、2は古代のものと思定される。このことから土坑の時期は中世頃の所産と考えられる。

SX01 (第58・59図) : 調査区中央部で確認した遺構である。平面形は逆さ状を呈し、遺構の新旧関係は、前述のSK01を切り、暗渠1に切られる。遺構の規模は長軸7.0m、短軸(西側)3.0m、短軸(東側)3.35m、深さは(西側)62cm、深さ(東側)51cmである。この遺構の特徴として、遺構東側の北側および南側斜面部を中心に円礫を部分的に使用した石積みが認められる。確認した石積みについては、崩落が著しく、本来、斜面部全てに石積みが施されていたか不明である。土層は1層存在し、いずれもシルトであることから、堆積状況から徐々に埋没していった状況が認められる。当遺構の特徴として、調査中においても湧水量が多かったことから、湧水施設であると想定されるが、当遺構の下方には、湧水施設からの導水施設(溝)が現在は認められないことから、現段階では部分的な水掛りに関係する施設と想定しておきたい。

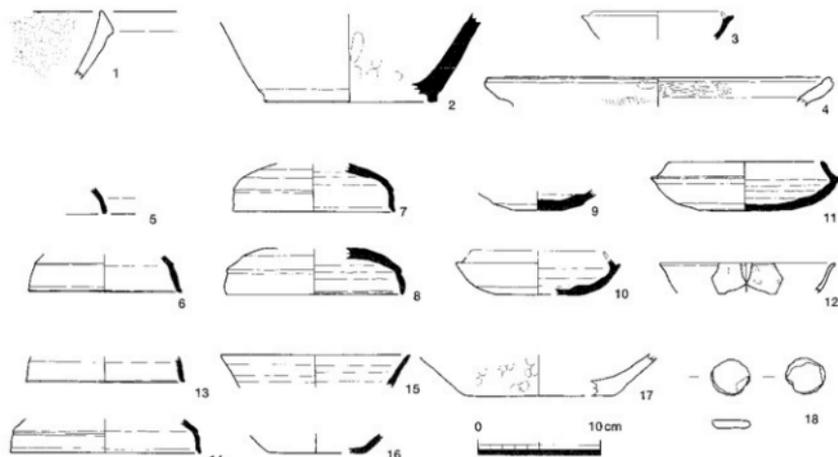
1は柴付の壺の口縁部と考えられる。2は龍泉系赤青磁の小碗である。幅広い鈍い選弁をもつことから森田分類のⅢ-2類に該当するものであると考えられる。3は柴付の皿である。小片であるため全体の文様構成を確認することはできないが、外面は渦を、内面は区画文を描く。4は備前焼小徳利の底部である。外面にはヘラケズリが認められる。

溝溝 (第10図) : 調査区北端を中心に概ね東西方向を指向する溝群で、調査区内を通して続くものは認められず、いずれの溝も断続的に確認した。規模に多少の差はあるが溝幅20~30cm、溝削10~15cm、深さ2~5cmと非常に浅い。確認した溝は上記の特徴から、耕作に伴うものであると考えられる。溝溝上中からの遺物の出土はない。

土壌層 (第60図) : 調査区北半部において平面で確認した褐色シルトである。最も深い北端では15cm程度の堆積が見られるが、南半部は後世の削平により存在しない。土壌層の比較的残りのよい北半部において畦畔の検出を行ったが、上部の削平が著しく確認できなかった。上層腐からの遺物は出水状遺構SX01の西側縁部を中心に比較的大きな破片が出土している。

1~4は北半部の土壌層から出土したものである。1は瓦質の鉢である。口縁部は上下に多少拡張する。内面には4条の条溝が認められる。2は須恵器壺の底部である。底部はしっかりとした高台がついている。3は須恵器の杯身である。口縁部のかえりを欠損するが、華奢なかえりが付く形態になるものと想定される。4は土師器壺の口縁部である。口縁部はつまみあげない形態を呈するもので、口縁部内面と、頸部外面にハケメが認められる。5~12はSX01の西側面に出土したものである。5~8は杯蓋、口縁は12~14cmで口縁部と大上部の境の後は明瞭である。口縁部内面に段を持つものと持たないものが認められ、持たないものが時期的には後出するものであろう。9~11は杯身である。口縁は13.5~15.5cmである。11は法華等から8とセットになるものと考えられる。12は柴付の碗である。内面には吉祥文字と考えられる「回・貫」に見える文字が描かれている。13~18はSX01の東側面を中心に出土したものである。13・14は須恵器の杯蓋である。上記の6・7同様、口縁部内面に段を持つ。15・16は須恵器の杯である。17は弥生土器壺の底

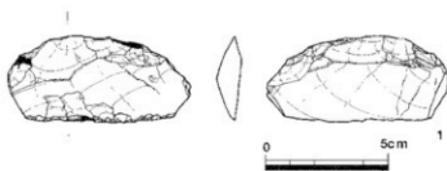
部と考えられる。18は泥面子もしくは紡錘車の未製品であると考えられる。土壌層出土器の出土位置をみた場合、北半部については古代から中世の遺物が出土し、SX01を挟んだ周辺部に限定して古墳時代の須恵器が出土している。古墳時代の須恵器は、当調査区以外の調査対象地からは出土していない状況を考えると、当調査区周辺に古墳時代の遺構の存在が想定される。また、12を除く他の出土遺物を見た場合、当土壌層の長期間にわたる使用が考えられる。



第60図 土壌層出土遺物 (1/4)

側溝掘削時出土遺物 (第61図)

1はサヌカイト製のスクレイパーである。下縁部は片方からのみの調整により刃部をつくる。上縁部は両側からの粗い調整がみられるが、敲打による背演しが認められないことから、未製品であるものと想定される。



第61図 側溝掘削時出土遺物 (1/4)

参考文献：第1章～3章

香川県教育委員会1996～2002『空堀跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 空堀跡地遺跡Ⅰ～Ⅴ』

香川県教育委員会1998『宮川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 木太本村Ⅱ遺跡』

高松市教育委員会1992・1999『讃岐国弘福寺領の調査Ⅰ・Ⅱ』

高松市教育委員会他1995『一般国道11号高松東道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第7冊 厨石遺跡』

高松市教育委員会2000『太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 上西原遺跡』

高松市教育委員会2001『太田第2土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第5冊 門原遺跡』

高松市教育委員会2000『市道林町47号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宮西・一角遺跡』

香川県教育委員会1993『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2巻 林・坊城遺跡』

香川県教育委員会1992『中小河川大東川改修工事(津ノ郷橋～弘光橋間)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津元結木遺跡』

庄内式土器研究会2001『庄内式土器研究ⅩⅩⅣ』

菅原康夫・梅木謙一編2000『弥生土器の様式と編年四国編』

森田勉 稲川賢次郎 1978『大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心として—』九州歴史資料館研究論集Ⅰ 4集 九州歴史資料館 後に『大宰府陶磁器研究—森田勉氏遺稿集—』1996 森田勉氏遺稿集・追悼発行会 所収

第4章 自然科学的分析・胎土分析

第1節 高松市宗高坊城遺跡より出土した赤色顔料付着遺物の蛍光X線分析について

徳島県立博物館 魚島純一

高松市教育委員会の依頼を受けて、宗高坊城遺跡出土遺物の表面に付着した赤色顔料の同定を目的とした定性分析を行ったのでその結果を報告する。

1. 試料

宗高坊城遺跡出土 土器破片（台付鉢底部）1点（第29図145）

土器内面底部付近に、赤色顔料が点々と付着していることが肉眼で容易に観察できる。

2. 方法

蛍光X線分析装置を使って試料表面の非破壊定性分析を行い、試料に含まれる元素の種類を調べ、用いられた赤色顔料を推測することとした。

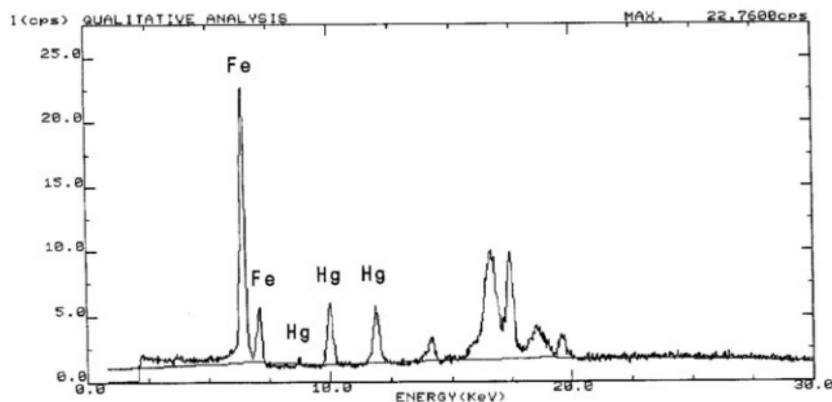
分析には徳島県立博物館に設置されたテクノス製エネルギー分散型蛍光X線分析装置TREX630Lを用いた。

測定条件は次のとおり。

X線管	: Mo	X線管電圧	: 50 kV
X線管電流	: 0.2 mA	検出器	: Si (Li)
測定時間	: 100秒	測定雰囲気	: 大気

3. 結果と考察

試料の内面に付着した赤色顔料部分を分析した結果、Hg（水銀）が検出された（第62図）。このことから、この試料に付着した赤色顔料はHg（水銀）を主成分とする水銀朱（辰砂 HgS）であると考えられる。



第62図 試料内面赤色顔料付着部分の蛍光X線分析結果

第2節 宗高坊城遺跡出土土器の胎土分析 —下川津B類土器の分析を中心に—

岡山理科大学自然科学研究所
白石 純

1. 分析の目的

宗高坊城遺跡出土の弥生時代後期～古墳時代初頭の土器で、多量の角閃石・長石の混入や形態的特徴から、いわゆる「下川津B類土器」と呼ばれている土器がある⁽¹⁾。しかし、中には角閃石の含有量が少ない土器がみられる。そこで、これら土器が理化学的な胎土分析でどのように分類されるか。特に、下川津B類土器のなかで、細分が可能か。また、高松平野部の上天神遺跡⁽²⁾、空港跡地遺跡⁽³⁾、中間西井坪遺跡⁽⁴⁾、岡清水遺跡⁽⁵⁾から出土している下川津B類土器が遺跡や地域で、胎土に違いがあるかどうか。そして、同平野部の6地点でサンプリングした粘土と遺跡出土土器を比較検討した。



第63図 下川津B類土器推定粘土採集地および胎土分析関係遺跡位置図

2. 分析方法・試料

胎土の分析方法には、二つの方法を採用した。

一つは、蛍光X線分析法で、胎土中の成分(元素)量を調べる方法である。この方法は、分析試料を一部破壊して測定した。以下に試料作製、測定装置、方法、について述べる。

試料の作製方法は、土器表面の汚れを除去し、乾燥(80℃で1時間)したものをタンクステンカーバイト製の粉砕容器に詰め、試料粉砕機により約200メッシュほどに細かく粉砕し粉末試料にする。この粉末試料を塩化ビニール製のリング(直径約25mm、厚さ約2mm)に詰め、油圧式成形機で約1.5t圧力を加えコイ

ン状に成形したものを、蛍光X線分析装置の測定試料とした。分析装置はエネルギー分散型卓上型蛍光X線分析計SEA2010I。(セイコーインスツルメント社製)を使用した。測定条件は、X線照射径:10mm、電流:50~200mA、電圧:50KV・15KV、測定時間:200秒、測定室:真空で測定した。また、各元素の定量値は、地質調査所のJA-1標準試料を用いて検量線を作成し求めた。測定した元素はSi(珪素)、Ti(チタン)、Al(アルミニウム)、Fe(鉄)、Mn(マンガン)、Mg(マグネシウム)、Ca(カルシウム)、Na(ナトリウム)、K(カリウム)、P(リン)、Rb(ルビジウム)、Sr(ストロンチウム)、Zr(ジルコニウム)の13元素である。このうちRb、Sr、Zrの3元素は微量元素であり単位はppmである。

もう一つは、実体顕微鏡を用いた土器表面の砂粒観察である。これは、胎土に含まれている砂粒(岩石・鉱物)の種類、含有量を肉眼観察により判別し、どのような地質基盤の粘土を用いているか調べる方法である。

分析試料は、表1に示した114点の試料で、土器100点、粘土14点である。

3. 分析結果

(1) 蛍光X線分析

第64図K-Ca散布図では、宗高坊城遺跡Ⅰ区SR01、Ⅱ区SK01出土の弥生時代後期~古墳時代初期の下川津B類とその他の土器が胎土分析でどのように分類されるか検討した。その結果、3つの胎土に分類された。

Ⅰ類……Ca量が約3%以上で、K量が約1%以下に分布する。

下川津B類1、3、4、9、20、25、26、31、35、36、37、38、47、53、54、57、59、60、61、62、64、65、66、67、68、69、75、76、103、104、201、202、203、204、205

Ⅱ類……Ca量が約1.5%~約3%で、K量が約0.8%~約1.5%に分布する。

下川津B類13、33、34、56、58、63、71

その他12、14、39、41、77

Ⅲ類……Ca量が約1%以下で、K量が約1%~3.5%に分布する。

その他の土器

なお、Ⅰ類が下川津B類土器である。

第65図K-Ca散布図では、宗高坊城遺跡出土土器と高松平野でサンプリングした粘土の比較を行った。すると、サンプリング1木太鬼無線試掘(弥生中期後半の遺構ベース層)がⅡ類の角閃石の含有量が少ない下川津B類土器に、サンプリング1-4木太鬼無線試掘(弥生中期後半の包含層)がⅠ類の下川津B類土器の分布域に分布した。サンプリング2木太鬼無線試掘(地山粘質土)の粘土は6、11、42の土器と分布が重複した。その他のサンプリング3(津内・東井坪遺跡)、4(上西原遺跡)、5(六条・乾遺跡)、6(六条町38号線試掘)の粘土はⅢ類にすべて分布した。SR01とSK01から出土した下川津B類土器の比較では、どちらも同じ胎土であった。ただ、SK01の205はⅡ類に分布した。

第66図K-Ca散布図では、宗高坊城遺跡と高松平野部の上天神遺跡、空港跡地遺跡、中間西井坪遺跡、岡清水遺跡から出土している下川津B類土器が各遺跡別で違いがあるかどうか調べた。すると宗高坊城Ⅰ類と中間西井坪および、宗高坊城Ⅱ類と空港跡地の分布範囲がそれぞれ同じであった。そして、上天神・空港跡地・岡清水の各遺跡の分布域がそれぞれ重なった。

第67図Ti-Ca散布図では、木太中村遺跡のSR4001出土土器⁽⁴⁾で、考古学的な知見から山陰系301(第153図44)、吉備系302(第153図48)と考えられるものが、どこに推定されるか検討した。その結果、302の吉備型と考えられる土器は、吉備地方の胎土に類似していた。しかし、301の山陰系と考えられる土器は、宗高坊城遺跡の在地産土器が分布する領域に分布した。

(2) 実体顕微鏡による砂粒観察

宗高坊城遺跡出土土器を実体顕微鏡観察したところ、以下の胎土に分類された。

1類……1mm以下の角閃石・長石を多量に含み、閃緑岩の岩片もみられる。(写真1)

2類……1mm以下の黒雲母を多量に含み角閃石・長石も含まれる。(写真2)

3類……1mm~2mmの石英・長石と、0.5mm以下の火山ガラスを含む。(写真3・4)

4類……1mm前後の石英・片岩?を少量含む。素地は非常に精製した粘土。

(写真5・6)

以上のように、4つの胎土に分類される。そして、1・4類は下川津B類土器(蛍光X線分類Ⅰ類)に、2

類は、蛍光X線分類のⅡ類に、3類は蛍光X線分類のⅢ類に、それぞれ該当する。また、4類は蛍光X線分析では、下川津B類土器の分析値と同じであったが、砂粒観察では片岩?が観察された。

高松平野部でサンプリングした粘土の観察では、サンプリング1-4木太鬼無線試掘(弥生中期後半の包含層)(写真7)は1mm以下の角閃石・長石を多量に含み、閃緑岩の岩片が観察され1類に、サンプリング1-1木太鬼無線試掘(弥生中期後半の遺構ベース層)(写真8)は1mm以下の黒雲母を多量に含み角閃石・長石が観察され、2類にそれぞれ類似していた。

4. 考察

宗高坊城遺跡出土土器の「下川津B類土器」を中心として蛍光X線分析法と実体顕微鏡観察法の胎土分析を実施したところ、以下のことが明確になった。

(1) 宗高坊城遺跡出土土器は、蛍光X線分析法で3つに、実体顕微鏡観察法では4つにそれぞれ分類できた。このうち蛍光X線分類Ⅰ類と砂粒観察1・4類の分布域(下川津B類土器)には、顕微鏡観察でB類土器以外のものがみられた。それは、15と27の土器である。この土器は顕微鏡砂粒観察では、赤土が精製した粘土で、片岩?らしき砂粒が観察されることから、搬入品と推定される。また、蛍光X線分類Ⅱ類と砂粒観察2類および蛍光X線分類Ⅲ類と砂粒観察3類が胎土分析でそれぞれ対応した。

(2) 高松平野部でサンプリングした粘土との比較では、サンプリング1-4木太鬼無線試掘(弥生中期後半の包含層)の粘土が蛍光X線分類Ⅰ類の下川津B類土器の分布域に分布した。また、砂粒観察でも下川津B類土器の砂粒によく類似していた。このことから、下川津B類土器の粘土は、この地点および周辺の粘土が使用されていることが推定される。

サンプリング1-1木太鬼無線試掘(弥生中期後半の遺構ベース層)は、蛍光X線分類Ⅱ類・砂粒分類2類に類似していた。

以上のように、サンプリング1地点でも角閃石・黒雲母・長石の含有量が層位により異なっており、当時の粘土サンプリングもこれらの層位から採集されたと推定される。

(3) 高松平野部の各遺跡から出土している下川津B類土器で、遺跡によっては胎土差がみられるのは、(2)で述べたような理由により同一サンプリング地点でも、層位的に異なった層順から粘土を採集したために、胎土差がでたものと推定される。

(4) 木太中村遺跡より出土している吉備系土器は、胎土分析では吉備系からの搬入と推定された。しかし、山陰系の土器は、明らかにならなかった。

このように、今回の胎土分析では、いろいろと成果があった。特に、下川津B類土器の粘土採集地がほぼ特定された⁽⁹⁾。また、この粘土採集地でも粘土堆積層のサンプリング場所により、いわゆる下川津B土器からそれに類似するものまであることがわかった。

また、下川津B類土器に胎土分析値が類似する土器(砂粒観察では全く異なる)は、この砂粒観察から、搬入品と推定された。そして、この土器の生産地であるが、現在蓄積しているデータで検討すると、徳島県の吉野川流域の胎土に類似していることが推定されるが、再検討する必要がある。

この胎土分析の機会を与えていただいた山元敏裕氏、小川賢氏をはじめ、高松市教育委員会の職員の方々にはいろいろとお世話になった。記して感謝致します。

註

(1) 大久保徹也「下川津遺跡」瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 香川県教育委員会 1990

(2) 白石 純「上天神遺跡出土土器の胎土分析」上天神遺跡 香川県教育委員会 1995

(3) 白石 純「寺港跡地遺跡出土土器の胎土分析」空澄跡地遺跡Ⅱ 香川県教育委員会 1997

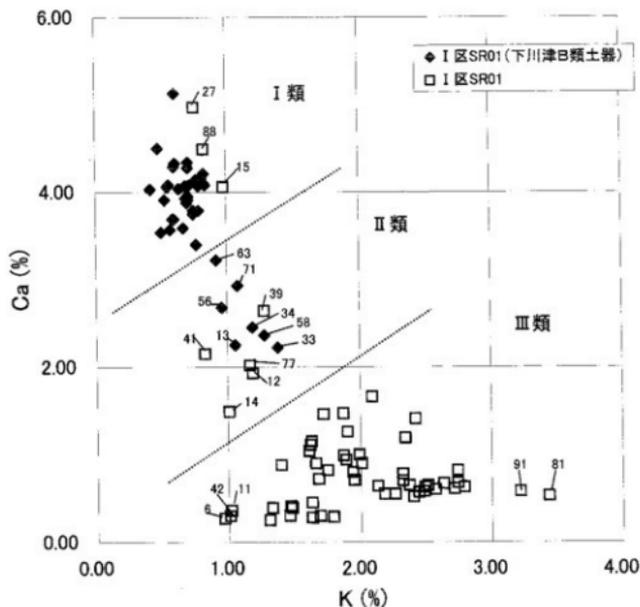
(4) 白石 純「中間西井坪遺跡出土土器の胎土分析」中間西井坪遺跡Ⅱ 香川県教育委員会 1999

(5) 白石 純「岡清水遺跡出土土器の胎土分析」岡清水遺跡 香川県教育委員会 2001

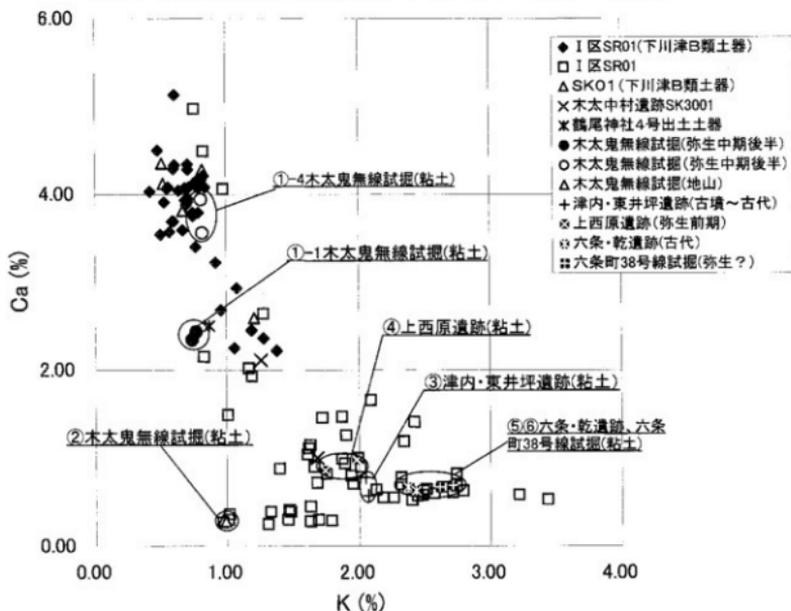
(6) 中西 克也「木太中村遺跡」高松市教育委員会 2001

(7) 藤下 友子・奥田 尚「太田下・須川遺跡」香川県教育委員会 1995

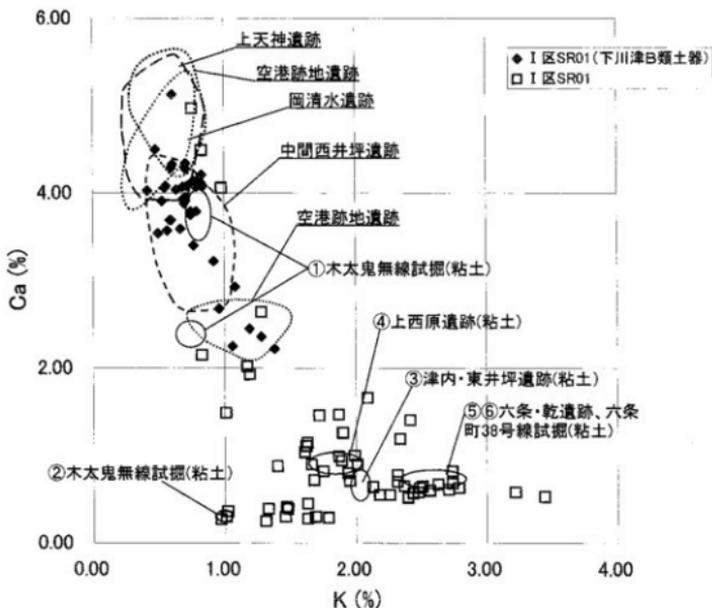
この報告でも、今回サンプリングした1地点付近から下川津B類土器に使用された粘土が産出することが指摘されている。



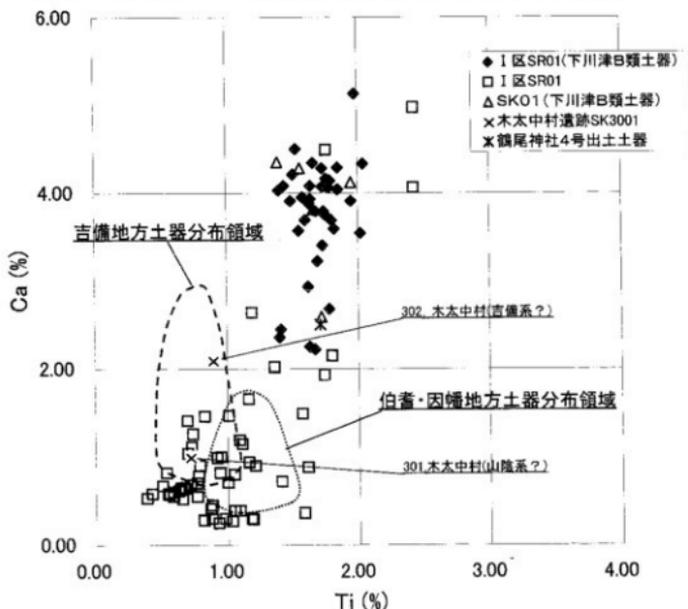
第64図 宗高坊城遺跡出土下川津B類、その他土器との比較 (K-Ca散布図)



第65図 宗高坊城遺跡と高松平野部出土粘土との比較 (K-Ca散布図)



第66図 下川津B類土器(宗高坊城遺跡と周辺遺跡)の比較(K-Ca散布図)



第67図 宗高坊城遺跡と搬入品土器の比較(Ti-Ca散布図)

第1表 茨城県産産物出土土層の鉛同位体分析一覧表 (%) Td1, Rb, Sr, Zrはppm

番号	産地名	土層	産種	Td1	Al	Fe	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr	備考		
1	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	54.16	2.04	21.30	12.31	0.20	2.29	4.33	1.79	0.61	0.71	72	105	187	B級土層
2	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	70.56	0.74	18.42	3.45	0.03	1.68	1.28	1.20	1.90	0.51	104	204	434	A級
3	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	55.53	1.69	22.24	10.54	0.17	2.35	3.79	1.89	0.79	1.27	66	268	194	B級土層
4	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	65.31	1.21	22.19	10.18	0.20	2.43	4.08	1.78	0.71	0.92	71	236	187	B級土層
5	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	66.38	0.95	19.22	5.59	0.04	1.77	1.00	1.96	1.99	1.12	219	166	361	A級
6	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	72.22	1.03	19.14	2.05	0.01	1.70	2.27	2.12	0.97	0.33	97	44	398	A級
7	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	68.72	0.92	19.44	3.24	0.02	1.70	0.99	2.17	1.87	0.75	188	159	364	A級
8	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	71.35	1.00	19.02	2.13	0.02	1.64	0.71	2.23	1.95	0.73	175	136	355	A級
9	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	65.11	1.60	22.35	11.41	0.23	2.44	4.08	1.96	0.84	0.72	103	187	191	B級土層
10	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	75.19	0.88	14.86	1.70	0.01	1.64	0.30	2.50	1.69	0.96	148	71	362	A級
11	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	65.02	1.58	20.97	5.97	0.07	1.86	3.06	2.56	1.02	0.39	108	52	462	A級
12	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	60.80	1.74	17.89	11.52	0.13	2.06	1.93	2.21	1.19	2.24	127	95	285	A級
13	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	56.17	1.63	22.79	10.75	0.13	2.13	2.25	1.93	1.06	0.96	125	231	194	A級
14	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	64.81	1.57	22.20	13.32	0.22	2.22	1.49	1.87	1.01	0.07	107	141	368	A級
15	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	58.95	2.43	20.38	7.96	0.11	2.26	4.00	2.10	0.59	0.85	93	185	244	A級
16	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	69.04	0.99	18.74	3.41	0.03	1.61	0.55	2.64	2.26	0.89	187	109	322	A級
17	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	67.21	0.79	20.17	3.71	0.04	1.82	0.90	3.32	1.66	1.12	196	164	333	A級
18	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	広口壘	67.44	1.00	20.70	3.51	0.03	1.80	1.04	2.32	1.61	0.74	184	145	145	A級
19	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	70.01	0.65	17.56	4.89	0.33	1.77	0.39	2.00	1.33	0.82	191	69	368	A級
20	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	短頸壘	53.99	1.40	24.22	9.95	0.17	2.64	4.03	2.19	0.42	0.76	38	179	231	B級土層
21	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	短頸壘	75.33	0.82	15.80	1.26	0.01	1.68	0.28	2.38	1.83	0.83	148	62	964	A級
22	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	短頸壘	70.43	0.72	17.99	2.36	0.02	1.72	0.68	2.47	2.74	0.89	171	132	349	A級
23	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	長頸壘	66.00	2.21	21.87	3.67	0.03	1.60	0.90	1.49	2.01	0.89	200	141	397	A級
24	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	長頸壘	53.02	1.49	23.39	12.18	0.18	2.66	3.01	2.44	0.53	0.75	33	161	145	B級土層
25	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	長頸壘	53.94	2.17	22.86	11.26	0.19	2.94	4.08	2.23	0.56	0.21	60	292	78	B級土層
26	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	複合口壘	58.93	2.43	19.31	6.67	0.14	2.55	0.97	1.73	0.76	0.35	26	161	300	A級
27	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	複合口壘	71.65	0.65	17.86	1.38	0.00	1.72	0.63	2.44	2.79	0.69	207	128	292	A級
28	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	複合口壘	70.70	0.77	18.26	1.90	0.02	1.68	0.70	2.72	2.32	0.85	218	131	303	A級
29	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	口壘	64.43	1.05	18.85	5.22	0.05	1.80	0.80	2.68	1.34	0.12	105	131	492	A級
30	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	口壘	58.60	1.76	20.86	10.43	0.13	2.53	1.16	2.01	0.81	0.62	79	221	139	B級土層
31	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	赤土層	71.10	0.68	17.90	3.22	0.03	1.71	0.64	1.98	2.13	0.41	178	128	321	A級
32	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	赤土層	60.78	1.67	20.20	8.40	0.11	1.90	2.22	2.27	1.38	0.90	82	263	320	B級土層
33	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	長頸壘	61.66	1.41	20.35	8.16	0.11	1.98	2.45	2.25	1.19	0.25	103	209	281	B級土層
34	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	長頸壘	53.84	1.64	22.35	11.94	0.20	2.53	3.93	2.85	0.69	0.60	75	194	185	B級土層
35	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	長頸壘	54.56	1.90	20.69	12.16	0.18	2.63	3.15	2.27	0.61	0.59	96	229	187	B級土層
36	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	54.38	1.85	21.75	11.55	0.18	2.31	4.04	2.45	0.64	0.65	63	269	152	B級土層
37	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	54.29	2.02	22.37	12.70	0.22	2.14	3.54	1.45	0.50	0.56	51	287	183	B級土層
38	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	60.43	1.19	20.67	6.20	0.12	2.20	2.64	2.84	1.28	0.22	122	300	416	A級
39	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	63.03	0.83	20.85	6.42	0.05	1.95	1.46	3.07	1.72	0.51	220	201	344	A級
40	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	61.78	1.62	22.95	12.95	0.15	2.52	3.02	2.73	0.47	0.11	35	156	145	B級土層
41	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	71.31	1.18	18.85	2.13	0.02	1.63	0.30	2.21	1.01	1.10	99	75	463	A級
42	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	66.19	0.73	20.49	3.71	0.04	1.70	1.11	2.99	1.62	1.07	182	190	402	A級
43	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	52.00	1.41	23.61	5.40	0.04	1.90	0.72	2.53	1.68	0.58	160	101	640	A級
44	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	71.40	0.69	17.48	2.61	0.01	1.86	0.60	2.48	2.57	0.41	199	121	315	A級
45	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	61.26	1.63	21.85	10.42	0.05	2.18	0.65	2.47	2.12	0.61	261	185	187	B級土層
46	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	54.68	1.58	22.85	10.08	0.18	2.26	3.95	2.21	0.71	1.53	47	224	149	B級土層
47	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	69.19	0.54	19.33	1.92	0.01	1.60	0.82	3.13	2.74	0.58	204	101	178	A級
48	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	壘	70.18	0.70	16.49	3.59	0.03	1.75	1.41	2.52	2.42	0.75	165	189	251	A級
49	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	小形丸壘	63.83	0.88	16.76	2.51	0.01	1.77	0.49	2.91	1.63	1.29	188	76	348	A級
50	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	71.85	0.63	17.82	4.42	0.01	1.85	0.83	1.78	1.42	0.81	265	185	215	B級土層
51	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	71.82	0.67	18.12	2.06	0.01	1.57	0.65	2.13	2.51	0.58	189	142	312	A級
52	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	54.29	1.55	23.45	11.02	0.17	2.45	3.57	2.24	0.57	0.52	60	167	195	B級土層
53	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	55.44	1.51	20.79	11.69	0.17	2.05	4.21	2.31	0.83	0.82	91	352	186	B級土層
54	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	56.10	1.73	21.48	9.64	0.16	2.16	3.40	3.46	0.77	0.88	83	254	229	B級土層
55	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	59.55	1.76	21.77	8.03	0.17	2.15	2.68	2.50	0.95	0.74	87	201	258	B級土層
56	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	55.83	1.75	20.48	11.87	0.22	2.38	3.75	2.56	0.75	0.27	72	190	220	B級土層
57	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	58.54	1.40	20.14	9.88	0.13	1.94	2.36	2.99	1.28	0.10	120	282	224	B級土層
58	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	55.40	1.79	21.05	11.86	0.19	2.40	4.14	1.98	0.77	0.42	85	271	198	B級土層
59	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	64.43	1.77	21.83	10.87	0.17	2.29	4.07	2.50	0.79	0.99	89	279	158	B級土層
60	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	55.13	1.80	21.19	10.32	0.18	2.40	3.99	1.89	0.60	0.67	80	190	150	B級土層
61	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	54.36	1.80	22.86	11.67	0.18	2.38	3.69	2.21	0.59	0.60	60	249	208	B級土層
62	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	大形壘	58.86	1.69	20.50	9.97	0.16	2.03	3.22	1.74	0.92	0.68	92	278	201	B級土層
63	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯	53.95	1.78	22.27	11.77	0.21	2.44	4.06	1.79	0.55	0.87	78	189	129	B級土層
64	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯	64.72	1.82	21.82	10.85	0.17	2.42	3.58	2.17	0.67	1.52	200	264	368	B級土層
65	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯	54.48	1.65	23.13	11.39	0.19	2.38	4.29	2.62	0.73	0.58	73	283	231	B級土層
66	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯	53.87	1.71	21.82	10.97	0.01	2.35	4.07	2.63	0.69	0.51	66	260	78	B級土層
67	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯	54.97	1.66	22.75	9.96	0.18	2.34	4.34	2.70	0.71	1.31	65	221	142	B級土層
68	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯(杯部)	54.96	1.64	22.50	10.59	0.18	2.41	4.08	1.94	0.72	0.79	53	262	143	B級土層
69	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯(杯部)	69.00	0.78	19.56	2.35	0.02	1.77	0.78	2.50	2.32	0.72	196	146	322	A級
70	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯(杯部)	67.84	1.52	20.22	10.75	0.20	2.15	2.83	2.87	1.08	0.13	109	185	256	B級土層
71	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯(杯部)	67.05	1.66	22.12	12.00	0.17	2.29	3.56	2.92	1.14	0.56	122	140	316	A級
72	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯(杯部)	69.30	0.64	18.48	1.88	0.00	1.65	0.63	2.41	1.29	1.28	207	127	368	A級
73	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯(杯部)	66.16	1.16	20.70	4.44	0.03	1.75	0.94	1.73	1.89	1.06	194	145	498	A級
74	常高坊城跡跡	Ⅰ区S01	高杯(杯部)	83.04	1.53	23.46	10.87										

番号	遺跡名	地区	器種	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr	備考
102	奈良坊城遺跡	I区SR01	灰口鐵	61.59	1.81	23.18	6.40	0.06	2.13	0.88	1.81	1.40	0.78	133	123	33.7	
103	奈良坊城遺跡	I区SR01	高杯	55.58	1.63	23.04	10.33	0.16	2.37	3.88	1.42	0.70	0.67	71	232	214	B類土器
104	奈良坊城遺跡	I区SR01	高杯	55.83	1.74	21.06	11.03	0.17	2.12	3.79	2.62	0.75	0.70	73	327	217	B類土器
105	奈良坊城遺跡	I区SR01	高杯	72.91	0.77	16.27	2.83	0.02	1.94	0.55	2.33	2.18	0.56	148	113	349	
201	奈良坊城遺跡	II区SK01	高杯	52.23	1.66	23.80	12.79	0.21	2.34	3.81	2.21	0.67	0.95	56	274	193	B類土器
202	奈良坊城遺跡	II区SK01	大形鉢	53.31	1.56	23.85	11.10	0.18	2.19	4.26	2.61	0.82	0.39	91	245	198	B類土器
203	奈良坊城遺跡	II区SK01	甕	51.45	1.95	24.05	12.34	0.23	2.38	4.12	2.38	0.92	0.34	61	256	164	B類土器
204	奈良坊城遺跡	II区SK01	灰口鐵	51.27	1.30	21.89	14.66	0.27	2.22	4.35	3.11	0.51	0.11	27	263	163	B類土器
205	奈良坊城遺跡	II区SK01	灰口鐵	63.01	1.72	18.64	7.83	0.14	2.02	2.59	2.55	1.21	0.16	84	250	325	B類土器
301	木太中村遺跡	SR4001	複合口縁甕	66.02	0.73	20.02	5.53	0.06	1.75	1.00	2.81	1.69	0.18	173	159	365	山陽系
302	木太中村遺跡	SR4001	複合口縁甕	61.58	0.92	22.16	6.86	0.09	1.89	2.11	2.59	1.26	0.36	102	367	211	山陽系
1	鶴庭野4号墳			54.62	1.71	21.20	13.30	0.15	2.17	2.50	2.72	0.87	0.05	101	190	188	B類土器
1	木太中村遺跡	SK3001	甕	52.98	1.40	20.13	13.76	0.23	2.48	5.03	2.48	0.75	0.53	33	325	138	B類土器
2	木太中村遺跡	SK3001	甕	54.53	1.64	20.04	12.01	0.19	2.24	4.59	2.81	0.90	1.05	49	331	154	B類土器
3	木太中村遺跡	SK3001	甕	57.40	1.20	18.19	11.22	0.17	2.14	4.32	2.45	1.13	0.61	77	326	177	B類土器
1	木太中村遺跡	SK3001	甕	55.56	1.61	18.19	13.73	0.20	2.12	3.84	1.91	0.61	0.80	58	310	219	B類土器
2	木太中村遺跡	SK3001	甕	56.53	1.51	18.45	11.42	0.16	2.13	2.59	2.84	1.05	0.59	86	247	190	B類土器
3	木太中村遺跡	SK3001	甕	56.55	1.39	18.04	12.48	0.19	2.18	4.41	1.86	1.08	0.57	83	296	167	B類土器
1	木太中村遺跡	SK3001	高杯	53.63	1.89	20.28	14.05	0.22	2.41	4.82	1.77	0.66	0.08	77	294	142	B類土器
2	木太中村遺跡	SK3001	高杯	52.57	1.69	21.75	14.06	0.24	2.11	3.67	2.25	0.59	0.88	101	349	338	B類土器
3	木太中村遺跡	SK3001	高杯	53.61	1.75	18.29	13.85	0.22	2.20	5.25	1.93	0.90	0.75	91	361	164	B類土器
1	木太中村遺跡	SK3001	鉢	69.78	0.46	14.85	8.17	0.07	1.72	0.87	2.71	2.38	0.86	194	131	323	B類土器
2	木太中村遺跡	SK3001	鉢	64.64	0.72	18.14	6.97	0.06	1.62	1.58	2.46	2.25	1.34	179	242	443	
3	木太中村遺跡	SK3001	鉢	71.16	0.46	15.31	5.18	0.04	1.43	0.56	2.84	2.51	0.28	188	130	316	
1-1	木太鬼無塚試掘	自然乾燥	粘土	54.96	1.53	22.07	13.05	0.22	2.19	2.34	2.64	0.74	0.06	82	221	359	弥生中期後半
1-1	木太鬼無塚試掘	800℃焼成	粘土	55.18	1.42	21.80	12.71	0.21	2.20	2.42	3.61	0.77	0.06	110	236	291	弥生中期後半
1-4	木太鬼無塚試掘	自然乾燥	粘土	56.78	1.97	19.94	12.76	0.25	2.21	3.58	2.53	0.82	0.08	90	340	428	弥生中期後半
1-4	木太鬼無塚試掘	800℃焼成	粘土	57.20	2.02	18.68	12.25	0.25	1.96	3.94	2.48	0.61	0.07	89	333	542	弥生中期後半
2	木太鬼無塚試掘	自然乾燥	粘土	65.99	1.89	16.72	10.24	0.22	1.76	0.29	1.58	0.97	0.13	124	59	430	弥生前期
2	木太鬼無塚試掘	800℃焼成	粘土	66.13	1.81	17.51	9.17	0.17	1.64	0.28	2.00	0.99	0.14	149	67	431	基礎層
3	津久・東井坪遺跡	自然乾燥	粘土	71.75	0.35	14.44	5.74	0.06	1.51	0.57	3.20	2.07	0.18	162	105	209	古墳～古代
3	津久・東井坪遺跡	800℃焼成	粘土	67.75	0.57	17.47	5.84	0.07	1.84	0.78	3.19	2.05	0.13	175	104	273	古墳～古代
4	上西原遺跡	自然乾燥	粘土	75.01	0.66	15.14	2.14	0.03	1.65	0.98	2.07	1.98	0.15	212	136	263	弥生前期
4	上西原遺跡	800℃焼成	粘土	71.84	0.61	15.94	1.88	0.02	2.12	0.86	4.72	1.74	0.11	182	129	219	弥生前期
5	六条・乾遺跡	自然乾燥	粘土	66.03	0.54	17.80	8.05	0.19	1.61	0.67	2.24	2.37	0.12	246	130	258	古代
5	六条・乾遺跡	800℃焼成	粘土	67.23	0.57	17.88	6.26	0.15	1.82	0.63	2.72	2.40	0.13	233	118	246	古代
6	六条町30号塚試掘	自然乾燥	粘土	66.64	0.53	17.58	6.83	0.61	1.74	0.87	2.51	2.61	0.11	239	144	262	弥生？
6	六条町30号塚試掘	800℃焼成	粘土	69.24	0.56	18.32	4.01	0.04	1.72	0.69	2.39	2.71	0.14	269	127	297	弥生？

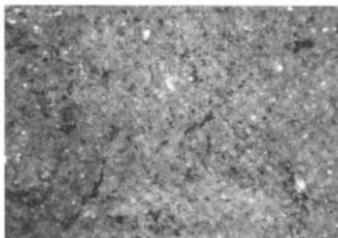


写真1. 資料1 広口壺 (下川津B類土器)、1類

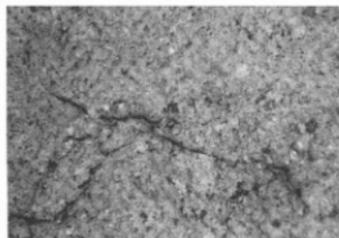


写真2. 資料13 広口壺 (下川津B類土器)、2類



写真3. 資料2 広口壺、3類

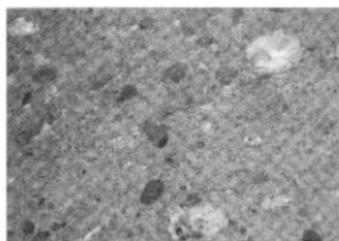


写真4. 資料5 広口壺、3類

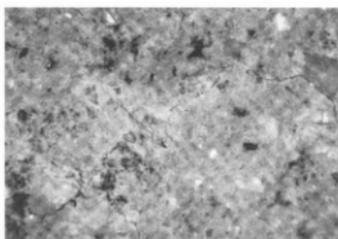


写真5. 資料12 広口壺、4類

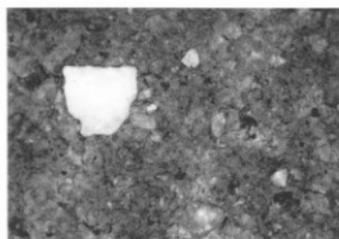


写真6. 資料27 広口壺、4類

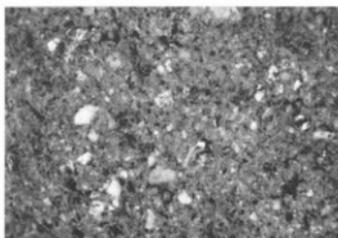


写真7. 粘土1-4 木太鬼無線試掘1類

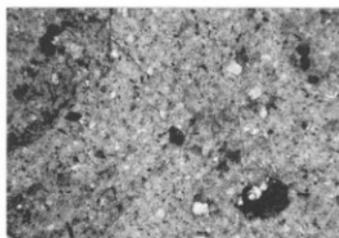


写真8. 粘土1-1 木太鬼無線試掘2類

実態顕微鏡による砂粒観察写真 (8倍)

第5章 まとめ

第1節 遺構の変遷について

宗高坊城遺跡で確認した遺構は、出土した遺物から大きく6期に分けられる。まとめとして調査区内における遺構の変遷を概観してみたい。

【縄文時代晩期～弥生時代前期】 旧河道にあたるⅠ・Ⅱ区で複数の流路及びその溜り部を検出した。流路自体は土器堆積層から水流の停滞した状況がうかがわれ、湿地化した環境が推察される。位置関係から本遺跡の河川は、林・坊城遺跡の上流にあたるものと考えられるが、当該期の林・坊城遺跡と比べ遺物の出土が極端に少なく、居住・農業等の活動域から離れるものと考えられる。

【弥生時代後期～古墳時代前期初頭】 旧河道の北岸にあたるⅤ区で、水路が複数検出された。また北岸～旧河道内となるⅠ区で、多量の土器を含む包含層が確認されている。一定の規模を有するSD201は後期前葉に属するもので、他の水路と同様に弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭に埋没する。Ⅰ区の包含層に含まれる多量の土器群も同様の所属時期を示すことから、西側微高地上に想定される集落の出現および廃絶期がうかがえる。

旧河道内となるⅡ区南部では、ST01をはじめ遺構が検出され、包含層からも一定量の遺物が出土した。遺構が認められることから、当該時期では河川としての機能が低下していたと推定される。

【古墳時代後期】 直接遺構に伴うものではないが、Ⅵ区の上墳層中から当該期の土器が出土している。今回の調査区内において遺構は認められないが、出土した土器に摩滅等が認められないことを考えた場合、流路等によって遠方から運ばれたものではなく、周辺に当該期の遺構が存在しているものと想定される。

【平安時代】 旧河道の両岸、Ⅲ・Ⅳ区において水路網が確認された。糸里方向とはやや異なる遺構が多く認められ、河川による地形の制約を受けたことが原因であると想定される。これらの水路は、Ⅳ区低地帯と合わせ当該期に廃絶・埋没しているが、旧河道内でも当該期に比定される堆積層の上位では、ほぼ水平な堆積層が認められ、以後は旧河道の大半が埋没していたと想定される。

【中世】 調査区全域が生産域として利用されていたものと想定され、住居等の遺構は認められない。遺構はⅤ区SD102（東西糸里方向に一致）、Ⅳ区SB01（石組み井戸）が認められるのみである。

【近世～近代】 当該期の土地利用に関して中世以降と大きく変わる状況にはないが、Ⅲ・Ⅳ区は検出遺構から宅地として利用されているようである。遺構はⅢ区SB01、SD04、SD05、SX01、Ⅳ区宅地跡、Ⅵ区SD01、SX01などが認められる。

第2節 出土弥生土器について 胎土分析からみた製作地の想定一

宗高坊城遺跡のⅠ・Ⅱ区旧河道内からは多くの弥生時代後期末を中心とする時期の土器が出土した。今回、出土した土器の時期別の出土量を見た場合、出土土器の8割を弥生時代後期末から古墳時代前期初頭のもの、後期初頭のもの、古墳時代前期の土器が少量出土している。これらの状況は集落遺構が確認されている宗高坊城遺跡の南約500mに所在する空港跡地遺跡でも同様な時期傾向が認められる。地理的にも近接した位置にあること、同一の旧河道の周辺に位置している等、共通点が多いことが認められる。宗高坊城遺跡から出土した弥生土器にほとんど摩滅等が認められないことを考えると、空港跡地遺跡で確認されている弥生時代後期末頃の集落と同時期の集落が北側にも想定される。今回、旧河道から出土した土器は、その出土状況から西側微高地の集落から投棄されたものが旧河道内に堆積したものと想定される。

さて、出土した土器の多くが下川津B類土器と呼ばれる胎土中に角閃石・長石を多量に含み、形態に特徴をもつものである。今回、当遺跡出土の土器は岡山理科大学白石純氏によって自然科学的な分析が行われている（本章第4章第2節に詳細報告）。今回の分析には弥生土器の分析に併せて高松平野内で採集した粘土も分析の対象としている。これらの分析の結果、従来、下川津B類土器の粘土採集地の一つと想定されている淨願寺山南側とは反対である北側において採集したサンプルがB類土器の分析値と合致したことは大きな成果であると考えられる。同時に淨願寺山と石清尾山の東側御根付付近で採集された粘土サンプルは下川津B類土器の分析値と合致しないことも判明した。このことは石清尾山塊の中でも、製作場所および粘土採集地が限定（淨願寺山）されていたことを示すものであろうか。

今後、高松平野における地道な胎土分析の積み重ねが必要である。なお、高松平野で行われている弥生時代後期の遺跡調査ではほとんど出土せず、他地域に搬入されている下川津B類土器と考えられる胎土をもつ大形の複合口縁壺や台付小形丸底壺など特殊な土器の製作地を淨願寺山にある粘土採集地付近に求めるのもひとつの考え方もかもしれない。

第2表 宗高坊城遺跡出土遺物観察表

遺物番号の口は、存在数を表す。遺物のサンプル番号は、第1巻の発土分析一覧表の番号と一致する。

番号	品名	法基 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	口縁	高さ				
1	焼土土器 深鉢			(6.4)	外面: 灰化、1線彫刻; 内口、口縁部: 彫刻; 彫刻; 彫刻 内面: ナメ	外面: N2/O8色 内面: 10YR7/2灰黄褐色	3mm以下の長石を含む。	Ⅱ区 SR02出土
2	焼土土器 深鉢			(6.0)	外面: 彫刻; 彫刻; 彫刻; 彫刻 内面: 彫刻	外面: 2.5Y4/2灰褐色 内面: 2.5Y4/2灰褐色	4mm以下の長石、石炭を含む。	Ⅰ区 SR01出土

Ⅱ区 ST01

番号	品名	法基 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	口縁	高さ				
1	焼土土器 高杯	20.8	11.4	15.9	外面: 彫刻、1線彫刻; ココナダ 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ、彫刻; 内面: 彫刻	YR4/6赤褐色 内面: 2.5Y6/3 に黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	サンプル番号201
2	焼土土器 大形鉢	32.0		(6.9)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	2mm以下の長石、石英、角閃石 を含む。	サンプル番号202
3	焼土土器 深鉢	15.0	5.2	(3.8)	外面: 彫刻、1線彫刻; ココナダ、 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 彫刻; 彫刻; 彫刻; 彫刻; 彫刻; 彫刻; 内面: ナメ	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 2.5Y6/3に黄褐色	3mm以下の長石を含む。	サンプル番号203
4	焼土土器 広口壺	18.5		(1.5)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: ココナダ、彫刻	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 2.5Y6/3に黄褐色	1~2mmの長石、石英、金剛石 を含む。	
5	焼土土器 広口壺	16.6	5.8	(3.4)	外面: 口縁部: ココナダ、 内面: 口縁部: ココナダ、 彫刻; 彫刻; ナメ、下: ナメ	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 2.5Y6/3に黄褐色	5mm以下の長石、少量の金剛石 を含む。	サンプル番号204
6	焼土土器 広口壺	20.8		(3.7)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 彫刻; ナメ	YR4/6赤褐色 内面: 2.5Y 6/3に黄褐色	3mm以下の長石、石英を含む。	サンプル番号205
7	焼土土器 鉢	2.5		(3.3)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: ナメ	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 2.5Y7/2灰白色	全不発、1mm以下の長石、石英 を含む。	
8	焼土土器 鉢	2.5		(2.8)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 2.5Y4/2灰褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	1~2mmの長石、石英を含む。	

Ⅱ区 SK01

番号	品名	法基 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	口縁	高さ				
1	焼土土器 深鉢	15.4		(16.6)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	YR4/6赤褐色 内面: 2.5Y6/3 に黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	
2	焼土土器 小形鉢	8.2		(4.3)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻、ナメ	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 2.5Y6/3に黄褐色	全不発	

Ⅱ区 SK02

番号	品名	法基 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	口縁	高さ				
1	焼土土器 壺	11.0		(16.0)	外面: ココナダ、ナメ 内面: ココナダ(ナメ)	外面: 10YR7/2に黄褐色 内面: 10YR7/2に黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。	

Ⅱ区 SK03

番号	品名	法基 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	口縁	高さ				
1	焼土土器 高杯	15.0		(1.1)	外面: 口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。	
2	焼土土器 高杯	21.1		(4.3)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 金剛石、角閃石を含む。	
3	焼土土器 高杯	24.0		(3.3)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ 内面: 口縁部: ココナダ	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 金剛石、角閃石を含む。	
4	焼土土器 高杯	28.0		(10.0)	外面: ナメ 内面: ナメ、彫刻	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	3mm以下の長石、石英、少量の 金剛石、角閃石を含む。	
5	焼土土器 高杯	9.8		(13.1)	外面: ナメ 内面: ナメ、彫刻	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	3mm以下の長石、石英、少量の 金剛石、角閃石を含む。	
6	焼土土器 深鉢	13.8		(3.3)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 10YR7/2に黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	
7	焼土土器 深鉢	13.4		(4.8)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 彫刻; 彫刻	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 金剛石、角閃石を含む。	
8	焼土土器 深鉢	12.2		(2.3)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。	
9	焼土土器 深鉢	15.0		(3.0)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 2.5Y7/2黄褐色 内面: 2.5Y7/2黄褐色	4mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	
10	焼土土器 深鉢	4.9		(2.4)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: ナメ	外面: 3YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	1~2mmの長石、石英、少量の 金剛石を含む。	
11	焼土土器 深鉢	7.2		(3.2)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 10YR7/2に黄褐色	5mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	
12	焼土土器 深鉢	8.0		(3.6)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	3mm以下の長石、石英を含む。	
13	焼土土器 深鉢	3.2		(4.8)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	3mm以下の長石、石英を含む。	
14	焼土土器 深鉢	2.4		(2.3)	外面: ナメ 内面: ナメ	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 2.5Y6/3に黄褐色	3mm以下の長石、少量の角閃石 を含む。	
15	焼土土器 深鉢	15.8		(3.6)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 2.5Y6/3に黄褐色	3mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	
16	焼土土器 深鉢	18.0		(4.0)	外面: 口縁部: ココナダ 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ	外面: 2.5Y6/3に黄褐色 内面: 2.5Y6/3に黄褐色	5mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	
17	焼土土器 深鉢	25.0		(7.4)	外面: 口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻、口縁部: ココナダ	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	1~2mmの長石、石英、少量の 金剛石、角閃石を含む。	
18	焼土土器 深鉢	25.8		(4.6)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 2.5Y7/2黄褐色 内面: 2.5Y7/2黄褐色	5mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	
19	焼土土器 深鉢			(4.5)	外面: 彫刻、口縁部: ココナダ、 内面: 彫刻	外面: 10YR6/3に黄褐色 内面: 10YR6/3に黄褐色	5mm以下の長石、石英、少量の 金剛石を含む。	

20	養生土壌 遮断部		(9.2)	外側: 緑色 内側: オリーブ、赤おさえ	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 金雲母を含む。
21	養生土壌 巻体部	縦径 24.0	(11.1)	外側: ハク 内側: 上赤土ナガ、緑粘土、下赤土ナガ	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
S1	打削石底丁	長さ: 8.0cm、幅: 5.0cm、厚さ: 1.0cm、重さ: 51.2g				

1/FK 10層

番号	種類	寸法 (cm)		形態・干渉の特徴	色相	備考
		長さ	幅			
1	養生土壌 広口部	17.8	(12.2)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ナガ(ハク) 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ナガ、緑粘土	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
2	養生土壌 広口部	16.8	(15.8)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク、緑粘土、黄雲母 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ナガ、緑粘土	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
3	養生土壌 広口部	16.8	(15.8)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ナガ、緑粘土、ケソク	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
4	養生土壌 広口部	18.6	(21.4)	外側: 口縁部: 口縁部: ココナガ、体部: 緑粘土、ケソク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: 緑粘土、ケソク	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
5	養生土壌 広口部	16.8	(21.8)	外側: 口縁部: 口縁部: ココナガ、体部: ハク、ミガキ 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク、ミガキ	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
6	養生土壌 広口部		(17.5)	外側: 口縁部: 緑粘土、体部: ハク、ミガキ 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク、ミガキ	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	1~2mmの長石、石英、少量の 角閃石を含む。
7	養生土壌 広口部		(17.0)	外側: 口縁部: ハク、体部: 緑粘土、黄雲母、体部: ハク 内側: 口縁部: 緑粘土、ケソク	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	1~2mmの長石、石英、少量の 角閃石を含む。
8	養生土壌 広口部	18.6	(22.5)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: 緑粘土、ケソク	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
9	養生土壌 広口部	16.0	(11.0)	外側: 口縁部: 体部: 緑粘土 内側: 口縁部: 体部: 緑粘土	外側: 10YR7/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
10	養生土壌 広口部	17.2	(15.8)	外側: 口縁部: 体部: タクキ 内側: 口縁部: 体部: 緑粘土	外側: 5YR6/8に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
11	養生土壌 広口部	23.0	(4.0)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 10YR7/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
12	養生土壌 広口部	26.0	(2.5)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: 緑粘土、ケソク、緑石 内側: 口縁部: ココナガ、体部: 緑粘土、ケソク、緑石	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
13	養生土壌 広口部	26.0	(2.2)	外側: 口縁部: 口縁部: 体部: 緑粘土、ケソク、緑石 内側: 口縁部: 体部: 緑粘土、ケソク、緑石	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
14	養生土壌 広口部	15.4	(1.4)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: 緑粘土 内側: 口縁部: ココナガ、体部: 緑粘土	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
15	養生土壌 広口部	12.0	(4.2)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
16	養生土壌 広口部	15.0	(6.0)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク、ココナガ 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ナガ、緑粘土	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	1mm以下の長石、石英、角閃石 を含む。
17	養生土壌 巻体部		(5.2)	外側: ナガ、体部: 緑粘土、口縁部: ナガ 内側: ナガ	外側: 10YR7/3に近い黄褐色 内側: 10YR7/3に近い黄褐色	1~2mmの長石、石英を含む。
18	養生土壌 巻体部		(11.0)	外側: ナガ、体部: 緑粘土、黄雲母、赤土、赤土、赤土 内側: ナガ	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 10YR7/3に近い黄褐色	1mm以下の長石、石英、角閃石 を含む。
19	養生土壌 巻体部	縦径 24.0	(15.0)	外側: 口縁部: ハク 内側: ナガ	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
20	養生土壌 巻体部		(12.5)	外側: 口縁部: 体部: 赤おさえ、ケソク 内側: 口縁部: 体部: 赤おさえ、ケソク	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
21	養生土壌 巻体部	縦径 30.2	(28.1)	外側: 口縁部: ハク、下赤土ナガ、赤土 内側: 口縁部: ナガ、緑粘土、下赤土ナガ	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
22	養生土壌 巻体部		(11.6)	外側: 口縁部: 体部: 赤おさえ、ケソク 内側: 口縁部: 体部: 赤おさえ、ケソク	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
23	養生土壌 巻体部		(7.7)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク、ナガ 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ナガ	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
24	養生土壌 巻体部	16.2	(7.2)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ナガ	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
25	養生土壌 巻体部	18.0	(6.0)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ナガ	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
26	養生土壌 巻体部	20.0	(9.5)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク、体部: タクキ 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク、体部: タクキ	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
27	養生土壌 巻体部	21.2	(8.5)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
28	養生土壌 巻体部	16.0	(6.6)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
29	養生土壌 巻体部	16.8	(14.2)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
30	養生土壌 巻体部	16.4	(3.2)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
31	養生土壌 巻体部	19.2	(6.5)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
32	養生土壌 巻体部	21.6	(5.2)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	1mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
33	養生土壌 巻体部	19.0	(6.0)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
34	養生土壌 巻体部	16.5	(6.5)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
35	養生土壌 巻体部	23.2	(6.2)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 10YR66/33に近い黄褐色 内側: 10YR66/33に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英を含む。
36	養生土壌 巻体部	27.2	(7.9)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 2.5Y6/3に近い黄褐色 内側: 2.5Y6/3に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。
37	養生土壌 巻体部	20.5	(8.0)	外側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク 内側: 口縁部: ココナガ、体部: ハク	外側: 2.5Y7/2に近い黄褐色 内側: 2.5Y7/2に近い黄褐色	2mm以下の長石、石英、少量の 角閃石を含む。

38	衛生土器 広口壺	22.0	(8.7)	外底: 赤土ナダ、厚紙: ハク 内底: (1) 緑土、(2) ナダ、磁器下層に緑合色(色目線)	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	1mm以下の突起、金剛石を含む	
39	衛生土器 広口壺	18.6	(8.2)	外底: コナダ 内底: コナダ	外底: 2.5Y7/2C黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	4mm以下の突起、石を多く含む	サンプル番号17
40	衛生土器 広口壺	20.4	(6.8)	外底: コナダ 内底: コナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、石、少量の金剛石を含む	サンプル番号18
41	衛生土器 複合口縁壺	22.0	(5.3)	外底: コナダ 内底: コナダ	外底: 10YR5/2Cに赤い黄褐色 内底: 10YR5/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、赤土、金剛石を含む	サンプル番号20
42	衛生土器 複合口縁壺	22.0	(3.8)	外底: コナダ、厚紙: ハク 内底: コナダ	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、石を含む	
44	衛生土器 複合口縁壺	17.8	(5.1)	外底: コナダ 内底: (赤) ナダ	外底: 2.5Y7/2C黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	2mm以下の突起を含む	サンプル番号28
45	衛生土器 複合口縁壺		(6.4)	外底: コナダ 内底: コナダ	外底: 10YR6/2C黄褐色 内底: 10YR6/2C黄褐色	2mm以下の突起、石を含む	サンプル番号29
46	衛生土器 複合口縁壺		(3.1)	外底: コナダ 内底: 厚紙	外底: 10YR7/2Cに赤い黄褐色 内底: 10YR7/2Cに赤い黄褐色	1mm以下の突起、石を含む	サンプル番号27
47	衛生土器 短頸壺	10.6	(6.6)	外底: (1) 緑土、(2) ナダ、(3) ナダ、(4) ナダ 内底: ナダ	外底: 2.5Y7/2C黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	やや中層、2mm以下の突起、石を含む	サンプル番号21
48	衛生土器 短頸壺	14.6	(6.0)	外底: 厚紙	外底: 10YR6/2C黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	やや中層	サンプル番号22
49	衛生土器 短頸壺	17.2	(10.0)	外底: (1) 緑土、(2) ナダ、(3) ナダ、(4) ナダ 内底: (1) 緑土、(2) ナダ、(3) ナダ、(4) ナダ、(5) 緑合色、(6) 緑合色	外底: 2.5Y5/2C黄褐色 内底: 2.5Y5/2C黄褐色	1mm以下の突起、赤土、黄褐色を含む	サンプル番号20
50	衛生土器 短頸壺	17.8	(5.8)	外底: 厚紙、コナダ、厚紙: ハク 内底: (1) 緑土、(2) ナダ	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色	3mm以下の突起、突起、黄褐色を含む	
51	衛生土器 長頸壺	14.8	(6.6)	外底: コナダ 内底: コナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	1mm以下の突起、石を少量含む	サンプル番号24
52	衛生土器 長頸壺	16.2	(10.2)	外底: 口縁部: コナダ、厚紙: ハク 内底: 厚紙	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	3mm以下の突起、石、少量の金剛石を含む	サンプル番号25
53	衛生土器 長頸壺	13.0	(7.6)	外底: ナダ 内底: ナダ、赤土を含む	外底: 10YR7/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	2mm以下の突起、赤土、少量の炭屑石を含む	
54	衛生土器 長頸壺	11.4	(10.4)	外底: ハク 内底: ナダ、赤土を含む	外底: 2.5Y6/2C黄褐色 内底: 2.5Y5/2C黄褐色	2mm以下の突起、石を含む	サンプル番号34
55	衛生土器 長頸壺	9.8	(7.5)	外底: コナダ 内底: ナダ、厚紙を含む	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	1mm以下の突起、石、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号33
56	衛生土器 長頸壺		(1.1)	外底: ナダ 内底: ナダ、厚紙を含む、厚紙	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、石、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号35
57	衛生土器 広口壺	13.4	(6.0)	外底: 厚紙、口縁部: コナダ 内底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ、ケツ	外底: 2.5Y7/2C黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	2mm以下の突起、石を含む	サンプル番号11
58	衛生土器 長頸壺(厚紙)	12.6	(7.7)	外底: 上: コナダ(厚紙)、下: ハク、厚紙 内底: 上: ナダ、厚紙、下: ハク、厚紙	外底: 10YR6/2C黄褐色 内底: 10YR6/2C黄褐色	やや中層、2mm以下の突起、石、少量の炭屑石を含む	サンプル番号32
59	衛生土器 長頸壺(厚紙)	17.0	(8.1)	外底: 厚紙、下: ナダ 内底: ナダ、厚紙を含む	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、赤土、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号31
60	衛生土器 広口壺	16.0	(14.6)	外底: 口縁部: ナダ、ハク、厚紙、ナダ、ハク 内底: 厚紙、コナダ、厚紙: ナダ(ハク)、下: ナダ(ハク)	外底: 2.5Y7/2C黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	6mm以下の突起、石を含む	
61	衛生土器 小形丸蓋壺	11.2	(9.4)	外底: 厚紙、口縁部: コナダ、厚紙: ナダ 内底: ナダ	外底: 2.5Y7/2C黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	2mm以下の突起、石を含む	サンプル番号10
62	衛生土器 小形丸蓋壺	8.2	(4.3)	外底: 厚紙 内底: ナダ、赤土を含む、緑合色	外底: 2.5Y7/2C黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	やや中層、1mm以下の突起、石、少量の炭屑石を含む	
63	衛生土器 小形丸蓋壺		(8.7)	外底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ、厚紙 内底: (厚紙) ナダ	外底: 2.5Y6/2C黄褐色 内底: 2.5Y6/2C黄褐色	やや中層、2mm以下の突起、石、少量の炭屑石を含む	
64	衛生土器 小形丸蓋壺	7.6	(2.5)	外底: 厚紙、口縁部: コナダ 内底: 厚紙	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、石、赤土、少量の炭屑石を含む	
65	衛生土器 小形丸蓋壺	5.6	(14.4)	外底: 口縁部: コナダ 内底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	やや中層、1mm以下の突起、赤土を含む	
66	衛生土器 高林杯	28.6	(2.8)	外底: 厚紙、口縁部: コナダ 内底: 厚紙、コナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	1mm以下の突起、石、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号103
67	衛生土器 高林杯	21.4	(2.1)	外底: (1) 緑土、(2) ナダ、(3) ナダ、(4) ナダ 内底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ、ハク	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色	3mm以下の突起、石、少量の炭屑石を含む	サンプル番号104
68	衛生土器 高林杯	20.0	(4.0)	外底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ 内底: (1) 緑土、(2) ナダ、(3) ナダ、(4) ナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、金剛石、赤土を含む	サンプル番号66
69	衛生土器 高林杯	24.2	(5.0)	外底: (1) 緑土、(2) ナダ、(3) ナダ、(4) ナダ 内底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ、赤土、少量の炭屑石を含む	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、突起、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号67
70	衛生土器 高林杯	22.0	(4.8)	外底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ 内底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、突起、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号68
71	衛生土器 高林杯	22.0	(5.8)	外底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ 内底: (1) 緑土、(2) ナダ、厚紙: ナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、少量の金剛石、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号65
72	衛生土器 高林杯	24.2	(5.4)	外底: (1) 緑土、(2) ナダ、(3) ナダ、(4) ナダ 内底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	2mm以下の突起、石、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号64
73	衛生土器 高林杯		(6.5)	外底: 口縁部: ナダ 内底: 口縁部: ナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	やや中層	サンプル番号105
74	衛生土器 高林杯	11.8	(4.4)	外底: 口縁部: ナダ、厚紙: 厚紙 内底: ナダ(厚紙)	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	3mm以下の突起、石を含む	サンプル番号78
75	衛生土器 高林杯		(5.2)	外底: (1) 緑土、(2) ナダ、(3) ナダ、(4) ナダ 内底: 口縁部: コナダ、厚紙: ナダ、厚紙: ナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	1mm以下の突起、突起、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号69
76	衛生土器 高林杯		(5.2)	外底: 厚紙、ナダ、厚紙、厚紙 内底: 厚紙: ナダ、厚紙: ナダ、厚紙: ナダ	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y7/2C黄褐色	2mm以下の突起、少量の金剛石、突起を含む	
77	衛生土器 高林杯		(9.5)	外底: 厚紙: ナダ、厚紙: ナダ、厚紙: ナダ 内底: 厚紙: ナダ、厚紙: ナダ、厚紙: ナダ	外底: 2.5Y6/2C黄褐色 内底: 2.5Y6/2C黄褐色	2mm以下の突起、石、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号76
78	衛生土器 高林杯	18.6	(11.9)	外底: ナダ 内底: ナダ	外底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色 内底: 10YR6/2Cに赤い黄褐色	4mm以下の突起、石、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号71
79	衛生土器 高林杯	18.0	(6.0)	外底: コナダ、厚紙: ナダ 内底: ナダ	外底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色 内底: 2.5Y6/2Cに赤い黄褐色	1mm以下の突起、突起、赤土、少量の炭屑石を含む	サンプル番号75

80	男生土器 高林細部	18.0	(3.2)	外面:30ナデ, 口凡12分 内面:ケズリ	外面:2.5V9/2黄褐色 内面:2.5V3/3黄褐色	中や重, 1mm以下の突起, 角閃石を含む。	
81	男生土器 高林細部	18.8	(4.4)	外面:30ナデ, 口凡2分 内面:ケズリ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	2mm以下の突起, 石英, 金剛石, 角閃石を含む。	
82	男生土器 高林細部		(7.3)	外面:ナデ, 2.5ナキ 内面:2.5ナデ, ナデ 1分:口凡1.5(2分) 内面:口縁部, 体部:2.5ナデ, 体部:2.5ナデ	外面:10V7R/4白・黄褐色 内面:2.5V5/2黄褐色	中や重, 2mm以下の突起, 石英, 少量の黒雲母を含む。	サンプル番号70
83	男生土器 高林細部		(7.5)	外面:10ナデ, ココナデ 内面:ナデ	外面:10V7R/4白・黄褐色 内面:2.5V5/2黄褐色	3mm以下の突起, 石英を含む。	サンプル番号73
84	男生土器 高林細部		(8.3)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	中や重	サンプル番号72
85	男生土器 高林細部		(5.0)	外面:口縁部, ナデ 内面:口縁部, ナデ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	2mm以下の突起, 石英を含む。	サンプル番号74
86	男生土器 高林細部	12.0	(3.8)	外面:口縁部, 体部, ハナ 内面:口縁部, ココナデ	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V3/2黄褐色	2mm以下の突起を少量含む。	サンプル番号76
87	男生土器 大形鉢	39.0	(12.4)	外面:口縁部:ココナデ, 胴部, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:2.5ナデ	外面:5V6/2緑・茶色 内面:2.5V3/2黄褐色	2mm以下の突起, 石英, 金剛石, 角閃石を含む。	サンプル番号82
88	男生土器 大形鉢	40.0	(12.5)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	2mm以下の突起, 石英, 少量の黒雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号80
89	男生土器 大形鉢	40.0	(12.7)	外面:口縁部:ココナデ, 胴部, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色	外面:5V6/2緑・茶色 内面:2.5V3/2黄褐色	3mm以下の突起, 少量の金剛石, 角閃石を含む。	サンプル番号80
90	男生土器 大形鉢	41.0	(13.6)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色	外面:2.5V6/2黄褐色 内面:2.5V5/2黄褐色	3mm以下の突起, 少量の金剛石を含む。	サンプル番号80
91	男生土器 大形鉢	42.0	(13.6)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色	外面:10V7R/4白・黄褐色 内面:10V7R/4白・黄褐色	4mm以下の突起, 石英, 少量の黒雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号80
92	男生土器 大形鉢	42.0	(13.6)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:2.5ナデ	外面:5V6/2緑・茶色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	4mm以下の突起, 石英, 金剛石, 角閃石を含む。	サンプル番号83
93	男生土器 大形鉢	39.0	(10.2)	外面:口縁部:ココナデ, 胴部, 体部:ケズリ, 腐化 内面:口縁部:ココナデ, 体部:ナデ, 2.5ナデ	外面:2.5V5/2黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	3mm以下の突起, 角閃石を含む。	サンプル番号81
94	男生土器 大形鉢口部	48.0	(14.5)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:ハナ, 2.5ナデ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V5/2黄褐色	3mm以下の突起, 石英, 少量の黒雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号80
95	男生土器 大形鉢口部		(7.6)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	4mm以下の突起, 石英, 黒雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号86
96	男生土器 大形鉢口部		(8.0)	外面:口縁部:ココナデ, 胴部, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:ハナ, 2.5ナデ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	4mm以下の突起, 少量の黒雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号84
97	男生土器 大形鉢口部		(8.7)	外面:口縁部:ココナデ, 胴部, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色	外面:10V7R/4白・黄褐色 内面:10V7R/4白・黄褐色	4mm以下の突起, 石英, 少量の黒雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号87
98	男生土器 大形鉢口部		(10.1)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:ハナ, 2.5ナデ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	4mm以下の突起, 石英, 黒雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号83
99	男生土器 大形鉢	50.3	(14.0)	外面:ハナ 内面:体部:ハナ	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	6mm以下の突起, 石英を含む。	サンプル番号88
100	男生土器 鉢	32.0	(8.0)	外面:ナデ 内面:口縁部:ナデ, 胴部, ハナ, 2.5ナデ, 黒褐色	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	4mm以下の突起, 角閃石を含む。	サンプル番号89
101	男生土器 鉢	17.8	8.5	外面:口縁部:ココナデ, 下ナ, ケズリ, 胴部 内面:ハナ	外面:2.5V6/2黄褐色 内面:5V6/2緑・茶色	5mm以下の突起, 石英を含む。	サンプル番号84
102	男生土器 鉢	15.2	7.2	外面:ナデ, 胴部, 黒褐色 内面:ハナ	外面:2.5V6/2黄褐色 内面:2.5V6/2黄褐色	中や重	サンプル番号81
103	男生土器 鉢	15.3	7.8	外面:2.5ナキ 内面:ハナ, 下ナ, 2.5ナデ	外面:2.5V6/2黄褐色 内面:2.5V6/2黄褐色	中や重	サンプル番号82
104	男生土器 鉢	16.0	8.6	外面:口縁部 内面:胴部, ナデ	外面:7.0V7R/6黄褐色 内面:7.0V7R/6黄褐色	3mm以下の突起, 石英を含む。	サンプル番号85
105	男生土器 鉢		(8.6)	外面:タタキ 内面:胴部, ハナ	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:10V7R/4白・黄褐色	中や重	サンプル番号80
106	男生土器 低部細部		(7.5)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5V6/2黄褐色 内面:2.5V6/2黄褐色	4mm以下の突起, 石英を含む。	サンプル番号80
107	男生土器 低部細部		(10.0)	外面:黒褐色, タタキ, ナデ 内面:ハナ, ナデ	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	中や重, 2mm以下の突起, 石英を少量含む。	サンプル番号81
108	男生土器 低部細部		(3.7)	外面:口縁部, タタキ, ナデ 内面:ナデ	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	中や重, 1mm以下の突起, 石英を少量含む。	サンプル番号83
109	男生土器 低部細部		(3.7)	外面:黒褐色, タタキ 内面:黒褐色, ハナ	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	中や重	サンプル番号82
110	男生土器 低部細部		(12.7)	外面:黒褐色, ナデ 内面:ハナ, ナデ	外面:2.5V6/2黄褐色 内面:2.5V6/2黄褐色	中や重	サンプル番号80
111	男生土器 鉢	16.4	(4.2)	外面:体部, 口縁部:ココナデ, 体部:ハナ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色	外面:2.5V6/2黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	3mm以下の突起, 石英, 少量の金剛石, 角閃石を含む。	サンプル番号80
112	男生土器 鉢	14.4	(8.6)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ハナ 内面:口縁部:ココナデ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V6/2黄褐色	1mm以下の突起, 少量の黒雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号80
113	男生土器 鉢	14.4	(7.7)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ハナ, 腐化 内面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	5mm以下の突起, 石英, 角閃石を含む。	サンプル番号80
114	男生土器 鉢	16.6	(7.8)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ハナ, 腐化 内面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色	外面:2.5V5/2黄褐色 内面:2.5V7R/2黄褐色	2mm以下の突起, 石英, 金剛石, 角閃石を含む。	サンプル番号80
115	男生土器 鉢	16.6	(7.2)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ハナ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色	外面:10V7R/4白・黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	2mm以下の突起, 石英, 角閃石を含む。	サンプル番号87
116	男生土器 鉢	18.8	(5.3)	外面:体部:タタキ 内面:体部:ハナ	外面:2.5V6/3白・黄褐色 内面:2.5V6/3白・黄褐色	3mm以下の突起, 石英を含む。	サンプル番号83
117	男生土器 鉢	10.4	(5.0)	外面:ナデ, ハナ 内面:口縁部:ナデ, 体部:ハナ	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	中や重, 1mm以下の突起, 少量の角閃石を含む。	サンプル番号80
118	男生土器 鉢	18.9	(3.2)	外面:胴部 内面:胴部	外面:2.5V7/2黄褐色 内面:2.5V7/2黄褐色	2mm以下の突起, 石英を含む。	サンプル番号80
119	男生土器 鉢	23.4	(3.8)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ナデ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:ナデ, 黒褐色	外面:10V7R/4白・黄褐色 内面:2.5V5/2黄褐色	3mm以下の突起, 石英, 金剛石, 角閃石を含む。	サンプル番号80
120	男生土器 鉢	12.8	(4.2)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:ナデ 内面:口縁部:ココナデ, 体部:ナデ	外面:2.5V6/2黄褐色 内面:2.5V6/2黄褐色	中や重, 1mm以下の突起, 角閃石を含む。	サンプル番号80
121	男生土器 鉢	12.8	(8.0)	外面:口縁部:ココナデ, 体部:黒褐色 内面:口縁部:ココナデ, 体部:ナデ	外面:10V7R/4白・黄褐色 内面:10V7R/4白・黄褐色	1mm以下の突起, 角閃石を含む。	サンプル番号80

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	赤生土器 鉢	22.0		(7.0)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR5/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の灰石、石炭を含む。	
2	赤生土器 壺	16.0		(2.0)	外面:胎土面;タタキ、ハケ 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰褐色 内面:2.5Y7/2灰褐色	2mm以下の灰石、石炭を含む。	
3	赤生土器 高口鉢	14.8		(1.6)	外面:ゴロナゲ 内面:ゴロナゲ	外面:10YR5/4に濃い黄褐色 内面:10YR5/2に濃い黄褐色	3mm以下の灰石、炭粉を含む。	
4	赤生土器 壺形鉢	22.0		(11.0)	外面:磨滅 内面:ナゲ	外面:10YR5/4に濃い黄褐色 内面:10YR5/4に濃い黄褐色	1mm以下の灰石、炭粉、角閃石を含む。	
5	赤生土器 壺形鉢	6.0		(3.4)	外面:磨滅;ヒガキヤ 内面:磨滅	外面:10YR5/3に濃い黄褐色 内面:2.5Y7/2黄褐色	1mm以下の灰石、炭粉、角閃石を含む。	

V区 SDO1

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	黒色土器 壺形鉢	6.2		(2.0)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR7/2に濃い黄褐色 内面:10YR2/1黒色	1~2mmの灰石、石炭を含む。	
2	土師器 杯形鉢	7.2		(1.3)	外面:ナゲ 内面:ナゲ	外面:2.5Y7/2灰褐色 内面:2.5Y7/2灰褐色	中々面	

VI区 包含層

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	赤生土器 杯形鉢	7.1		(1.6)	外面:ナゲ 内面:ナゲ	外面:N7/0灰色 内面:N7/0灰色	面	

V区 SDO2

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	土師器土器 脚鉢			(0.0)	外面:磨ナゲ	外面:10YR7/3に濃い黄褐色	1~2mmの灰石、石炭を含む。	

III区 SDO1

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	土師器 杯形鉢	7.4		(1.6)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰褐色 内面:2.5Y7/2灰褐色	中々面	

III区 SDO3

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	土師器 杯形鉢	7.8		(1.2)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/3灰褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	中々面	

IV区 ①層

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	赤生土器 壺	13.0		(7.1)	外面:磨滅;磨滅 内面:磨滅	外面:10Y2/1黒色 内面:10YR6/2灰白色	中々面、2mm以下の灰石、石炭を少量含む。	
2	赤生土器 壺	14.0		(2.7)	外面:磨滅 内面:磨滅;口縁部;ゴロナゲ	外面:10YR6/4に濃い黄褐色 内面:10YR6/4に濃い黄褐色	2mm以下の灰石、炭粉、角閃石を含む。	
3	赤生土器 高口鉢	19.8		(4.8)	外面:磨滅;ゴロナゲ 内面:ゴロナゲ	外面:10YR6/4に濃い黄褐色 内面:10YR6/4に濃い黄褐色	2mm以下の灰石、炭粉、角閃石を含む。	
4	黄灰土器	6.2		(4.1)	外面:磨滅;ナゲ	外面:2.5Y7/3黄褐色	1cm次の小石、4mm以下の灰石、石炭を多く含む。	

IV区 ②層

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	土師器 杯形鉢	22.0		(2.0)	外面:ゴロナゲ 内面:ナゲ;磨滅	外面:10Y2/1黒色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の灰石、石炭を少量含む。	
2	須恵器 高口鉢			(9.0)	外面:面磨滅;磨滅;胎土面 内面:胎土面	外面:N4/0灰色 内面:2.5Y6/1黄褐色	面、2mm以下の灰石、石炭を少量含む。	
3	須恵器 高口鉢			(8.0)	外面:胎土面 内面:胎土面	外面:N6/0灰色 内面:N6/0灰色	面	
4	須恵器 杯形鉢	7.8		(2.2)	外面:胎土面 内面:胎土面	外面:N6/0灰色 内面:N7/0灰色	面	
5	黒色土器 壺形鉢	7.0		(2.0)	外面:磨滅 内面:ナゲ	外面:10YR5/3に濃い黄褐色 内面:N1.7/1黒色	中々面	

IV区 SE01

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	土師器土器 脚鉢			(0.0)	外面:磨ナゲ	外面:10YR7/3に濃い黄褐色	1~2mmの灰石、石炭を含む。	

V区 SDO1

番号	部種	寸法 (cm)			形質・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	高さ				
1	須恵器 鉢	7.0		1.5	外面:ナゲ 内面:ナゲ	外面:N7/0灰白色 内面:N7/0灰白色	焼直面	
2	須恵器 高口鉢	7.0		0.4	外面:ナゲ 内面:ゴロナゲ	外面:N7/0灰白色 内面:	1~2mmの灰石、炭石を含む。	
3	須恵器 壺	12.6		0.0	外面:ナゲ 内面:胎土面;磨滅;ナゲ	外面:N6/0灰色 内面:	1mm以下の灰石、炭石を含む。	

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	赤生土器 鉢	27.0		(7.7)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の長石、石英を含む。	
2	赤生土器 壺	16.0		(2.3)	外面:磨滅、タタキ、ハケ 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の長石、石英を含む。	
3	赤生土器 広口壺	14.8		(1.6)	外面:コナナア 内面:コナナア	外面:10YR5/4(2.5)黄褐色 内面:10YR5/2(1.5)黄褐色	2mm以下の長石、雲母を含む。	
4	赤生土器 香炉型	調理 22.0		(11.1)	外面:磨滅 内面:ナデ、指かき、タコ	外面:10YR5/4(2.5)黄褐色 内面:10YR5/4(2.5)黄褐色	1mm以下の長石、雲母、角閃石を含む。	
5	赤生土器 壺底群	6.0		(3.6)	外面:磨滅、タタキ 内面:磨滅	外面:10YR3/2(1.5)黄褐色 内面:内面:2.5Y4.2黄褐色	1mm以下の長石、雲母、角閃石を含む。	

V区 SD1

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	黒色土器 瓶底群	6.2		(2.0)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR3/2(1.5)黄褐色 内面:10YR2/1黒色	1~2mmの長石、石英を含む。	
2	土師器 杯底群	7.2		(1.7)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	全々密	

VI区 ①層

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	赤生土器 杯底群	7.1		(1.6)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N7.0灰白色 内面:N7.0灰白色	密	

V区 SD2

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	土師器土器 底群			(6.0)	外面:磨ナデ	外面:10YR3/2(1.5)黄褐色	1~2mmの長石、石英を含む。	

III区 SD1

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	土師器 杯底群	7.4		(1.6)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	全々密	

III区 SD3

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	土師器 杯底群	7.8		(1.3)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/3黄褐色 内面:2.5Y7/3黄褐色	全々密	

IV区 ①層

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	赤生土器 壺	13.0		(7.7)	外面:磨滅、黒染 内面:磨滅	外面:10Y2/1黒色 内面:10YR8/2灰白色	全々密、2mm以下の長石、石英を少量含む。	
2	赤生土器 壺	14.0		(2.7)	外面:磨滅 内面:磨滅、口縁部、コナナア	外面:10YR8/4(2.5)黄褐色 内面:10YR8/4(2.5)黄褐色	2mm以下の長石、雲母、角閃石を含む。	
3	赤生土器 高杯	19.6		(4.6)	外面:磨滅、コナナア 内面:コナナア	外面:10YR8/4(2.5)黄褐色 内面:10YR8/4(2.5)黄褐色	2mm以下の長石、雲母、角閃石を含む。	
4	管状土器	6.2		(4.1)	外面:磨滅、ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色	1cm以下の長石、4mm以下の長石、石英を多く含む。	

IV区 ②層

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	土師器 壺	22.0		(2.9)	外面:コナナア 内面:ナデ、絞合	外面:10Y2/1黒色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の長石、石英を含む。	
2	赤生土器 壺口縁部			(9.0)	外面:磨滅3条、磨滅底状文 内面:磨滅ナデ	外面:N4.0灰白色 内面:2.5Y6/1黄褐色	密、2mm以下の長石、石英を少量含む。	
3	赤生土器 壺口縁部			(3.3)	外面:同輪ナデ 内面:自然輪ナデ、磨滅ナデ	外面:N6.0灰白色 内面:N6.0灰白色	密	
4	赤生土器 壺底群	7.8		(2.2)	外面:同輪ナデ 内面:同輪ナデ	外面:N6.0灰白色 内面:N7.0灰白色	密	
5	黒色土器 壺底群	7.0		(2.0)	外面:磨滅 内面:ナデ	外面:10YR3/2(1.5)黄褐色 内面:N1.7/1黒色	全々密	

IV区 SE1

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	土師器土器 壺			(9.5)	外面:磨ナデ	外面:10YR7/3(1.5)黄褐色	1~2mmの長石、石英を含む。	

V区 SD1

番号	部材	質量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	高さ				
1	赤生土器 壺	7.0		1.8	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N7.0灰白色 内面:N7.0灰白色	焼直密	
2	赤生土器 壺	7.0		(1.4)	外面:ナデ 内面:コナナア	外面:N7.0灰白色 内面:	1~2mmの長石、石英を含む。	
3	赤生土器 壺	12.5		(1.0)	外面:ナデ 内面:磨滅、ナデ、磨滅、ナデ	外面:N6.0灰白色 内面:	1mm以下の長石、石英を含む。	

4	東山御 造	10.2	(5.0)	外面:外割:ナブ, 武蔵:ナブ 内面:徳島:ナブ, 盛岡:ナブ	外面:N6,0灰色 内面:N6,0灰色	密	
5	染付 書掛	6.8	(2.0)	外面: 内面:	施薬:10YR/1灰白色 内面:緑色	密	口縁部外壁 凹凸様式
6	染付 小皿	7.0	(1.5)	外面: 内面:	施薬:10YR/1灰白色 内面:緑色	凹凸造	
7	染付 鉢	9.2	1.6 4.1	外面: 内面:	施薬:2.5YR/0灰白色 内面:緑色	積立	肩に角 龍巻線 面方縁立
8	染付 鉢	10.0	(5.0)	外面: 内面:	胎土:N8,0灰白色 施薬:10GYR/1明緑灰色 底薬:10GYR/1明緑灰色	密	口縁部凹文
9	染付 鉢	11.1	(4.0)	外面: 内面:	施薬:7.5GYR/1明緑灰色 内面:緑色	積立造	裏面
10	陶器 蓋		(2.0)	外面:白コナテ 内面:白コナテ	外面:7.5YR3/2黄褐色 内面:2.5YR3/2黄褐色	密	底面赤切り
11	肥前浜御 焼 瓶	5.4	(1.2)	外面: 内面:	胎土:2.5YR/2灰白色 施薬:7.5Y/4/0灰白色 底薬:6YR/7/3にふいご焼色	密	
12	甲石焼 種鉢	12.6	(2.2)	外面:ナブ 内面:	外面:10YR/1焼成土 内面:7.0R/3/2にふいご焼色	2mm以下の石炭, 長石を含む	内面使用による 磨痕
13	肥前 甲石鉢	14.6	(3.7)	外面: 内面:	胎土:10R/5/3赤褐色 施薬:2.5YR3/2黄褐色 底薬:2.5YR3/2黄褐色	密	刷毛目
14	瓦質土器 土皿	7.5	(1.9)	外面:ナブ 内面:ナブ	外面:N4,0灰色 内面:N5,0灰色	密	
15	瓦質土器 土皿	11.4	(2.1)	外面:ナブ 内面:ナブ	外面:7.5YR/4/2黄褐色 内面:7.5YR/4/2黄褐色	密	
16	瓦質土器 鉢	15.0	(2.0)	外面:ナブ 内面:ナブ	外面:トシ/焼成土 内面:10YR/1/焼成土	1mm以下の石炭, 長石を含む	
17	瓦質土器 火鉢	25.2	(6.8)	外面:ナブ 内面:ナブ, ハケテ	外面:N7,0灰色 内面:N4,0灰色	密	
18	瓦質土器 火鉢	25.2	(6.8)	外面:ナブ 内面:ナブ, 西沢江	外面:N3,0黄褐色 内面:N3,0黄褐色	密	点文
19	瓦質土器 火鉢	18.0	(3.0)	外面:ナブ 内面:ナブ	外面:5Y2/1黒色 内面:5Y2/1黒色	0.5mm以下の石炭, 長石, 雲母, 角閃石を含む	
20	瓦質土器 地持	26.2	(2.7)	外面:口縁部:コナテ, 体部:指頭立取 内面:口縁部:コナテ, 体部:コナテ	外面:2.5YR/1灰白色 内面:	密	
21	瓦質土器 地持	26.2	(2.5)	外面:口縁部:コナテ, 体部:指頭立取 内面:口縁部:コナテ, 体部:コナテ	外面:N3,0黄褐色 内面:	密	
22	土師器 火鉢			外面:ナブ 内面:ナブ	外面:7.5YR8/4黄褐色 内面:	1mm以上の石炭, 長石, 雲母, 角閃石を含む	

種別 SK01

番号	器種	質量 (g)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	底厚				
1	上野型 鉢	28.8		(1.6)	外面:ナブ 内面:ナブ	外面:7.5YR3/2黄褐色 内面:7.5YR5/2黄褐色	1mm以下の石炭, 長石, 雲母を含む	
2	東山御 高戸				外面:ナブ 内面:ナブ	外面:7.5YR3/2黄褐色 内面:5R6/1黄灰色	1mm以下の石炭, 長石, 雲母を含む	

種別 SK02

番号	器種	質量 (g)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	底厚				
1	染付 蓋	18.3		(1.2)	外面: 内面:	胎土:N7/0灰白色 施薬:2.5GYR/1(ト)フ灰色	密	
2	寄附 鉢	12.6		(2.7)	外面: 内面:	胎土:N7/0灰白色 施薬:7.5GYR/1緑灰色	密	
3	染付 皿	18.0		(3.0)	外面:ナブ 内面:ナブ	施薬:7.5YR/1灰白色 内面:黄灰色 胎土:2.5YR/1灰白色	積立	
4	肥前焼 小彫刻	9.3		(3.3)	外面:ヘラケツリ, ナブ 内面:ナブ	外面:10R/1赤褐色 内面:2.5YR5/1黄灰色	1mm以下の石炭, 長石を含む	

土師器

番号	器種	質量 (g)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		11径	底径	底厚				
1	瓦質土器 土皿			(6.8)	外面: 内面:	外面:7.5YR/1灰白色 内面:2.5YR/1灰白色	1mm以下の石炭, 長石を含む	
2	須磨型 瓦葺蓋	14.0		(6.6)	外面:指頭立取, コナテ 内面:指頭立取, コナテ	外面:N5,0灰色 内面:N5,0灰色	1mm以下の石炭, 長石を少々含む	
3	須山御 鉢蓋	12.6		(1.5)	外面:ナブ 内面:ナブ	外面:N7/0灰白色 内面:N7/0灰白色	積立	
4	土師蓋 鉢	27.6		(2.1)	外面:指頭立取, 洗いハケ 内面:30方田のハケ, 指頭立取	外面:10YR5/4にふいご黄褐色 内面:2.5YR/2黄褐色	1.5mm以下の石炭, 長石, 雲母を含む	口縁部:凹溝状 の筋
5	須磨型 杯蓋				外面: 内面:口縁部:コナテ	外面:N7/0灰白色 内面:N5,0灰色	密	
6	須山御 杯蓋	12.6		(2.1)	外面:ナブ 内面:ナブ	外面:N7/0灰白色 内面:N7/0灰白色	密	
7	須磨型 杯蓋	13.2		(3.0)	外面:即転ナブ 内面:即転ナブ	外面:N5,0灰色 内面:N4,0灰色	1~2mmの石炭, 長石を含む	
8	須磨型 杯蓋	14.0		(3.2)	外面:口縁部:ナブ, 武蔵:ヘラケツリ 内面:ナブ	外面:N6,0灰色 内面:N7/0灰白色	密	
9	須山御 杯蓋	4.2		(1.7)	外面: 内面:	外面:N7/0灰白色 内面:N6,0灰色	密	
10	海老島 杯蓋	7.0		(3.0)	外面:ナブ 内面:ナブのちナブ	外面:N7/0灰白色 内面:N6,0灰色	密	

11	関東森林	12.4		4.0	外面:ヨコナガ、ヘラケツジ 内面:ヨコナガ	外面:N6/0灰色 内面:N6/0灰色	紙	
12	島付紙	14.2		2.4	外面: 内面:	外面:透明紙 裏面:藍色 厚さ:2.53mm 内面:灰白色	紙	
13	関東山産物	12.2		3.1	外面:白練紙、ヨコナガ 内面:白練紙、ヨコナガ	外面:N6/0灰色 内面:N7/0灰色	種紙類	
14	関東紙類	13.0		2.6	外面:ナガ 内面:ナガ	外面:N6/0灰色 内面:N5/0灰色	紙	
15	関東紙類	13.4		3.7	外面:印刷ナガ 内面:印刷ナガ	外面:N3/0灰色 内面:10YR7/1灰色	1~2mm以下の石灰、長石を含む。	
16	関東紙類		3.8	1.4	外面:ヨコナガ 内面:ヨコナガ	外面:N7/0灰色 内面:N7/0灰色	種紙類	
17	養生上部 遮断部		11.8	3.4	外面:遮断:押断圧版 内面:印刷:糊紙のため不可	外面:2.5Y2.1藍色 内面:5YB.1藍色	3mm以下の石灰、長石、角閃石を含む。	
18	遮断子				長さ:2.9、幅:3.05、厚さ:0.7	外面:5YR6.4棕色 内面:7.5YR8/4産黄褐色	2mm以下の石灰、長石を含む。	

Ⅷ区 鋼線鋼材

番号	仕様	質量 (kg)		形状・寸法の特長	色調	取上	備考
		口徑	巻巻				
1	ストレインバー	長さ:7.3m、	径:2.5cm、	厚さ:1.0cm、	重さ:26.1kg		

写 真 图 版

図版 I
遺跡航空写真

I・II区全景 (北から)



IV・V・VI区全景 (南から)



III区全景 (北から)



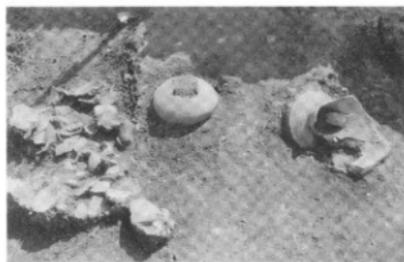
V区第2遺構面,VI区全景 (北から)



I区 西壁土層堆積状況



II区 東壁土層堆積状況



I区 10層土器出土状況 1



I区 10層土器出土状況 2



I区 10層木質遺物出土状況



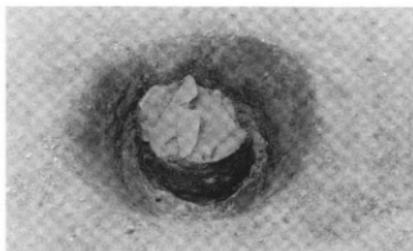
II区 SR01 (北から)



II区 SR02 (東から)



II区 ST01 遺物出土状況



Ⅱ区 SK01遺物出土状況



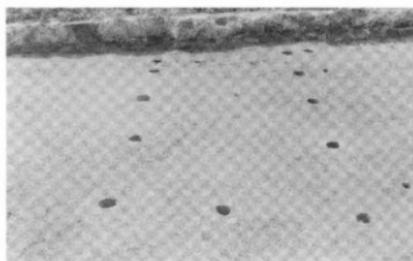
Ⅱ区 SK02



Ⅲ区 SK04・05 (北から)



Ⅲ区 SX01 (西から)



Ⅲ区 SB01 (東から)



Ⅳ区 全景 (南から)



Ⅳ区 SE01



Ⅳ区 低地完掘状況 (南から)



Ⅴ区 SD201 (北から)



Ⅴ区 SD202 (北から)



Ⅴ区 SD203 (南から)



Ⅴ区 SD101 (北から)



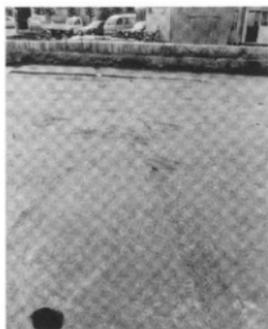
Ⅴ区 SD103・104 (北から)



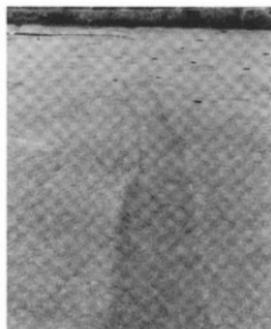
Ⅴ区 SD102 (西から)



Ⅲ区 SD01 (東から)



Ⅲ区 SD02 (東から)



Ⅲ区 SD03 (東から)



Ⅶ区 全景(南から)



Ⅶ区 全景(北から)



Ⅶ区 東壁土層堆積状況



Ⅶ区 SX01・SK01完掘状況(東から)



Ⅶ区 SX01土層堆積状況(東から)



Ⅶ区 SD01完掘状況(西から)



Ⅶ区 SD01土層堆積状況



Ⅶ区 北半鋤溝群完掘状況(東から)



12-1

1 SR01·02出土土器



16-1

2 II区SK01出土土器



15-6



15-3



15-5

3 II区ST01出土土器



15-1





24-29



23-16



25-54



23-21



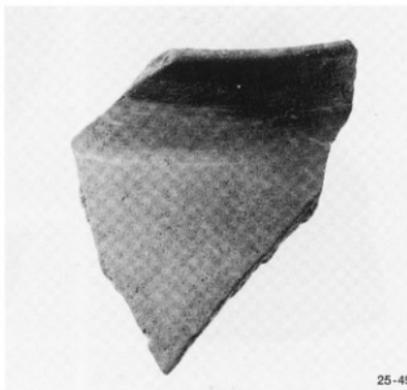
24-37



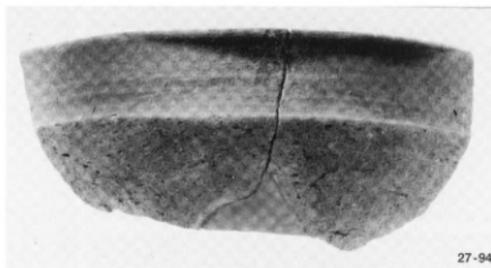
24-36



24-25



25-49



I区10層出土土器 3



26-74



28-103

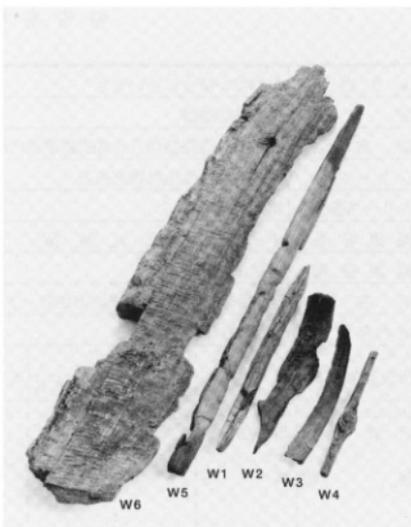


28-102



29-145

1 I区10層出土土器4



2 I区10層出土木製品



59-7



59-8



59-11

3 VII区土壇層出土土器

報告書抄録

ふりがな	むねたかぼうじろいせき							
書名	宗高坊城遺跡							
副書名	都市計画道路福岡三谷線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第二冊							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第68集							
編集者名	小川 賢, 山元 敏 裕							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087(839)2636							
発行年月日	平成16年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
むねたかぼうじろ 宗高坊城 いせき 遺跡	たかまつし 高松市 はやしちょう 林 町	37201	遺跡番号	34° 17' 50"	134° 04' 33"	H.11.3.23 ～ H.11.9.17	4,058 m ²	都市計画 道路福岡 三谷線建 設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
宗高坊城 遺跡	集 落	弥生時代 後 平 安 時 代	旧河道, 土器棺墓, 土坑 溝跡	弥生土器, 木製品 土師器, 黒色土器				
		江戸 時 代	桑里関連の溝跡, 出水状遺構	陶磁器				

都市計画道路福岡三谷線街路事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
第二冊

宗高坊城遺跡

編集・発行 高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号
発行日 平成16年3月31日
印刷 有限会社 中央ファイリング